

令和7年度
第3回 三重県河川整備計画
流域委員会

二級河川 三滝川・海蔵川
(第3回流域委員会)

令和7年9月25日





目次

1. **これまでの経緯 [変更]**
2. **流域の概要**
3. **現在の計画**
4. **前回流域委員会での意見・回答 [新規]**
5. **第1回住民アンケート調査結果**
6. **利水の現状と課題**
7. **環境の現状と課題**
8. **治水の現状**
9. **気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題**
10. **治水計画における見直しの方向性**
11. **治水計画の見直し [新規]**
12. **河川整備計画（原案）（案） [新規]**
13. **今後の進め方 [変更]**



目次



1. **これまでの経緯 [変更]**
2. 流域の概要
3. 現在の計画
4. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
5. 第1回住民アンケート調査結果
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 治水の現状
9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
10. 治水計画における見直しの方向性
11. 治水計画の見直し [新規]
12. 河川整備計画（原案）（案） [新規]
13. 今後の進め方 [変更]

■これまでの経緯



第1回 流域委員会（令和6年8月23日）

- ✓流域の概要、現地視察
- ✓治水、利水、環境の現状と課題

第1回アンケート （令和6年12月～令和7年1月）

- ✓関係住民の意見聴取
（流域の概要、治水、利水、環境の
現状と課題）

第2回 流域委員会（令和7年5月13日）

- ✓気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
- ✓治水計画における見直しの方向性

第3回 流域委員会（令和7年9月25日）

- ✓河川整備計画(原案)(案)

今回



第2回アンケート （令和7年10月）

- ✓関係住民の意見聴取
（河川整備計画(原案)(案)）

第4回 流域委員会（令和7年 冬頃）

- ✓河川整備計画(原案)

関係機関協議・パブコメ・関係市町長意見聴取

河川整備計画策定(令和7年度中)



目次



1. これまでの経緯 [変更]
- 2. 流域の概要**
3. 現在の計画
4. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
5. 第1回住民アンケート調査結果
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 治水の現状
9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
10. 治水計画における見直しの方向性
11. 治水計画の見直し [新規]
12. 河川整備計画（原案）（案） [新規]
13. 今後の進め方 [変更]



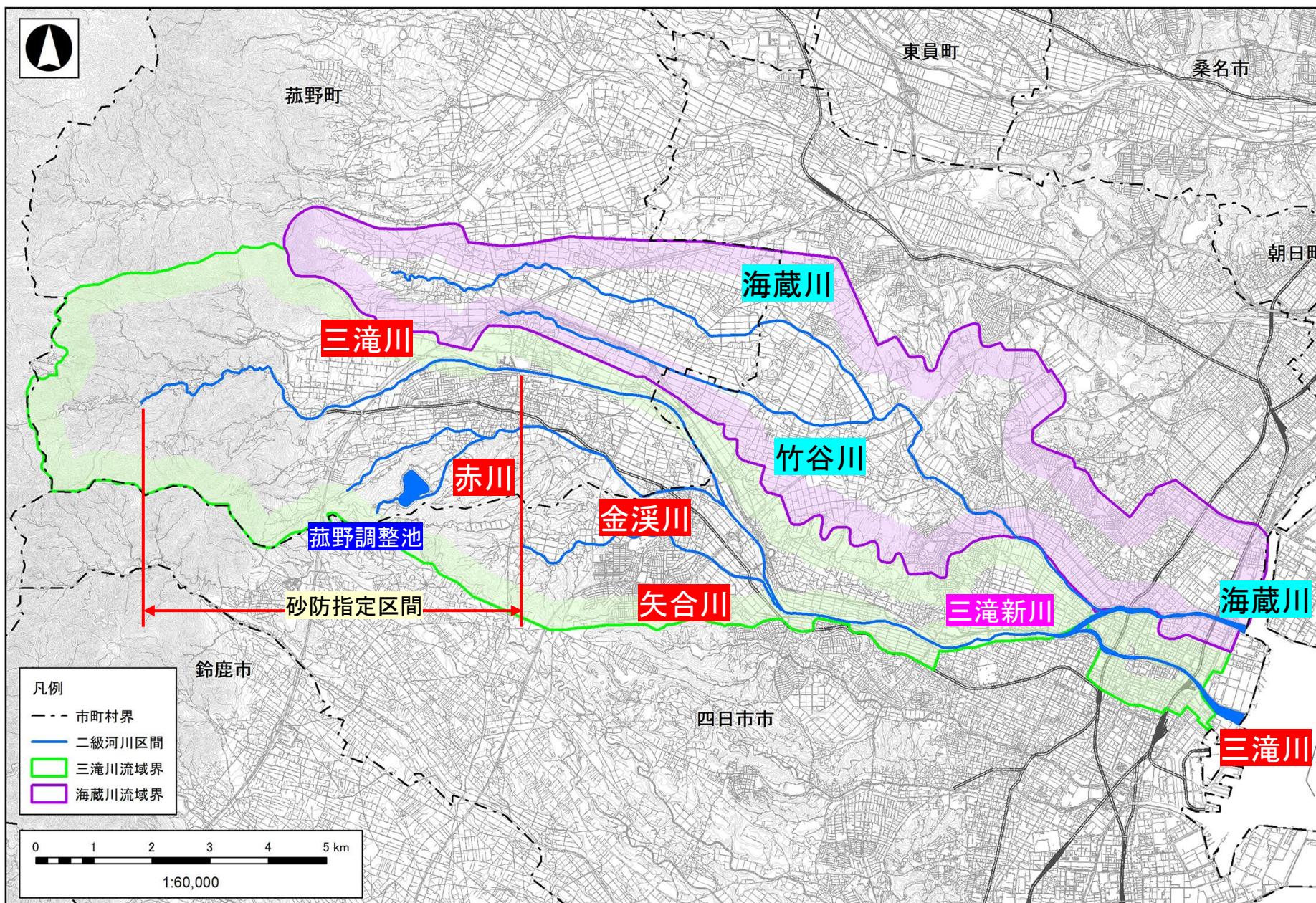
■三滝川流域の概要

- **三滝川**(みたきがわ)は、**四日市市・菰野町**を流域とする、管理延長約23.3kmの二級河川である。
- 河床勾配は1/15～1/700で、上流域は溪流となっている。

三滝川流域
 流域面積: 約62.38km²
 管理延長: 約23.3km

□関係市町:**四日市市**、**菰野町**

□支川:**金溪川**(かんだにかわ)、**矢合川**(やごうがわ)、**赤川**(あかがわ)



三滝川_JR関西本線横断部
(下流域)



三滝川_高角橋(たかつのばし)上流
(中流域)



三滝川_清気橋(せいきばし)下流
(上流域)

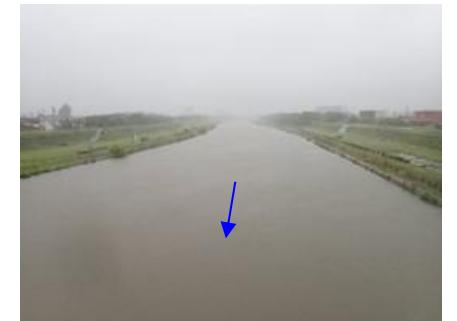
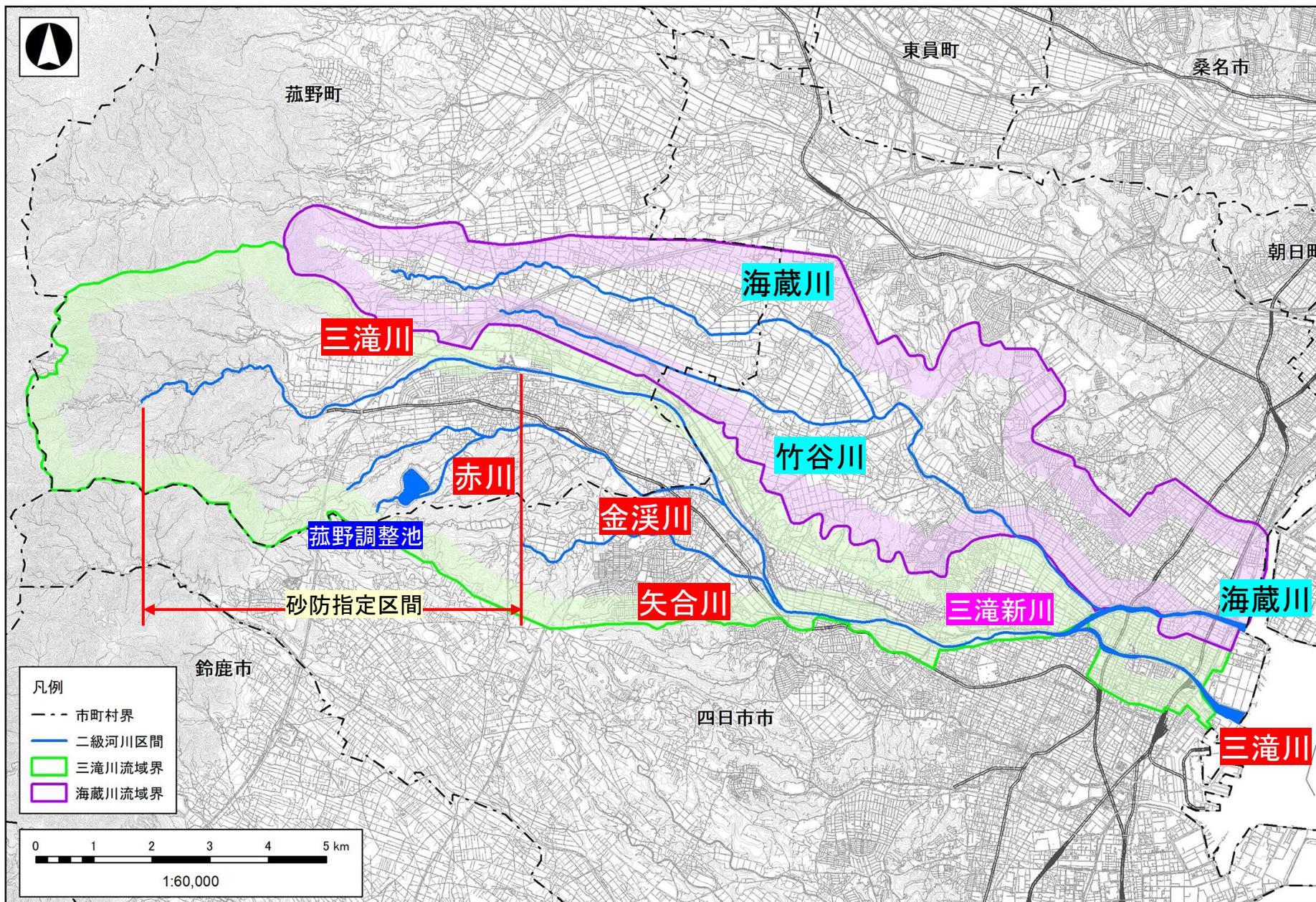


海蔵川流域の概要

- 海蔵川(かいぞうがわ)は、四日市市・菰野町を流域とする、管理延長約18.7kmの二級河川である。
- 河床勾配は1/150~1/700で、全体的に緩やかな流れ。

海蔵川流域
 流域面積: 約43.82km²
 管理延長: 約18.7km

- 関係市町: 四日市市、菰野町
- 支川: 竹谷川(たけたにがわ)



海蔵川_新開橋(しんかいばし)上流(下流域)

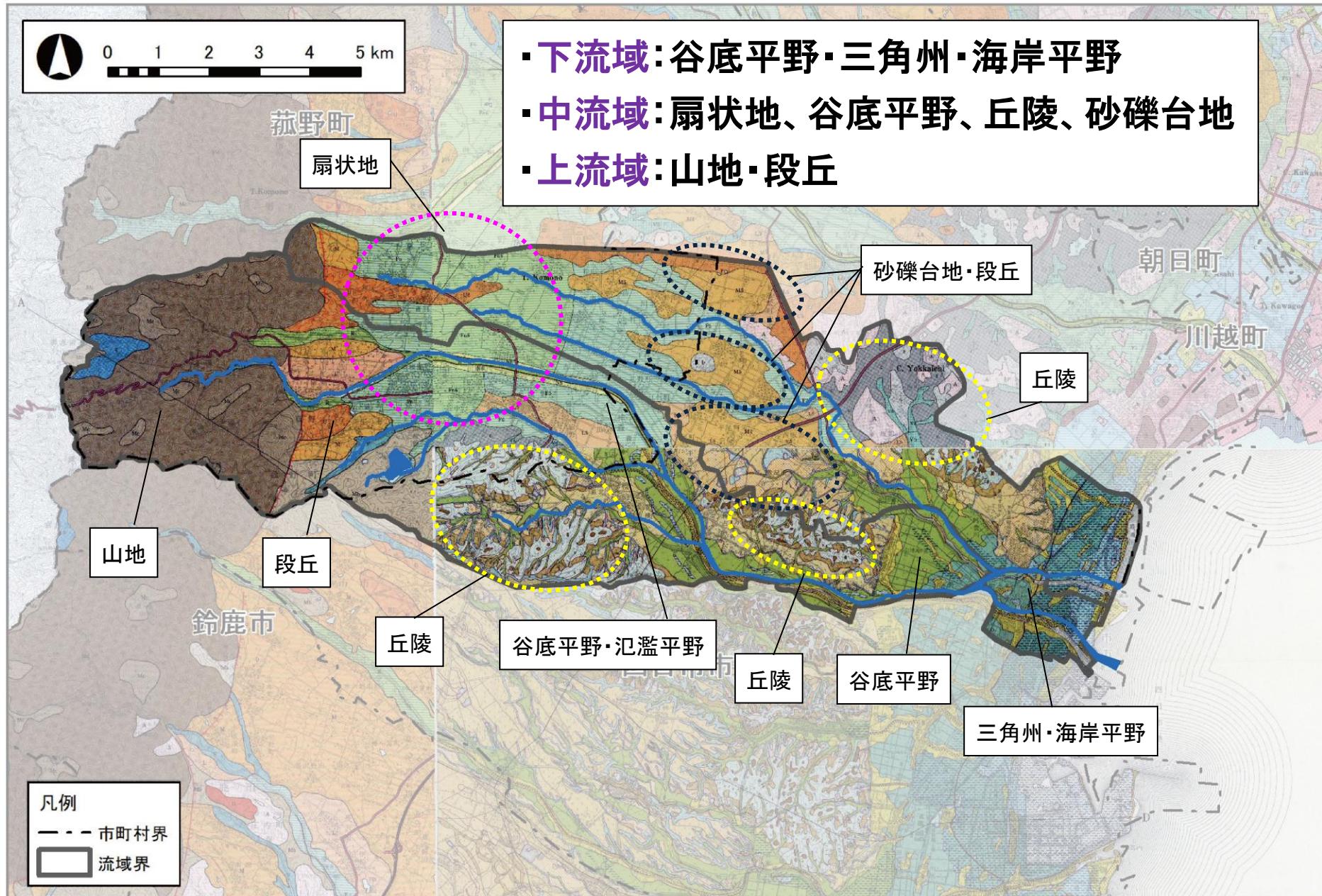


海蔵川_四ッ谷橋(よつやばし)上流(中流域)



海蔵川_岡橋(おかばし)下流(上流域)

- 流域の地形は、東西方向に変化に富んだ地形を呈している。
- 下流域は三角州・海岸平野と谷底平野、中流域は川沿いに扇状地と谷底平野が広がり、周辺には丘陵、砂礫台地が分布する。上流域は山地であり、山麓に段丘が分布する。

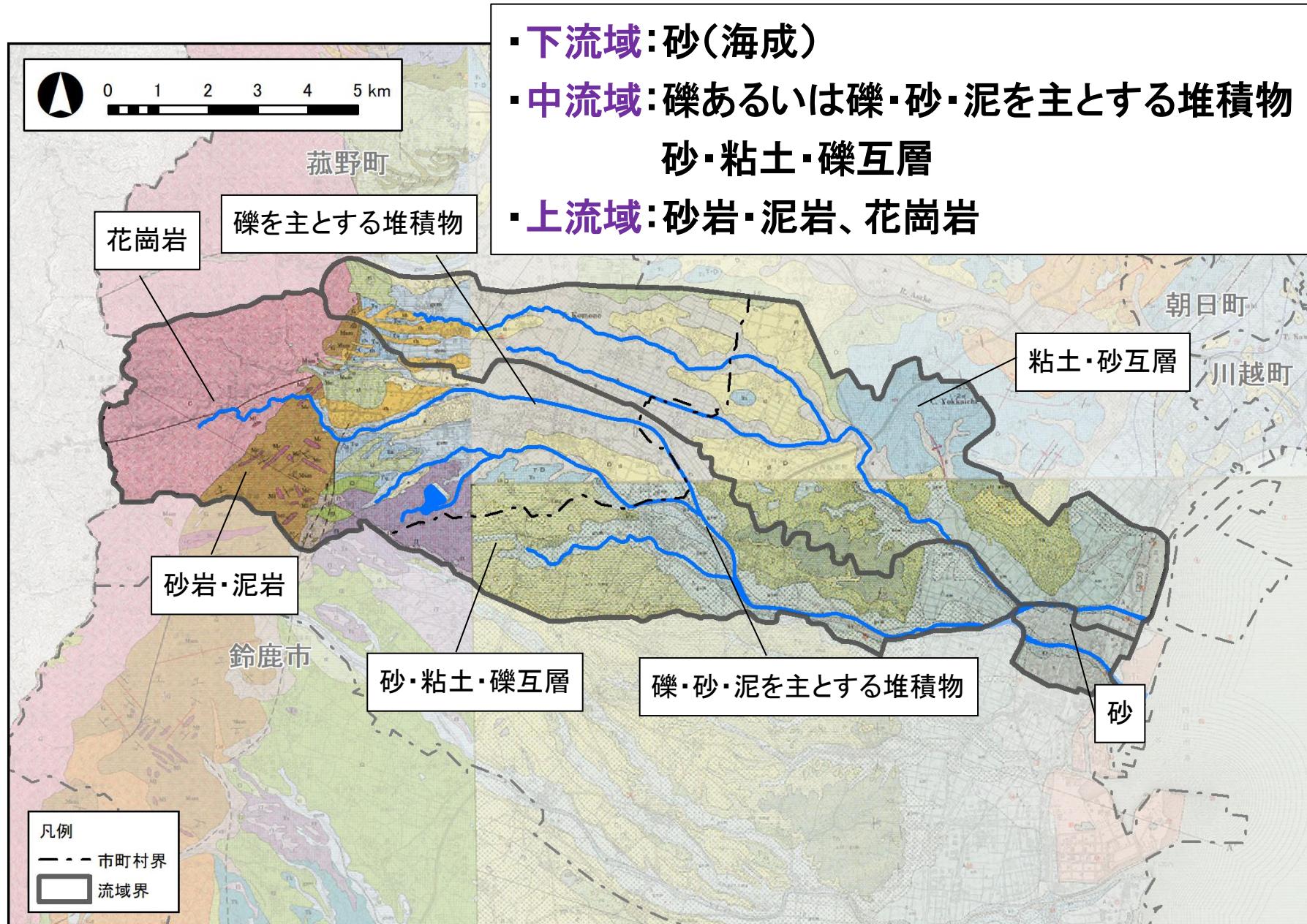


・下流域: 谷底平野・三角州・海岸平野
 ・中流域: 扇状地、谷底平野、丘陵、砂礫台地
 ・上流域: 山地・段丘

凡例	
【彦根東部・津島・御在所山・亀山】	
山地	低地
Mb 山頂山腹緩斜面	Fn 扇状地
Mc 中間斜面	F 谷底平野・氾濫平野
Md 急斜面	R 河原
台地・段丘	その他
U 上位段丘	V 浅い谷
M 中位段丘	g 段丘崖・急崖
L 下位段丘	P 河川・池
【桑名】	
丘陵	【四日市】
b 緩斜面	丘陵地
c 一般斜面	山頂・山腹緩斜面
台地及び段丘	山麓緩斜面
砂礫台地	急斜面 谷密度80未満
U5 上位段丘	急斜面 谷密度80以上
M5 中位段丘	台地及び段丘
L5 下位段丘	砂礫台地
低地	Gt _I ⁺ (上位)
Fn6 扇状地	Gt _I (上位)
F5 谷底平野・氾濫平野	Gt _{II} ⁺ (中位)
N5 自然堤防	Gt _{II} (中位)
R 河原	Gt _{III} ⁺ (下位)
その他	Gt _{III} (下位)
V5 浅い谷	低地
h 盛土地	三角州及び海岸平野
A 人工改変地	谷底平野
G 段丘崖	扇状地・自然堤防及び砂堆
P 河川・池	河原及び浜
天井川	異常洪水時に冠水した部分
天井川	天井川

出典:「5万分の1都道府県土地分類基本調査(地形分類図)「桑名」「四日市」「彦根東部・津島・御在所山・亀山」

- 流域の地質について、**下流域**は砂、**中流域**の川沿いは礫、あるいは礫・砂・泥を主とする堆積物が分布し、中流域の丘陵や砂礫台地は砂・粘土・礫互層や粘土・砂互層が分布する。
- 上流域**は砂岩・泥岩やチャート、花崗岩で構成されている。



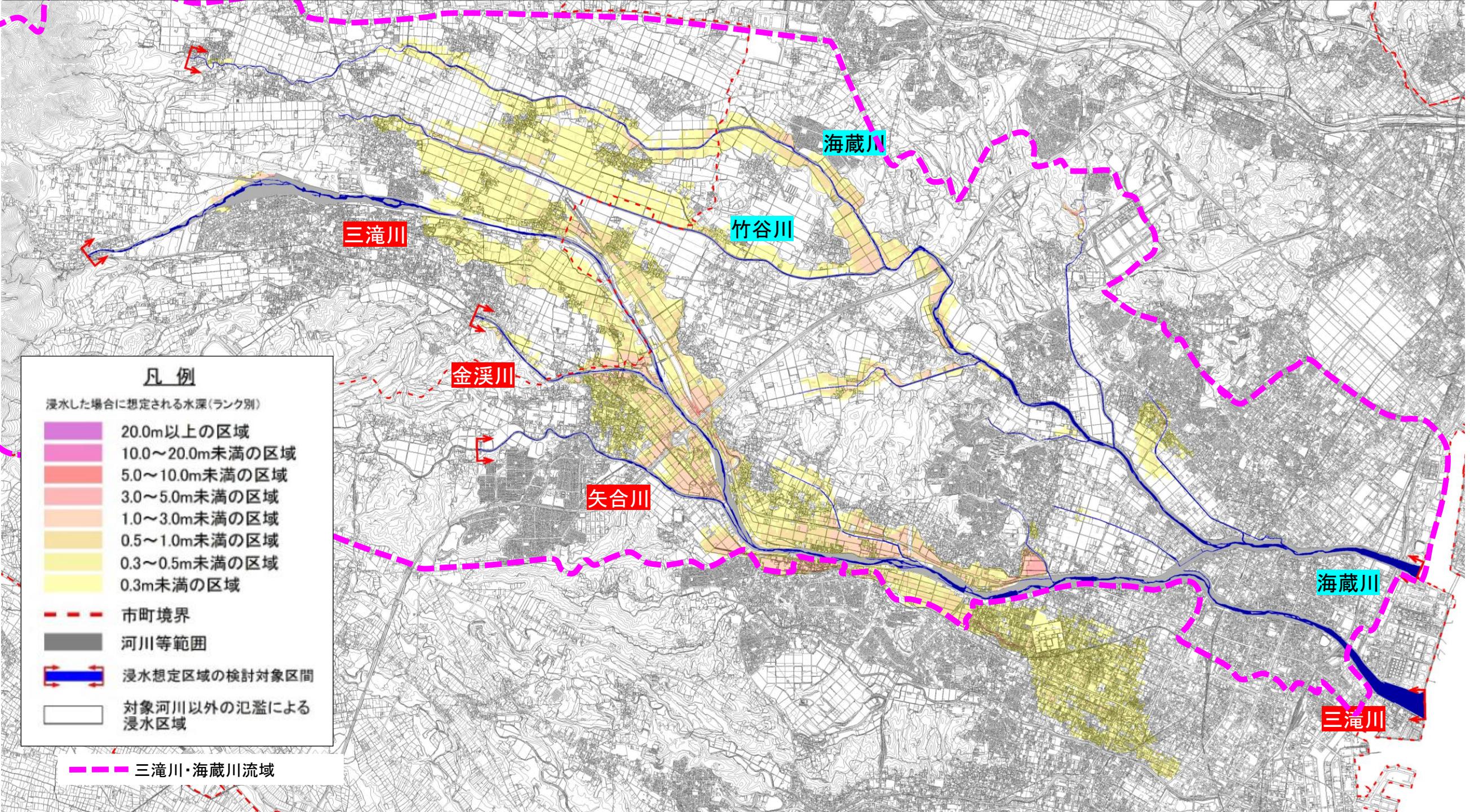
凡例	
【彦根東部・津島・御在所山・亀山】	
未固結堆積物	固結堆積物
gsn 礫・砂・泥からなる堆積物	C 泥岩
s 砂を主とする堆積物	Msm 砂岩・泥岩
u 礫・砂よりなる堆積物(t1)	Mc チャート
f2 礫・砂よりなる堆積物(f2)	Ml 石灰岩
半固結堆積物	火成岩
th 礫・砂よりなる堆積物(th)	G 花崗岩
f1 礫・砂よりなる堆積物(f1)	
Tu 礫岩	
Ts 砂・シルト・粘土互層	
【桑名】	
未固結堆積物	未固結堆積物
g 礫を主とする堆積物(g)	g 礫まじり砂
u 礫を主とする堆積物(t1)	gsn 礫・砂・泥
半固結堆積物	slc 砂まじり泥
th 礫を主とする堆積物(th)	s 砂
Ts 粘土・砂互層(T3)	u 黒泥
	gsn 砂礫
	u 砂礫
	半固結堆積物
	gsn 礫・砂・粘土互層
	gsn 砂・粘土・礫互層
【四日市】	

出典:「5万分の1都道府県土地分類基本調査(地形分類図)「桑名」「四日市」「彦根東部・津島・御在所山・亀山」

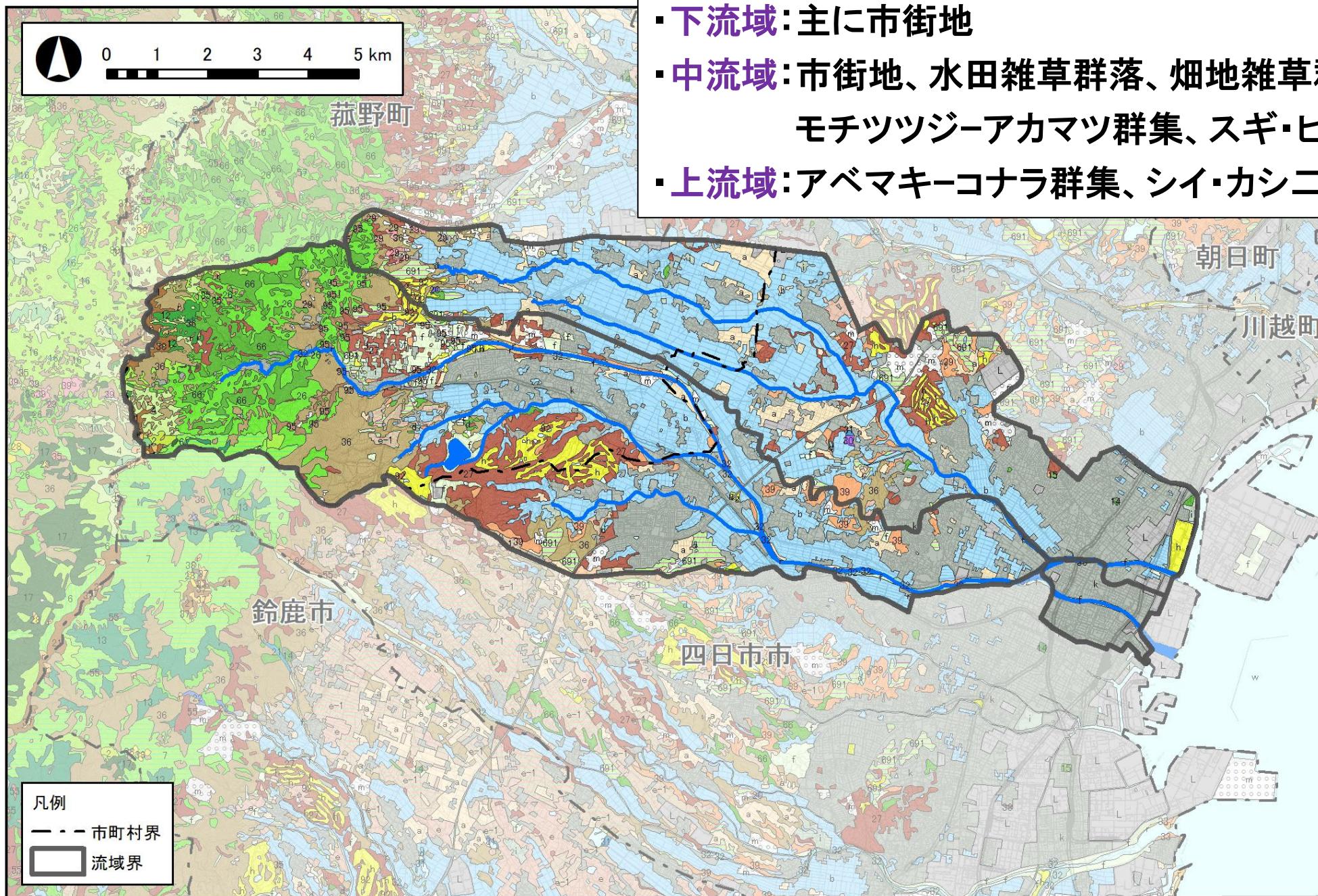
■洪水浸水想定区域図（三滝川・海蔵川）



- **三滝川・海蔵川**における浸水想定区域（整備計画規模：年超過確率1/50）は下図のとおり
- 未整備区間となっている本川中上流区間および支川において浸水が多く発生する想定
- 浸水想定区域には市街地や集落が含まれており、特に**三滝川**の想定氾濫区域には市街地や集落が多く存在している。



- 流域内の植生について、**下流域**の低地や**中流域**の台地・丘陵は殆ど**市街地**になっている。
- 中流域**の河川沿いは主に水田雑草群落ที่広がり、丘陵の一部はモチツツジ-アカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林となっている。**上流域**では、アベマキ-コナラ群集、シイ・カシ二次林のほか、**山頂**付近でブナ-ミズナラ群落が見られる。



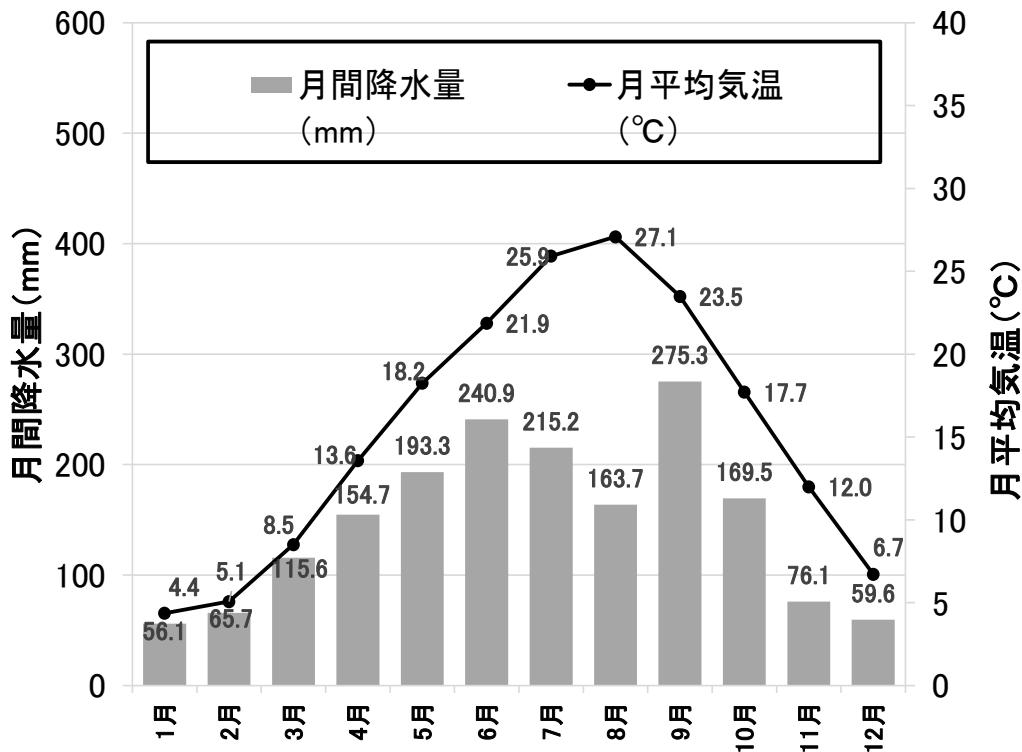
- 下流域**: 主に市街地
- 中流域**: 市街地、水田雑草群落、畑地雑草群落
モチツツジ-アカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林
- 上流域**: アベマキ-コナラ群集、シイ・カシ二次林、ブナ-ミズナラ群落

凡例 (凡例番号, 統一凡例コード, 統一凡例名)

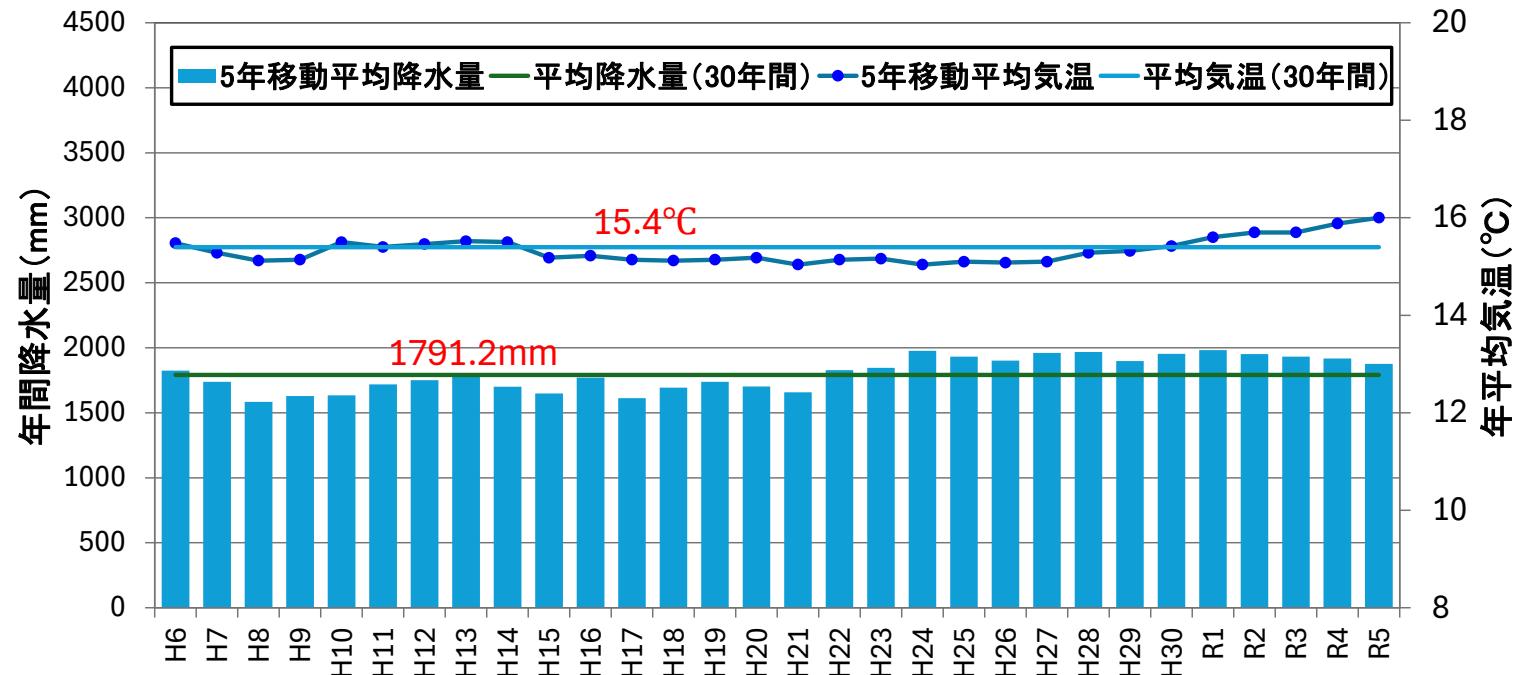
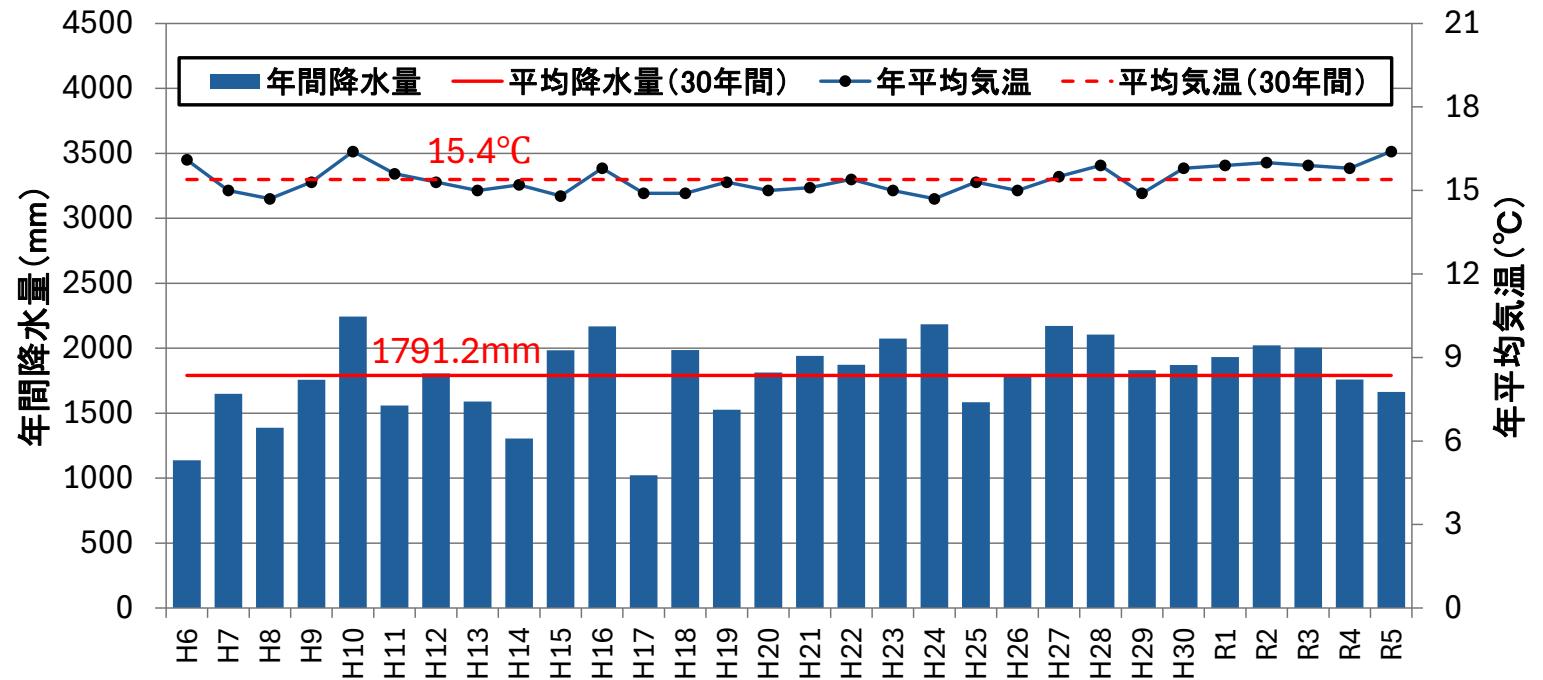
1, 110104 クロモジ-ブナ群集	39, 260000 伐採跡地群落 (V)
2, 130106 シラキー-ブナ群集	12, 270100 シラカシ群落
101, 140500 アスナロ群落	13, 270300 アカガシ群落
12, 140802 シャクナゲ-ヒノキ群集	14, 271102 カナメチ-コジヨイ群集
15, 150200 ヒメコマツ群落	15, 271600 タブノキ群落
16, 160101 ジュウモンジシダー-サワグルミ群集	17, 280101 シキミ-モミ群集
21, 190000 岩角地・風衝地低木群落	55, 290100 アカマツ群落 (VI)
4, 220100 ブナ-ミズナラ群落	57, 300102 イロハモミジ-ケヤキ群集
6, 220105 シロモジ群集	20, 310100 ハンノキ群落 (VI)
5, 220107 キンキマザクラ-ミズナラ群集	22, 320100 ヤナギ高木群落 (VI)
7, 220700 アカシデ-イヌシデ群落 (V)	21, 320200 ヤナギ低木群落 (VI)
35, 230100 アカマツ群落 (V)	23, 320400 フサザクラ群落
36, 240102 タニウツギ-ノリウツギ群落	66, 400100 シイ・カシ二次林
37, 250100 ササ群落 (V)	26, 410105 アベマキ-コナラ群集
38, 250200 ススキ群 (V)	691, 410106 ケサザ-コナラ群集
27, 420102 モチツツジ-アカマツ群集	g, 560200 牧草地
75, 440200 クズ群落	f, 570100 路傍・空地雑草群落
28, 450100 ススキ群 (VII)	c, 570101 放棄畑雑草群落
29, 460000 伐採跡地群落 (VII)	e, 570200 果樹園
80, 470200 ヌマガヤオ-ダ-	e-1, 570201 茶畑
30, 470300 貧養地小型植物群落	a, 570300 畑雑草群落
31, 470400 ヨシクラス	b, 570400 水田雑草群落
32, 470501 ツルヨシ群集	d, 570500 放棄水田雑草群落
33, 490000 砂丘植生	k, 580100 市街地
36, 540100 スギ・ヒノキ・サワラ植林	i, 580101 緑の多い住宅地
92, 540200 アカマツ植林	L, 580300 工場地帯
38, 540300 クロマツ植林	m, 580400 造成地
95, 541000 その他植林	w, 580600 開放水域
39, 550000 竹林	r, 580700 自然裸地
h, 560100 ゴルフ場・芝地	



- 四日市市における年間気温・降水量の30年平均値(1994～2023年)は15.4℃、及び1791.2mmで、全国平均の14.5℃、1,606.7mmと比べると、やや大きい。
- 経年的な推移を5年移動平均で見ると、近年は気温、降水量ともやや増加傾向である。



四日市市における月別平均気温、降水量
(気象庁四日市観測所 H26～R5の10年平均)



5年移動平均気温、5年移動平均降水量の変化

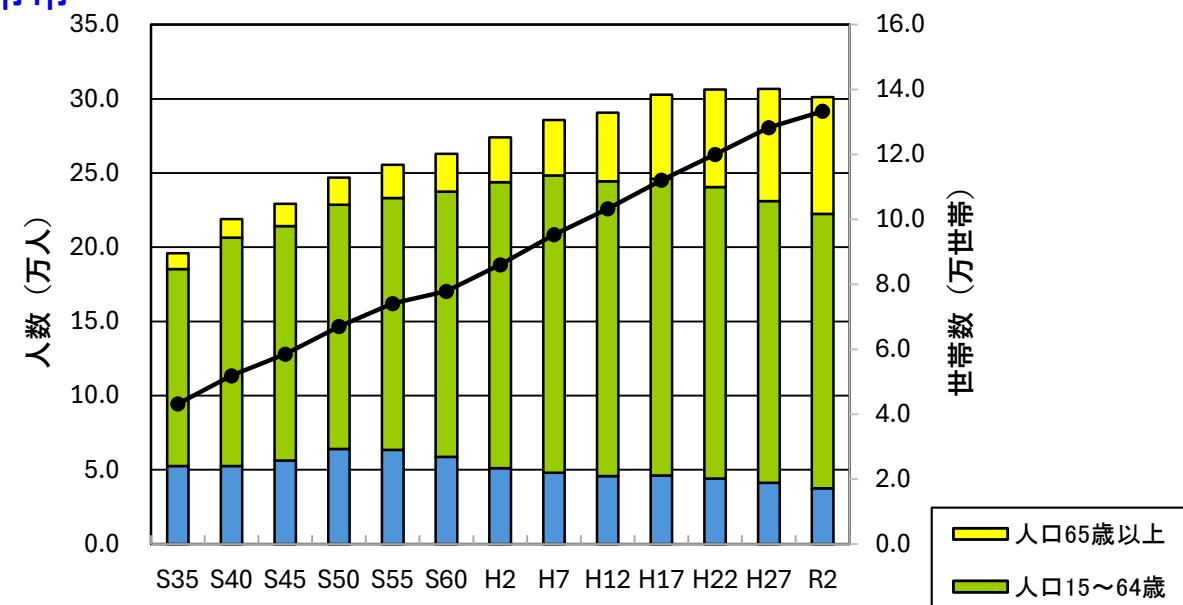
人口・世帯数



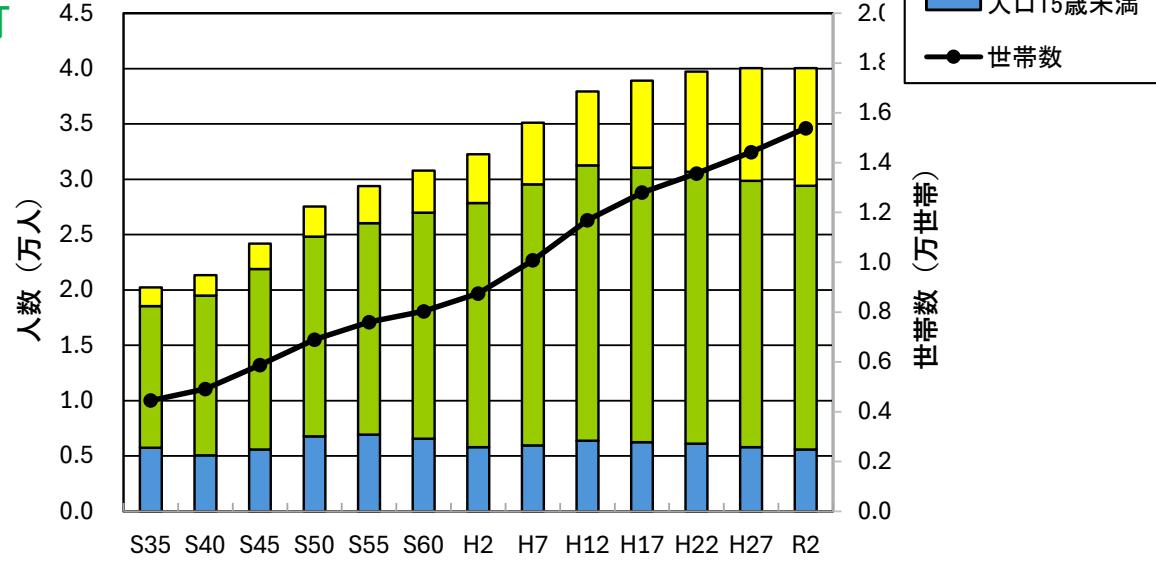
- 四日市市、菰野町とも、世帯数は増加傾向が続いているのに対し、人口は、四日市市では平成27年度以降、菰野町では平成22年度以降は横這い、もしくは微減傾向にある。
- 流域人口の合計は11万9千人で、平成7年以降は横這いであるが、三滝川流域では微減、海蔵川流域では微増傾向がみられる。世帯数は両流域とも増加傾向である。

【人口・世帯数】

四日市市

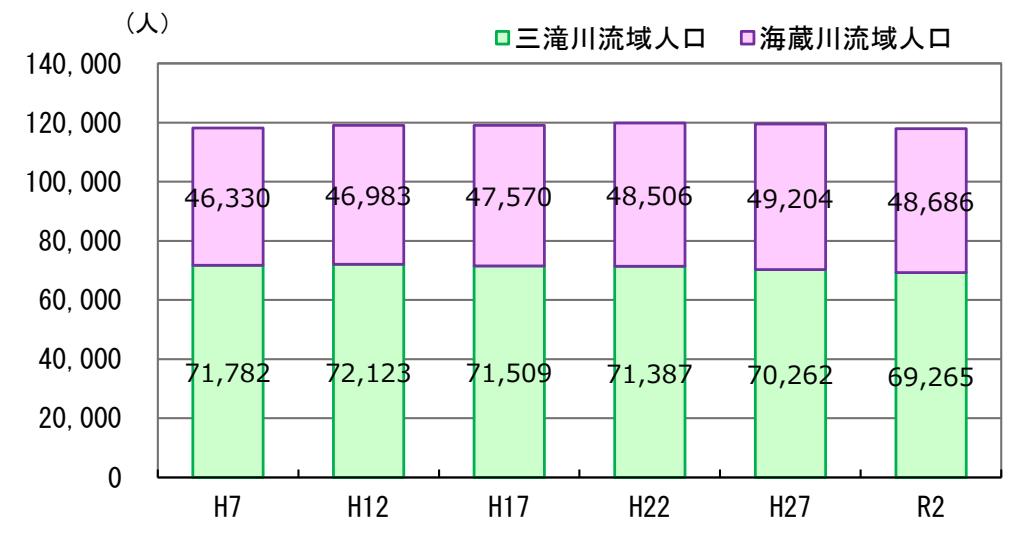


菰野町

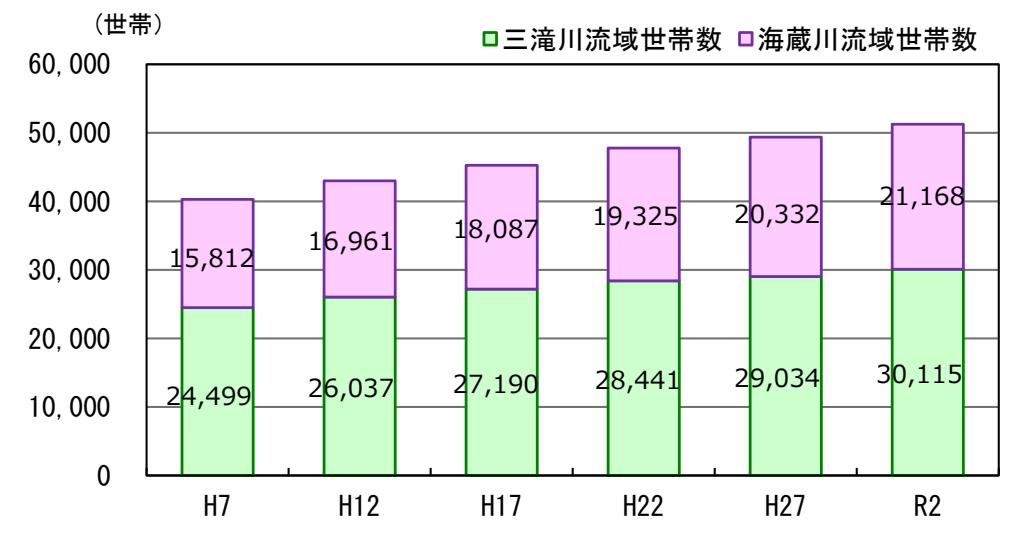


出典：三重県Webサイト 市町(村)累年統計表
流域関連市町の人口・世帯数 (S35~R2)

【流域内人口】



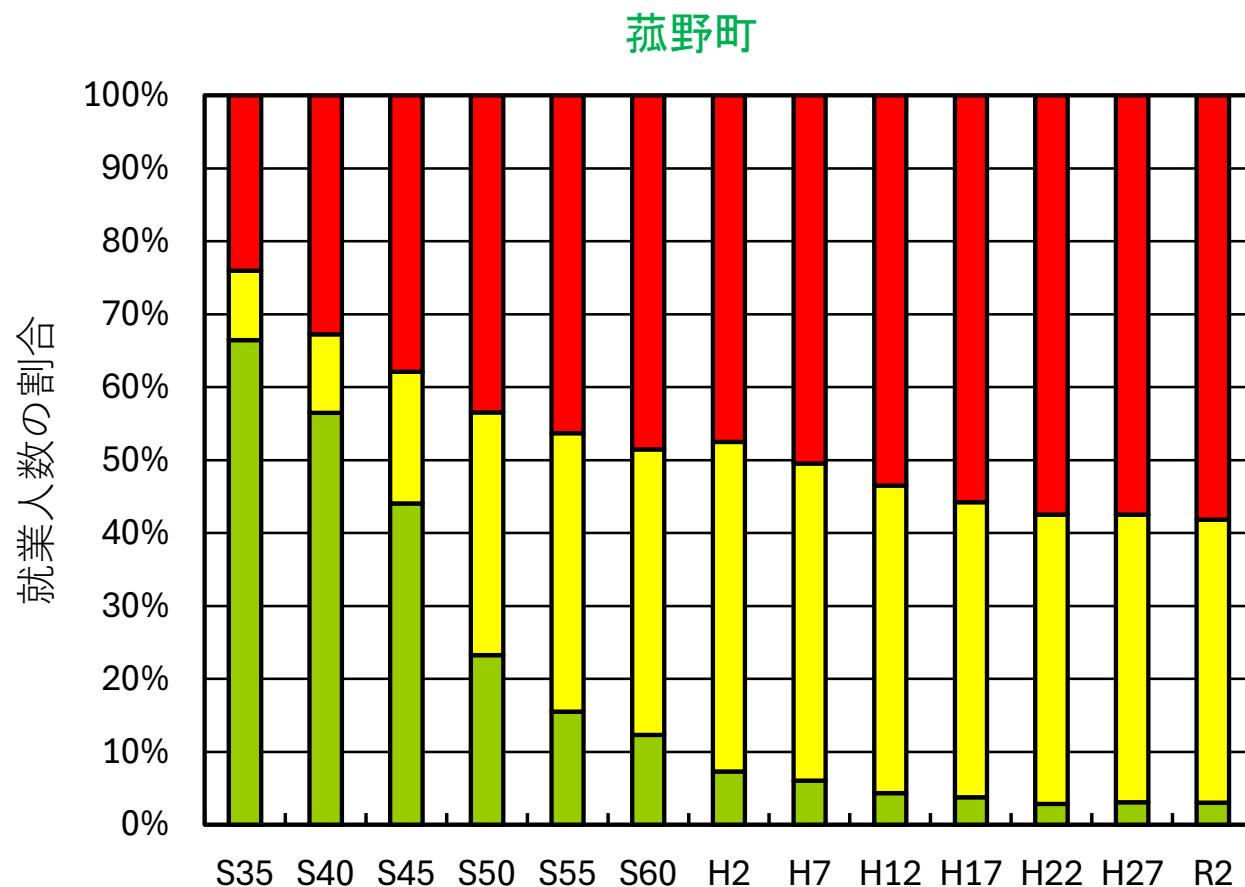
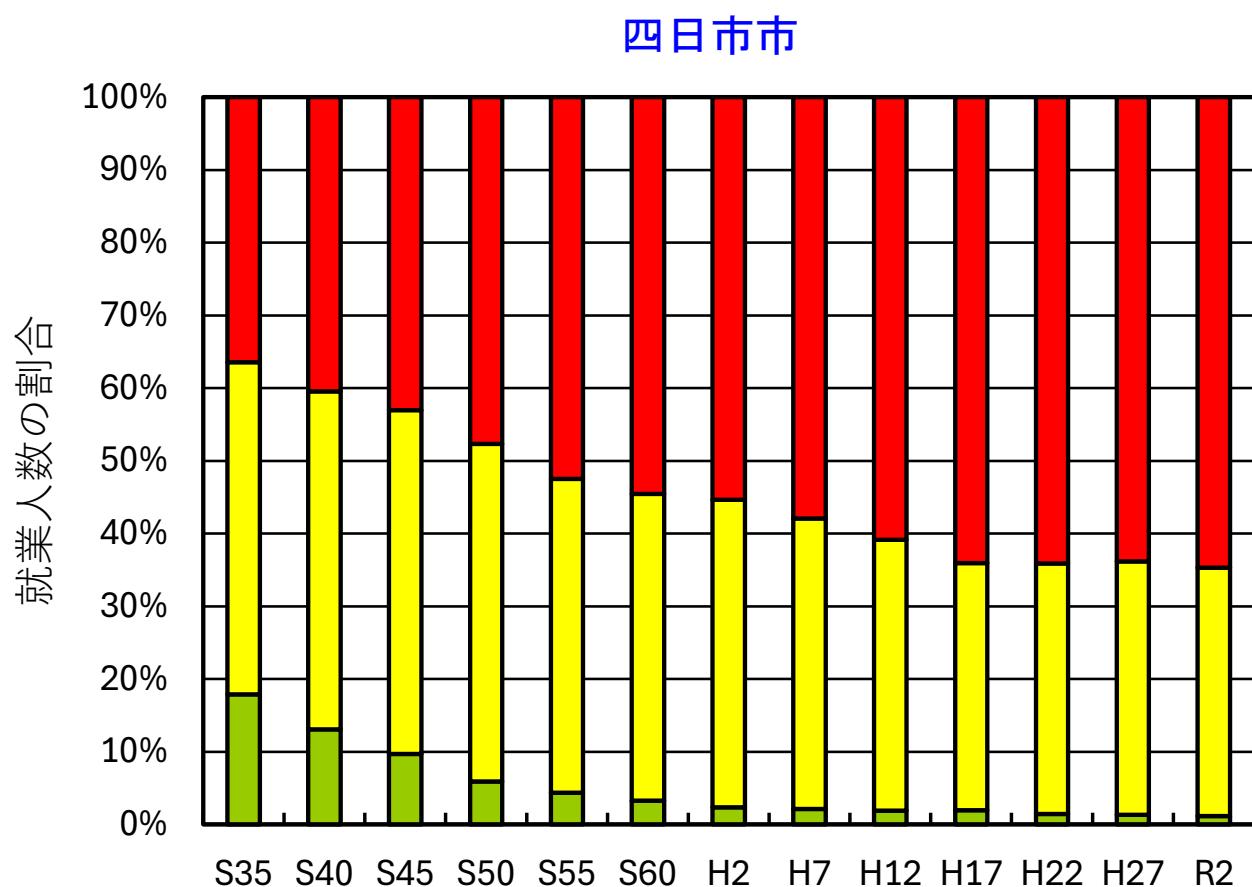
【流域内世帯数】



出典：e-start統計で見る日本 4次メッシュデータ
流域内人口・世帯数 (H7~R2)

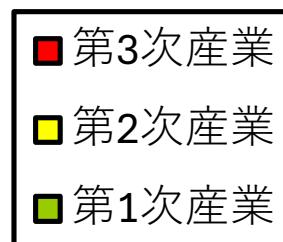


- **四日市市**、**菰野町**とも、第3次産業従事者割合が経年的に増加しており、平成7年には50%以上を占めるに至っている。
- **四日市市**は、第1次産業従事者、第2次産業従事者とも割合が減少している。
- **菰野町**は第2次産業従事者割合が昭和35年から平成7年まで増加、その後は横這いである一方、第1次産業従事者割合は昭和35年の66%から令和2年には4%まで大幅に低下した。

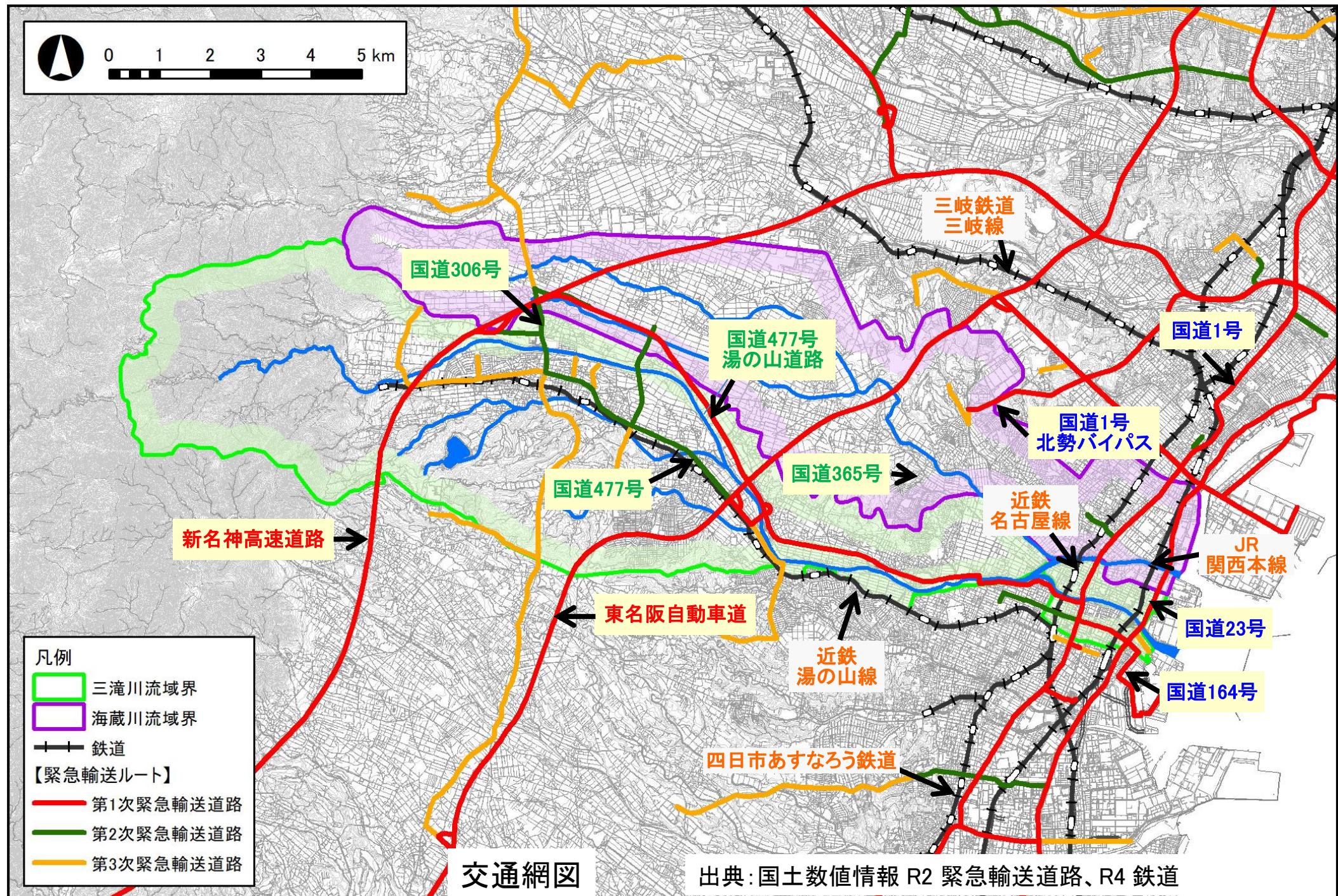


出典：三重県Webサイト 市町(村)累年統計表

産業別従事者数の推移 (S35~R2)

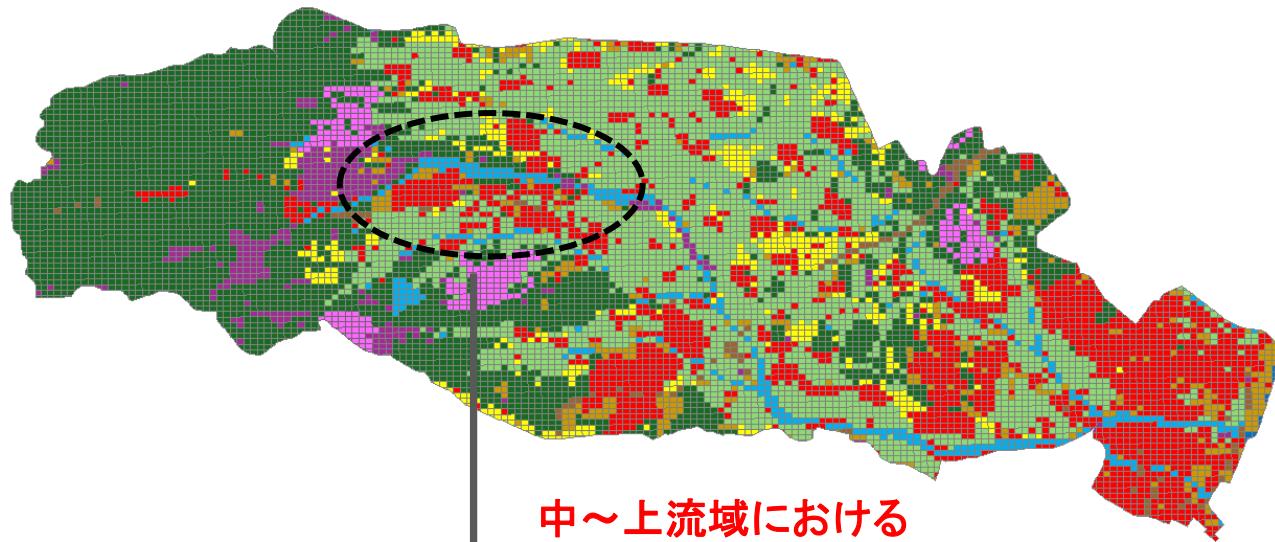


- 流域における主要な交通施設として、**新名神高速道路**、**東名阪自動車道**、**国道1号**、**北勢バイパス**、**国道23号**、**国道306号**、**国道477号**、**湯の山道路**などの幹線道路、**JR関西本線**、**近鉄名古屋線**・**湯の山線**などの鉄道が位置しており、多くの橋梁が河川を横過している。



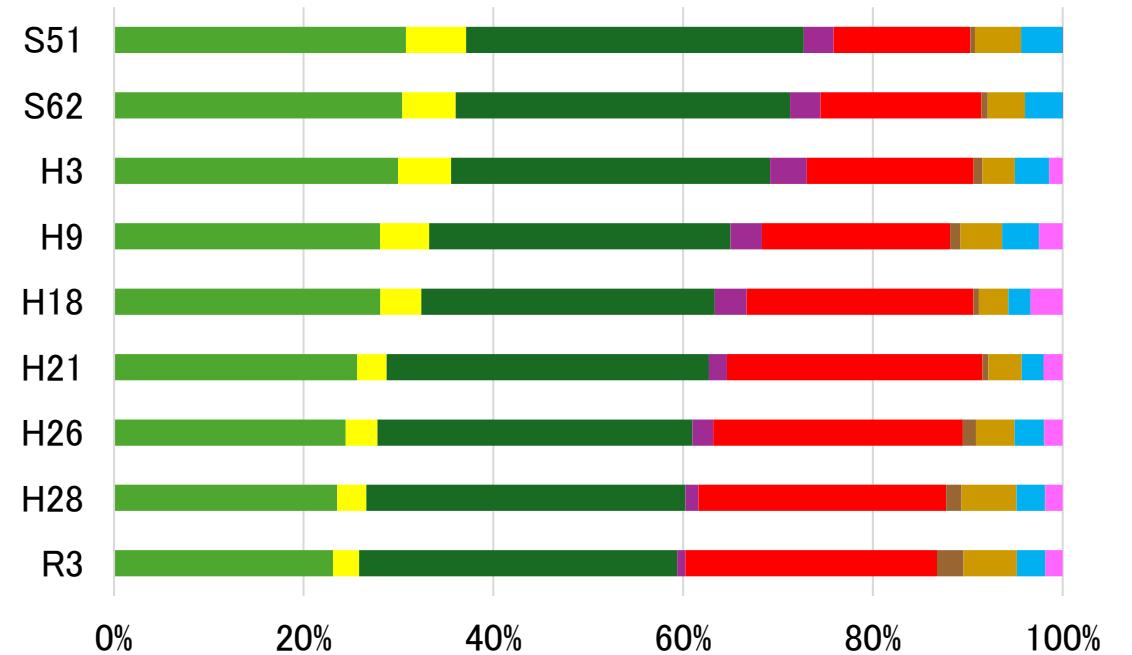
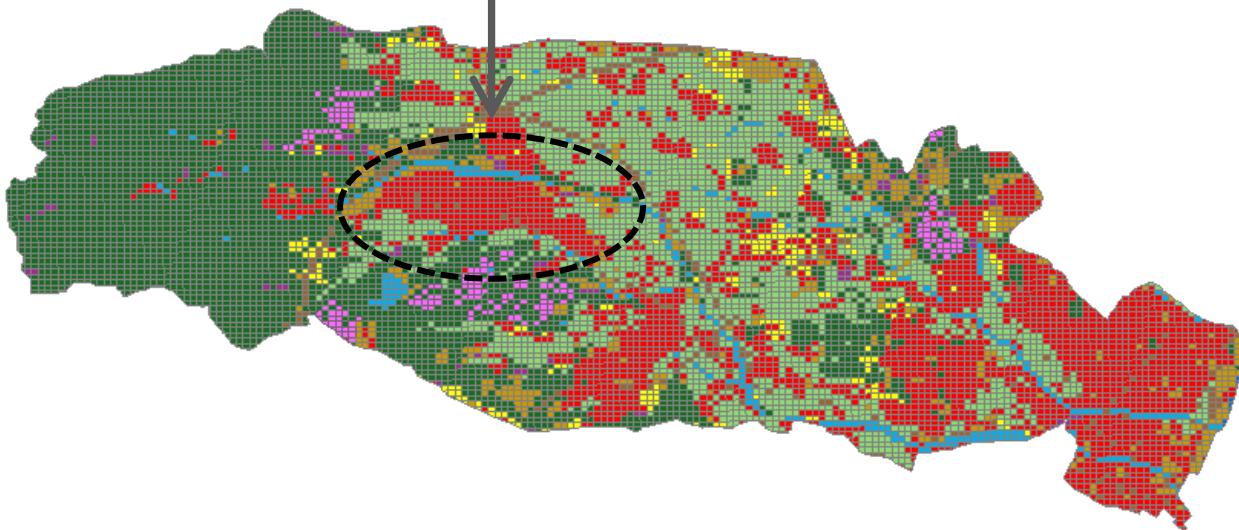
- 流域内の土地利用は、平成9年以降に「田」、「その他の農用地」、「森林」、「荒地」が減少している一方で、「建物用地」が令和3年現在も増加傾向が続いている。
- 下流域の四日市市既成市街地の拡大だけでなく、中流域～上流域の菰野町においても市街化が著しく進行している。

H9年(1997年)

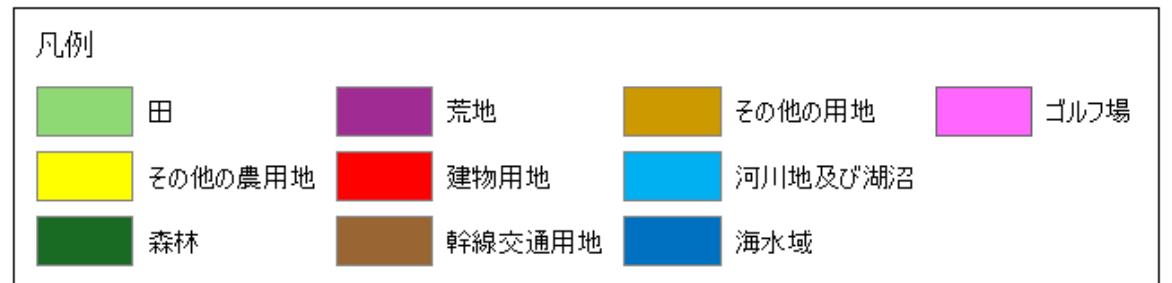


中～上流域における市街化の進行

R3年(2021年)



流域内における土地利用別の面積割合の変化



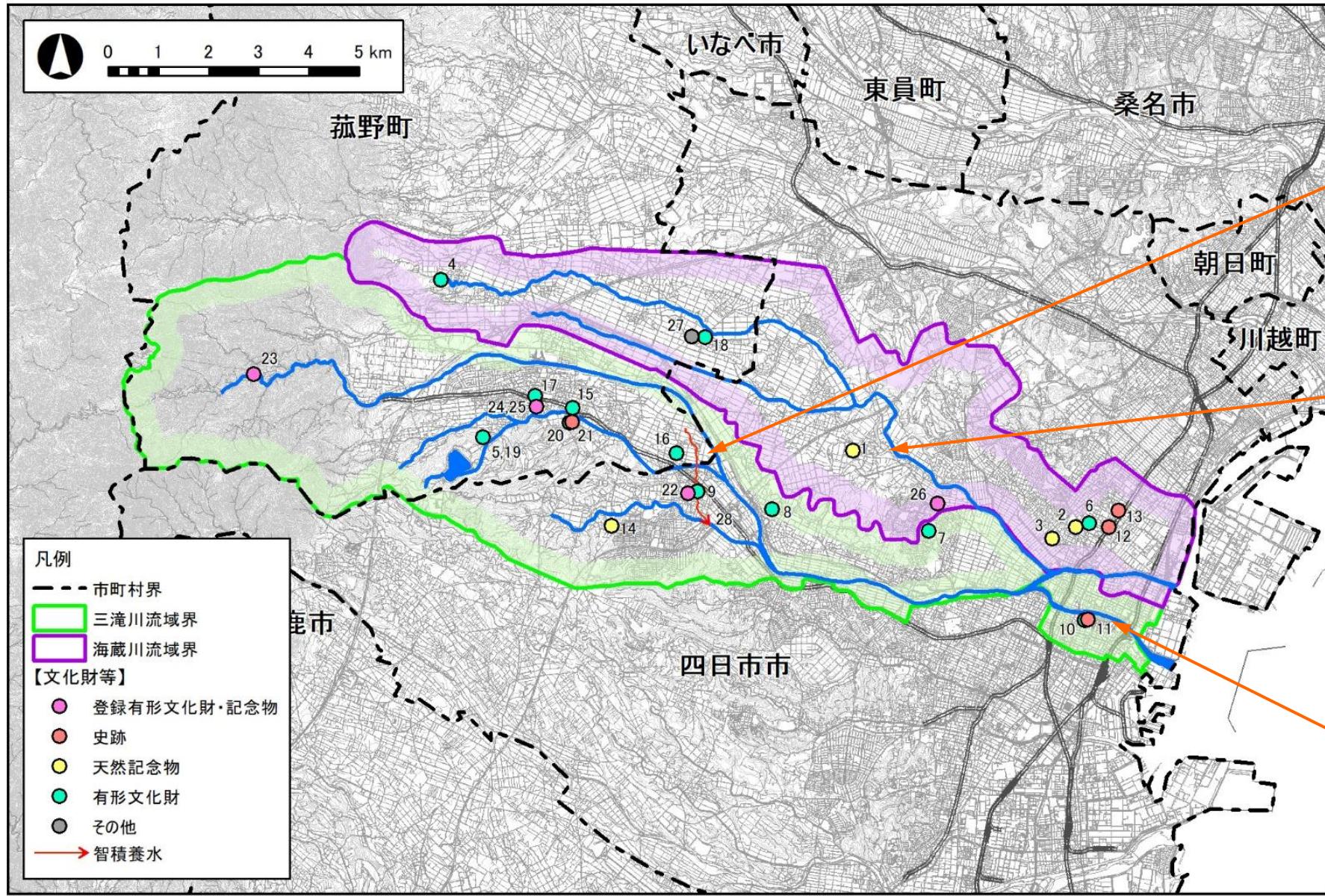
出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ

※その他の用地：運動競技場、空港、競馬場・野球場・学校港湾地区・人工造成地の空地等

※データの作成方法の変更により、平成21年以降の土地利用集計結果は、前回までの結果と大きく異なる場合がある



- 流域内における文化財等として、計28件が挙げられる。
- 智積養水(ちしゃくようすい)は、江戸時代に築造された水路で、**三滝川**右岸にある**菰野町**神森(かもり)の蟹池(かにいけ)から湧出する水を水源とし、**四日市市**智積町(ちしゃくちょう)にかけて流れており、1985(昭和60)年に環境省の名水百選に選ばれている。
- 近年、日本書紀に出てくる「迹太川(とほがわ)」*は**海蔵川**のこととする説が有力であり、歴史的な舞台にもなっている。 ※壬申の乱に先立ち、天武天皇が伊勢神宮(天照大神)に向かい望拝したとされる川



流域関連市町の文化財位置図

出典:国土数値情報 H26 都道府県指定文化財



28【智積養水】
(環境省名水百選)



1【御池沼沢植物群落】
(国指定天然記念物)



11【泗水の井戸】
(四日市市指定史跡)

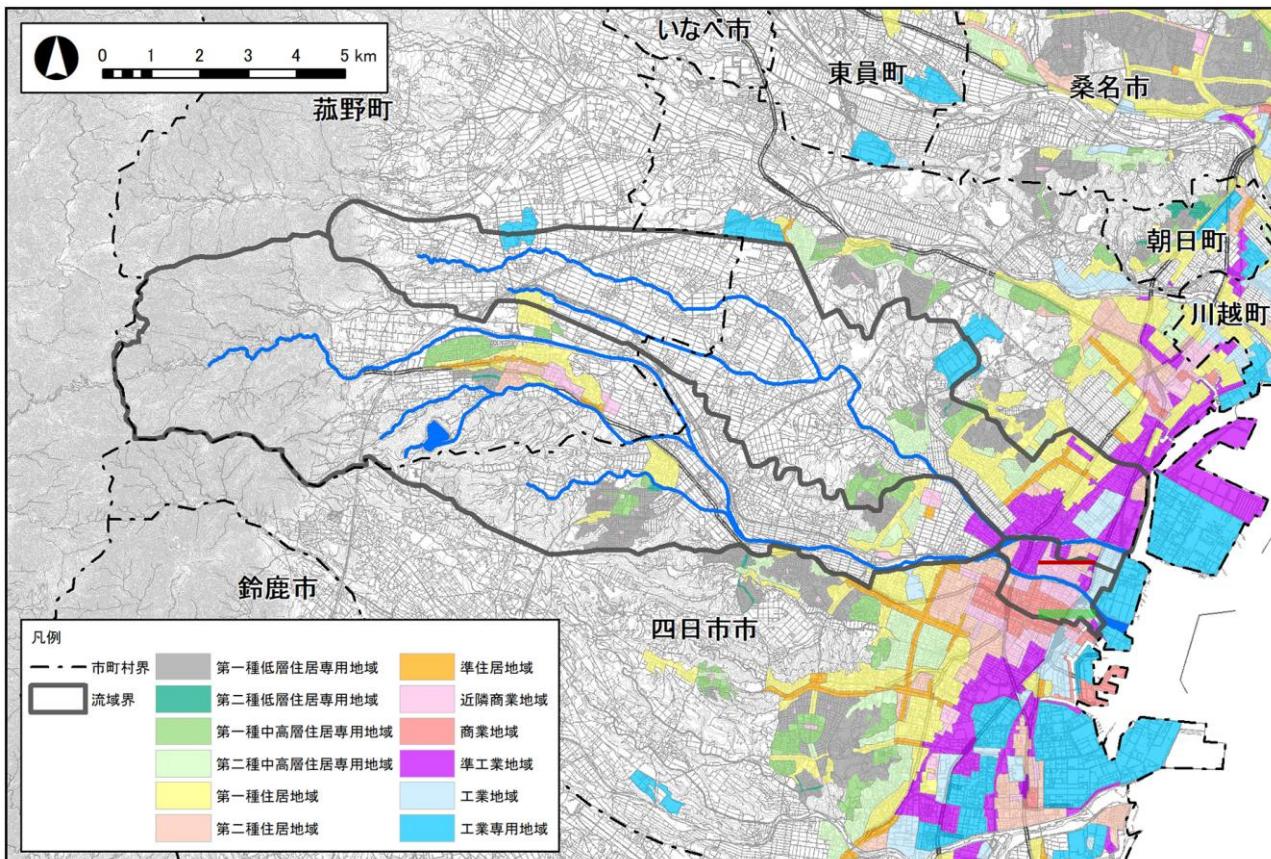
■都市計画区域

- 下流域では、海岸部が工業専用地域、準工業地域に指定されているほか、三滝川右岸側が商業地域、近隣商業地域に指定され、四日市市の中心市街地を形成している。
- 住居系の用途地域は、主に三滝新川付近から上流側で指定されており、低地の既成住宅街のほか、丘陵・台地上など、昭和年代以降に開発が進んだ新興住宅街で指定がみられる。

■農業振興地域

- 下流域の四日市市市街地、中流域の菰野町市街地、上流域の山地を除く、ほぼ全域が農業振興地域として指定されている。

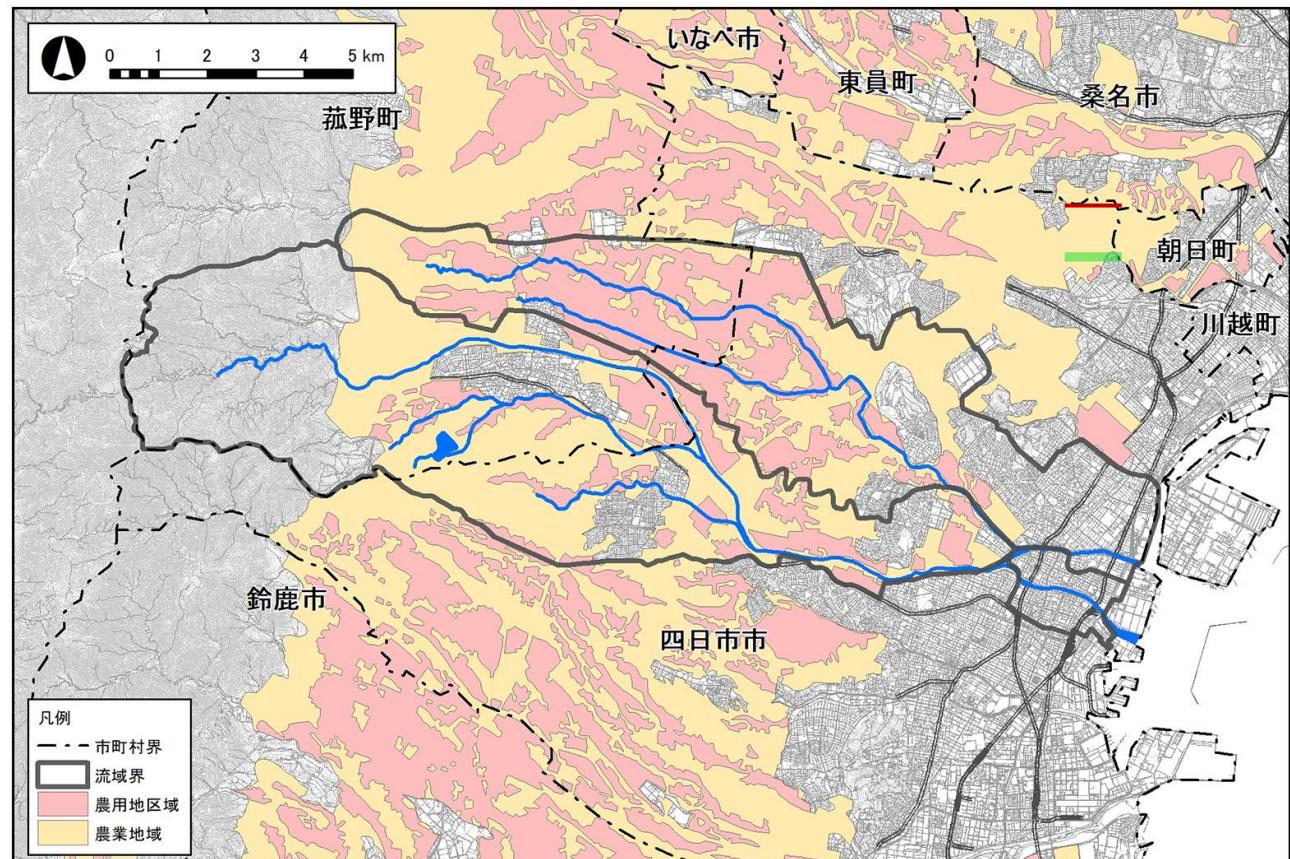
都市計画区域



都市計画区域内の用途地域の指定状況

資料:国土数値情報 用途地域データ(R1)

農業振興地域



農業振興地域の指定状況

資料:国土数値情報 農業地域データ(R1)

法定区域

■ 自然公園

- 上流域の山地は、自然公園地域(鈴鹿国定公園)に指定されている。

■ 鳥獣保護区・保安林

- 上流域の山地、および下流域～中流域に鳥獣保護区の指定区域があり、山地の鳥獣保護区では一部が特別保護区に指定されている。
- 上流の山地は、ほとんどが保安林に指定されている。

■ 土砂災害警戒区域等

- 主に上流域の山地や丘陵に土砂災害区域の指定区域が分布しており、特に三滝川最上流の溪流区間では、河谷に沿って土砂災害特別警戒区域の指定区域がみられる。

自然公園(自然公園法)



自然公園(自然公園法)の指定状況

出典: 国土数値情報
自然公園地域データ、自然保全地域データ(H27)

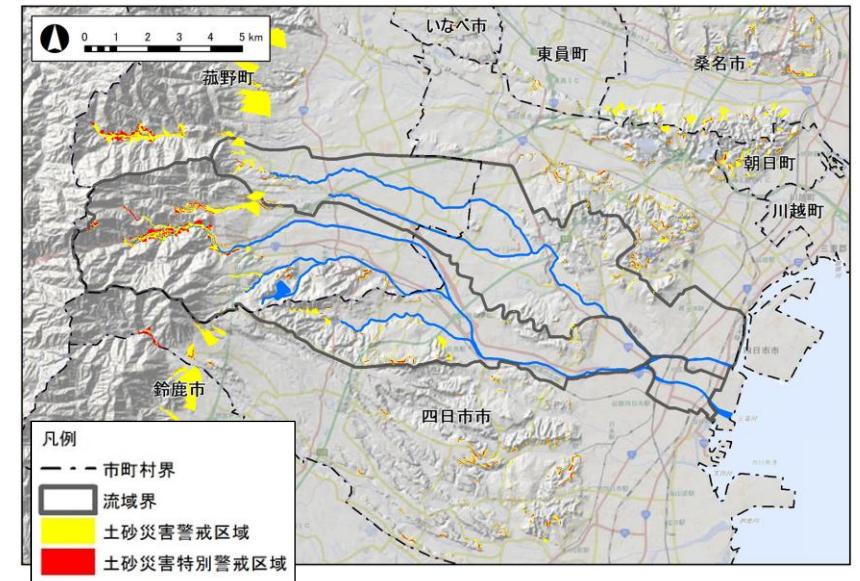
鳥獣保護区、保安林



環境関連法指定状況

出典: 国土数値情報 鳥獣保護区データ(H27)

土砂災害警戒区域等



環境関連法指定状況

出典: 国土数値情報 土砂災害警戒区域(R5)

目次



1. これまでの経緯 [変更]
2. 流域の概要
- 3. 現在の計画**
4. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
5. 第1回住民アンケート調査結果
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 治水の現状
9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
10. 治水計画における見直しの方向性
11. 治水計画の見直し [新規]
12. 河川整備計画（原案）（案） [新規]
13. 今後の進め方 [変更]

河川整備基本方針の概要

- **三滝川**: 年超過確率1/80の規模の降雨による洪水に対して被害を防ぐ(計画高水流量960m³/s)
- **海蔵川**: 年超過確率1/80の規模の降雨による洪水に対して被害を防ぐ(計画高水流量510m³/s)
- **三滝新川**: **三滝川**の基本高水のピーク流量のうち、最大400m³/sを**海蔵川**へ分派する。

三滝川

平成17年度策定

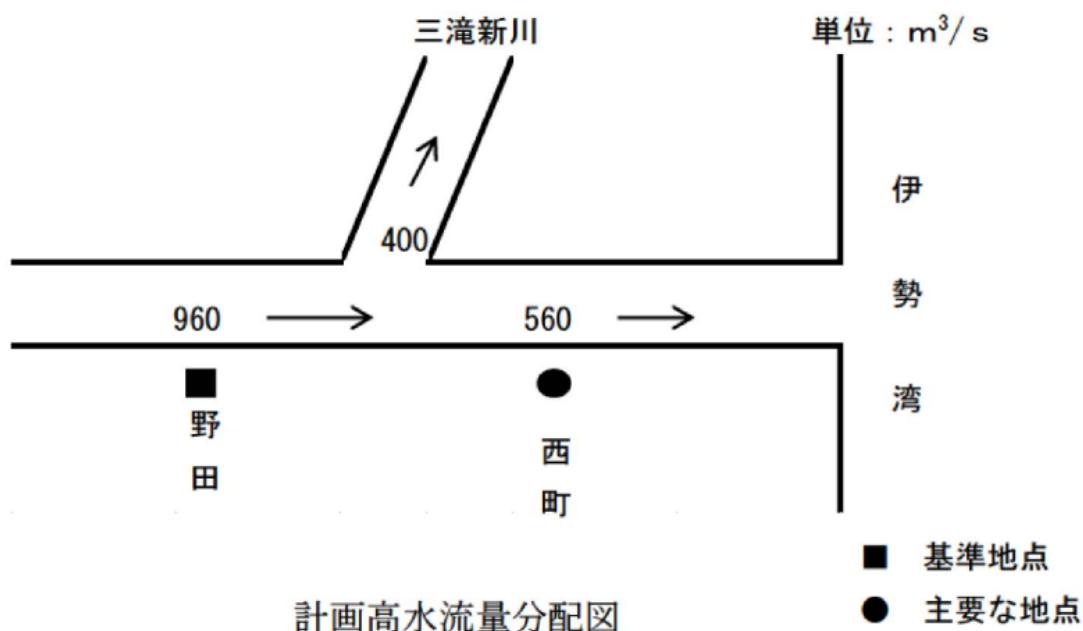
海蔵川

基本高水のピーク流量等一覧表

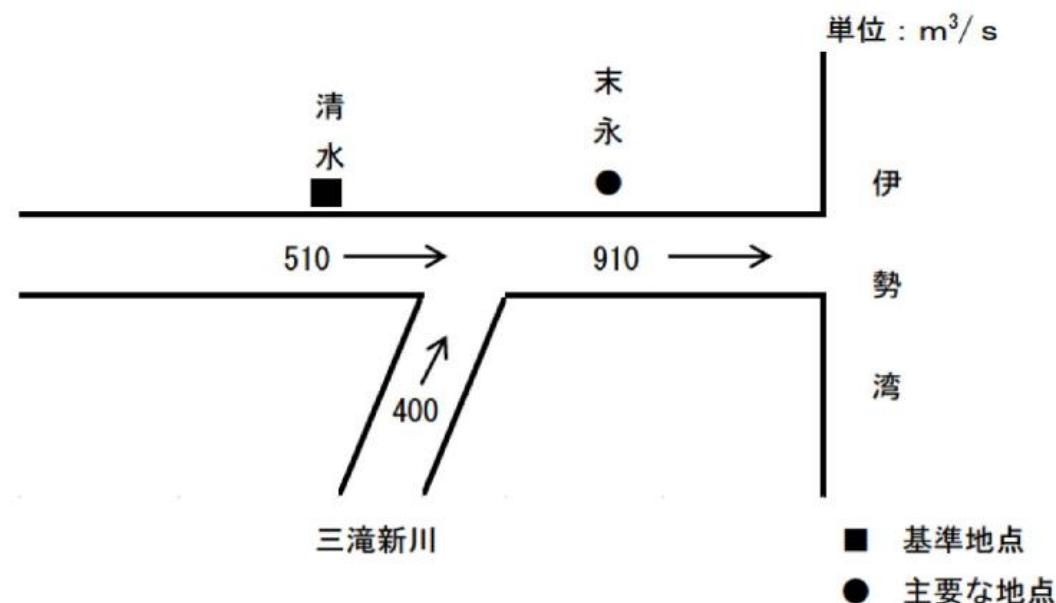
河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /sec)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /sec)	河道への配分流量 (m ³ /sec)
三滝川	野田	960	—	960

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /sec)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /sec)	河道への配分流量 (m ³ /sec)
海蔵川	清水	510	—	510



計画高水流量分配図



計画高水流量分配図



河川整備計画の概要（1）計画流量配分

- **三滝川**：年超過確率1/50の規模の降雨による洪水に対して被害を防ぐ（計画高水流量870m³/s）
- **海蔵川**：年超過確率1/50の規模の降雨による洪水に対して被害を防ぐ（計画高水流量460m³/s）
- **三滝新川**：三滝川の基本高水のピーク流量のうち、最大370m³/sを海蔵川へ分派する。

三滝川

平成17年度策定

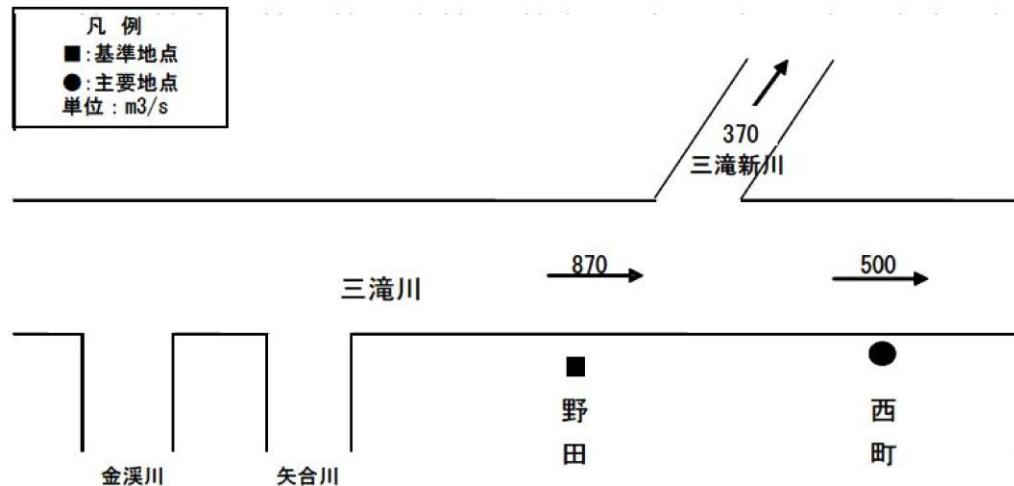
海蔵川

基本高水のピーク流量等一覧表

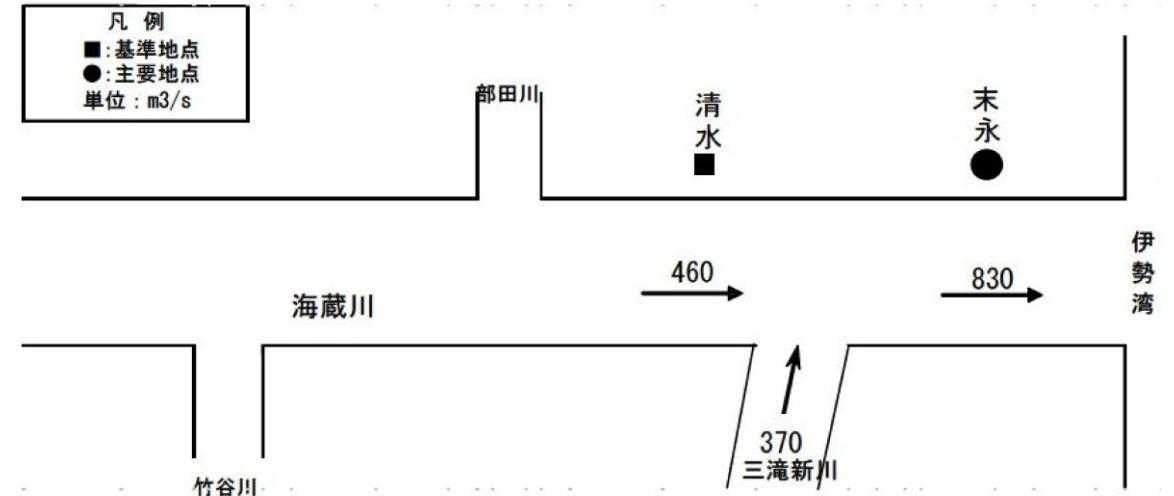
河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /sec)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /sec)	河道への配分流量 (m ³ /sec)
三滝川	野田	870	—	870

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /sec)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /sec)	河道への配分流量 (m ³ /sec)
海蔵川	清水	460	—	460



整備計画流量配分図

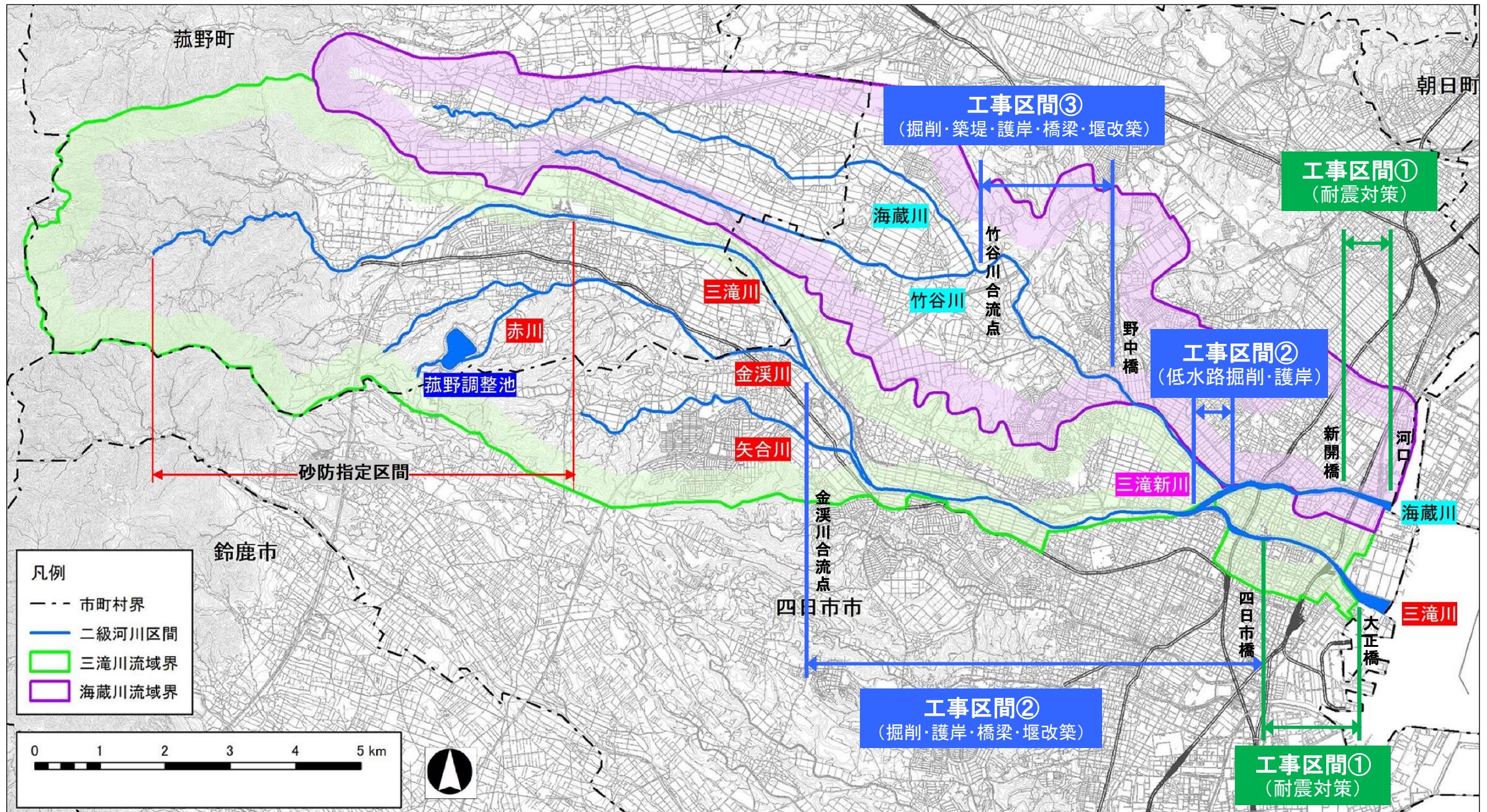


整備計画流量配分図

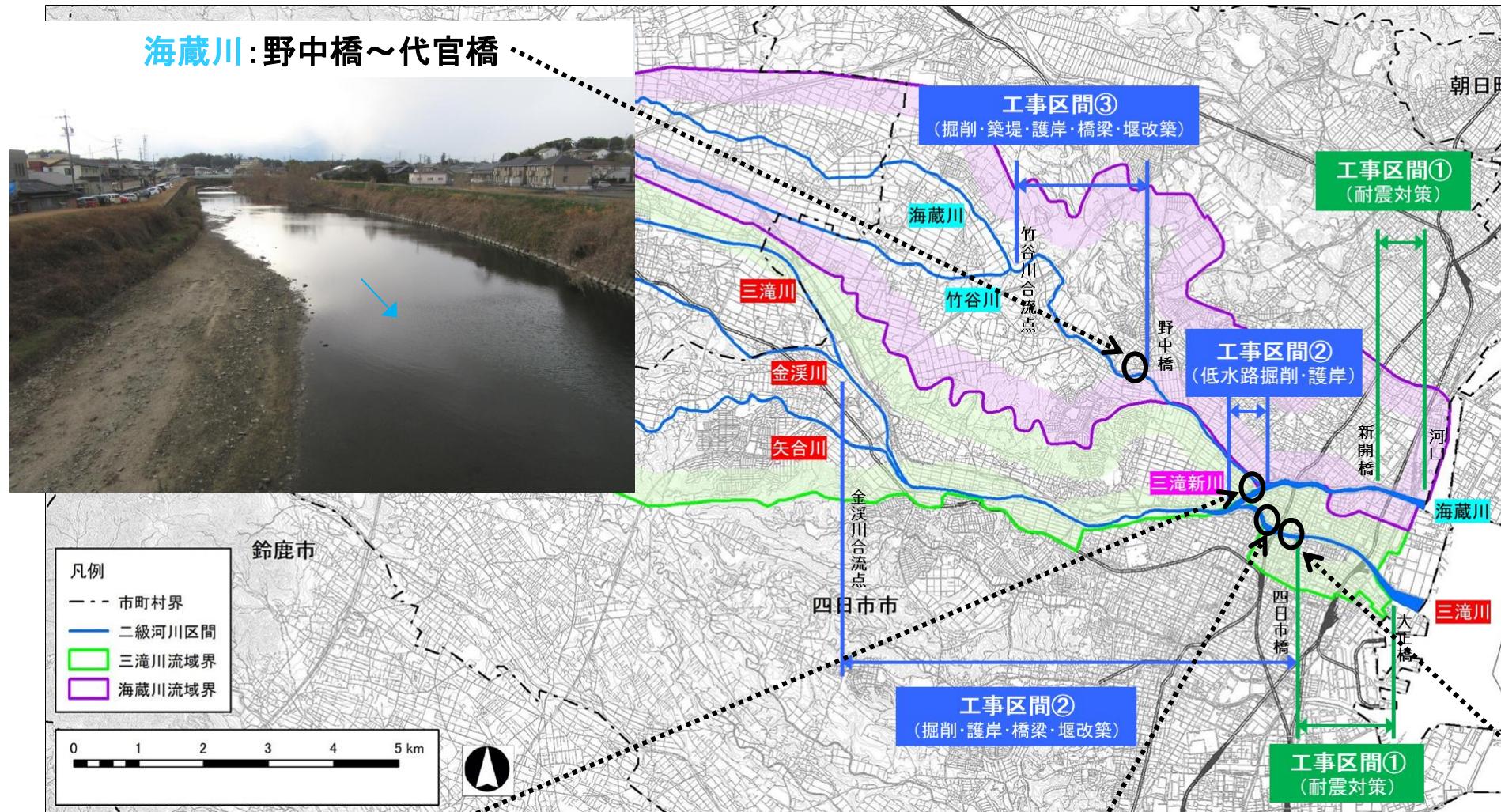


河川整備計画の概要（2）施工内容

- **三滝川**：**工事区間①**：耐震対策（大正橋付近～四日市橋付近）
工事区間②：洪水対策〔掘削・護岸・橋梁・堰改築〕（四日市橋付近～金溪川合流点）
- **海蔵川**：**工事区間①**：耐震対策（河口～新開橋付近）
工事区間③：洪水対策〔掘削・築堤・護岸・橋梁・堰改築〕（野中橋付近～竹谷川合流点）
- **三滝新川**：**工事区間②**：洪水対策〔低水路掘削・護岸〕



河川整備計画の概要（3）工事实施状況



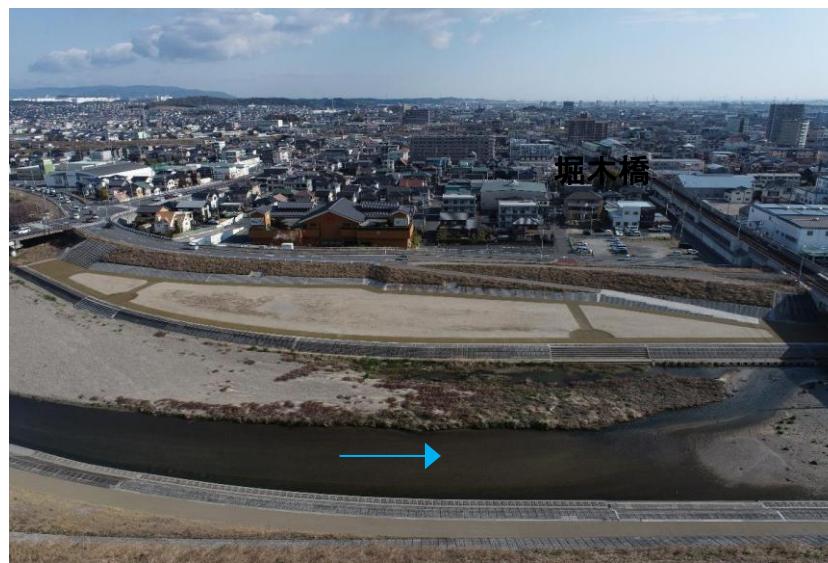
**進捗率
約60%***

※事業費

三滝新川：低水路掘削



三滝川：堀木橋下流護岸



三滝川：近鉄橋梁架替

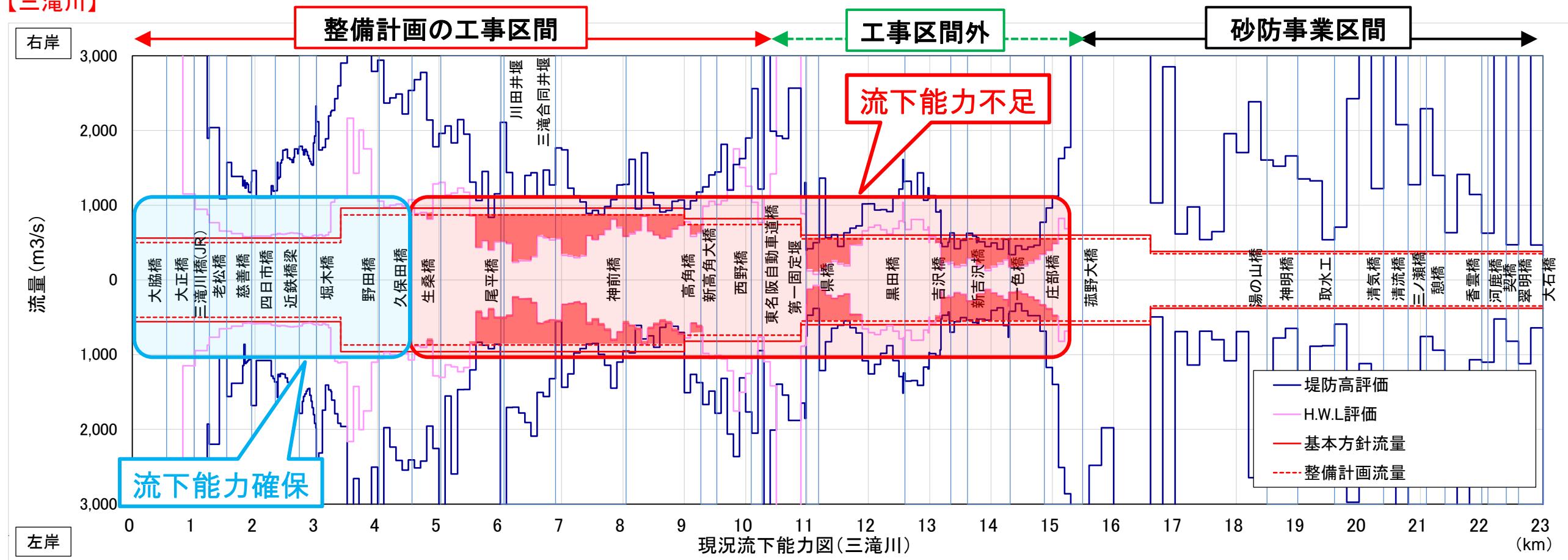




■現況流下能力（三滝川）

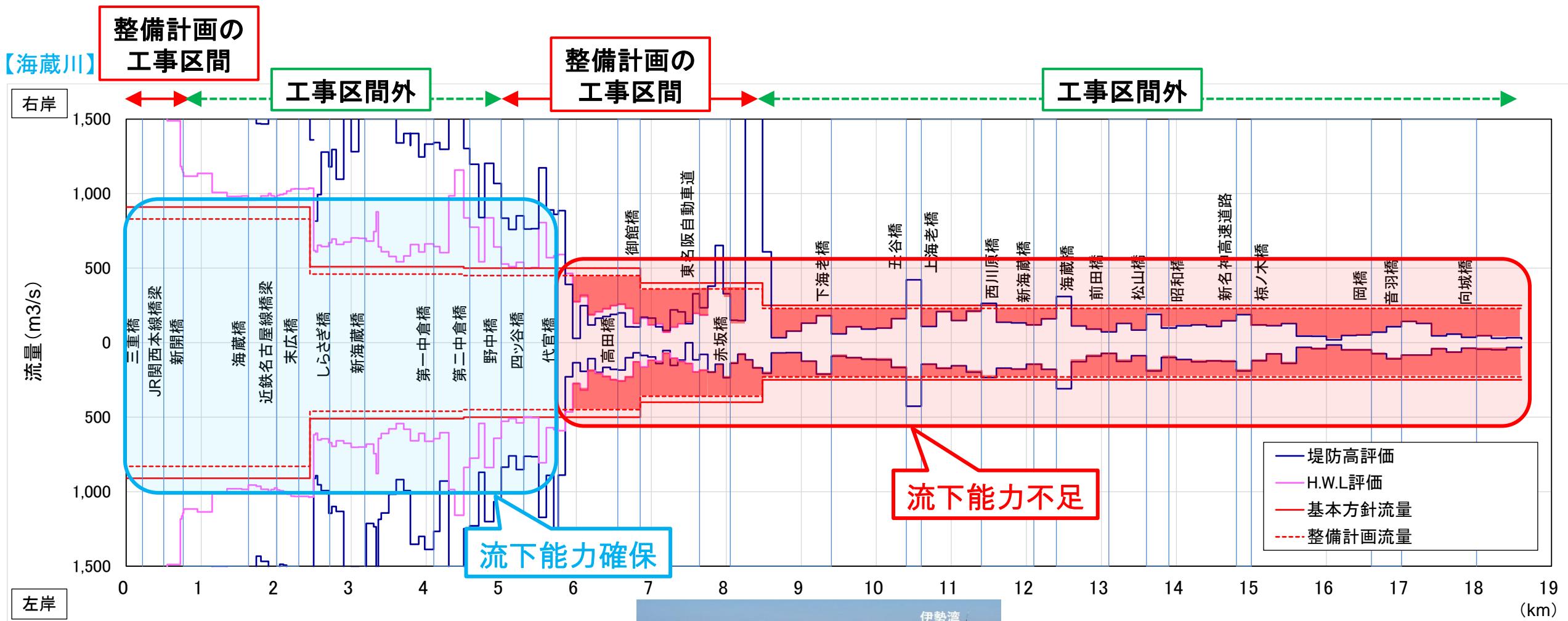
- **三滝川は、河口～久保田橋区間で洪水対策実施済、1/50確率以上の流下能力を有する。**
- **久保田橋～菰野大橋区間は、対策未実施で計画高水流量に対する流下能力が不足している**

【三滝川】



■現況流下能力（海蔵川）

- 海蔵川は、河口～代官橋区間で洪水対策実施済、1/50確率以上の流下能力を有する。
- 代官橋より上流は対策未実施で、計画高水流量に対する流下能力が不足している。
- 三滝新川では、0.5km区間で新川開削を実施中、令和8年度完成予定。



三滝新川の開削工事状況

目次



1. これまでの経緯 [変更]
2. 流域の概要
3. 現在の計画
4. **前回流域委員会での意見・回答 [新規]**
5. 第1回住民アンケート調査結果
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 治水の現状
9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
10. 治水計画における見直しの方向性
11. 治水計画の見直し [新規]
12. 河川整備計画（原案）（案）の概要 [新規]
13. 今後の進め方 [変更]

□令和7年5月13日に第2回流域委員会を開催

Q1：気候変動を考慮した計画降雨の算出手法について、伊藤A式で算出した降雨強度を国交省の方針に従って1.1倍したということか。

A1：はい。現行整備計画では過去の降雨実績を用い、伊藤A式により計画降雨を算出しています。今回の変更では、この実績データに2010年までのデータを追加し、改めて現行整備計画で採用している伊藤A式を用いて最新の計画降雨を算出しました。国土交通省の提言に基づき、この値を1.1倍したものが気候変動を考慮した降雨強度としています。

Q2：今回のアンケートはWEB方式を採用しており、回答しやすくなったと思うが、流域住民の意見をしっかりと集約できたのか判断が難しい。回答数として609件とあるが、県内他河川の事例と比べて手応えとかはどうなのか。

A2：回答数は、想定より著しく少なく、また、回答率も県内他河川に比べて低かったです。そのため、三重県四日市建設事務所への地元要望も併せて参考にさせていただきました。WEBアンケートは、紙媒体に比べて手間が大幅に削減できることや幅広い意見を徴収できることを期待し採用しましたが、回答数が少なかったという結果を踏まえ、次回の住民アンケート実施にあたっては、配布時期や周知方法などを見直し、改善を図りたいと考えています。

□令和7年5月13日に第2回流域委員会を開催

Q3：整備計画は、20～30年後を目標年次としているが、気候変動を考慮した計画高水流量が、基本方針で定められている計画高水流量とほぼ同値となっている。これは、現在から20～30年後で将来計画である基本方針が達成できるように見受けられる。示された整備区間において、目標年次までに必要な河道断面を確保できるのか。

A3：整備は段階的に進めていく予定であり、目標年次までに計画どおりの河道断面を確保できるよう努めていきます。次回の委員会では、具体的な整備計画案を示し、委員の皆様にご説明させていただきます。なお、三滝川・海蔵川については、主に三滝新川の効果発現のため、基本方針で定めた計画高水流量での整備を進めてきています。

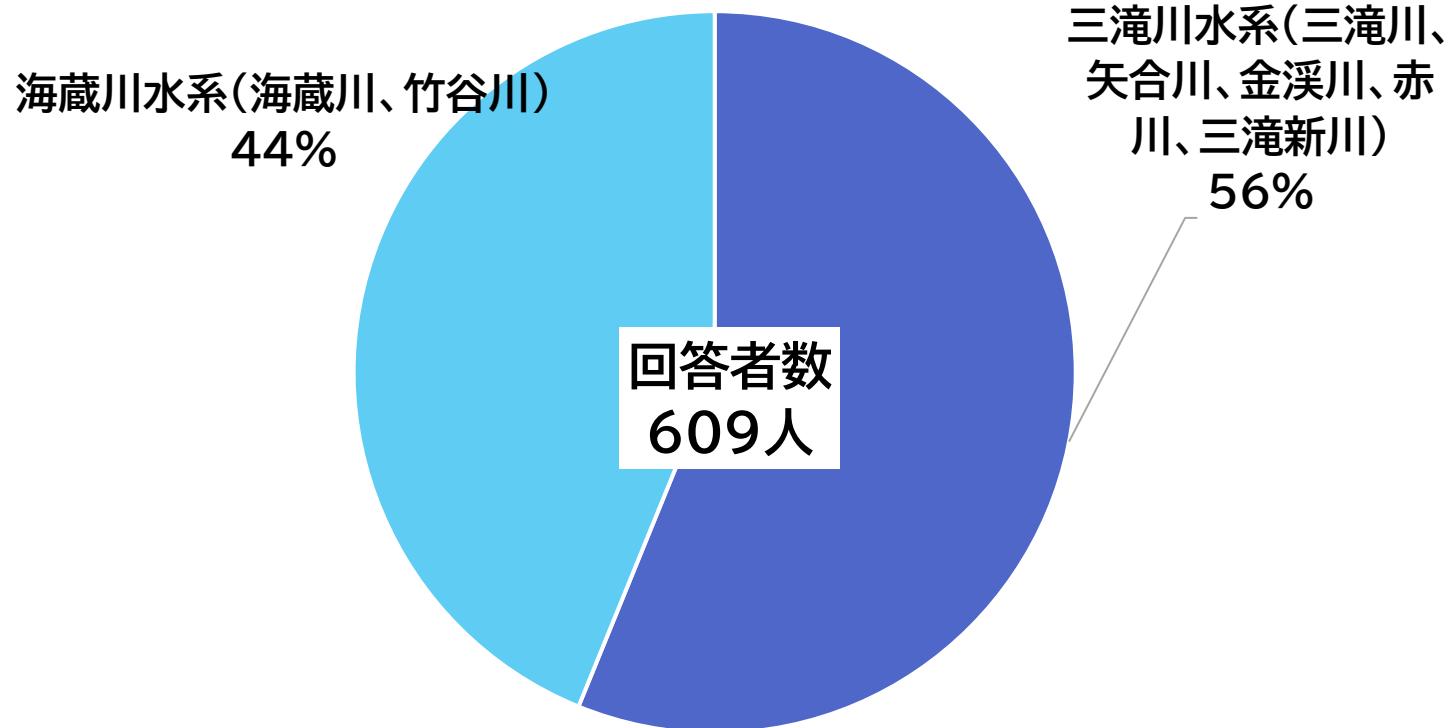
目次



1. これまでの経緯 [変更]
2. 流域の概要
3. 現在の計画
4. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
- 5. 第1回住民アンケート調査結果**
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 治水の現状
9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
10. 治水計画における見直しの方向性
11. 治水計画の見直し [新規]
12. 河川整備計画（原案）（案） [新規]
13. 今後の進め方 [変更]

第1回アンケート調査概要

- 目的: 三滝川・海蔵川流域に対する住民意識と要望の把握
- 調査対象地域: 三滝川・海蔵川流域
- 調査期間: 2024年12月4日～2025年1月13日
- 調査方法: WEBサイトでの回答
(流域の自治会を通して依頼文を回覧し回答を依頼)
- 回答数: 609件
- 集計方法: 三滝川と海蔵川のうち身近な川を選択してもらったうえで回答を依頼、その結果をもとに河川別で回答を集計



回答された河川

令和6年12月

三滝川水系・海蔵川水系の河川整備計画に関するアンケート調査に御協力をお願い致します

三滝川流域、海蔵川流域及びその周辺にお住いの皆様へ

三重県 四日市建設事務所

日頃から、三重県の河川行政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
三滝川水系・海蔵川水系では、平成17年に河川整備計画が作成された後、約20年が経過したことから、今回、計画を見直すこととなりました。
このアンケート調査は、三滝川水系・海蔵川水系の川づくりをよりよい計画とするため、流域にお住まいの皆様のお考えや、ご意見をいただくことを目的としています。

●河川整備計画の進め方

●アンケートの手順

お手持ちのスマートフォンからカメラを起動し回答をお願いします

■ご回答にあたってのお願い■

- アンケート調査は、インターネットにより実施させていただきます。右記の2次元コードまたは、下記URLからアクセスの上、ご回答ください。
URL: <https://forms.gle/ZsmQtwauAZMNZMXc7>
- 回答期限: 令和7年1月13日(月) 23時59分まで (お1人様1回限り)

●アンケート調査にあたってのお問い合わせ先

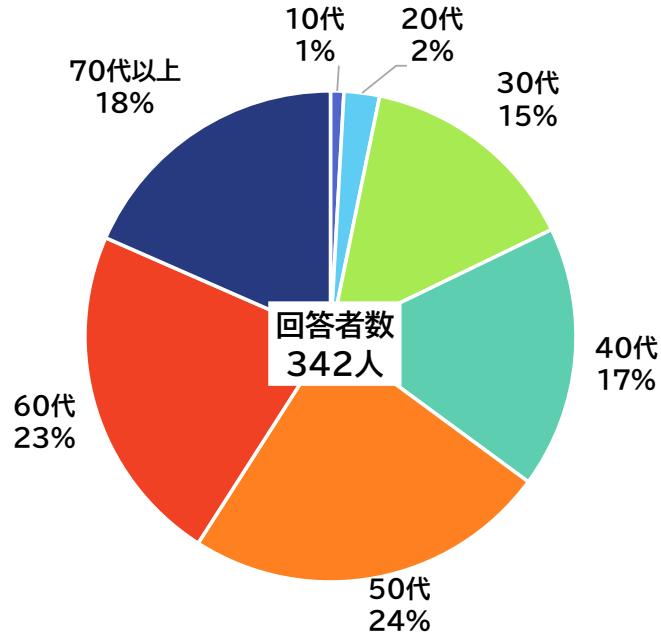
三重県 四日市建設事務所
事業推進室 流域・公園課 担当: 庄司、谷中 TEL:059-352-0677/FAX:059-352-0666

■調査結果① | 回答者の属性について (三滝川)

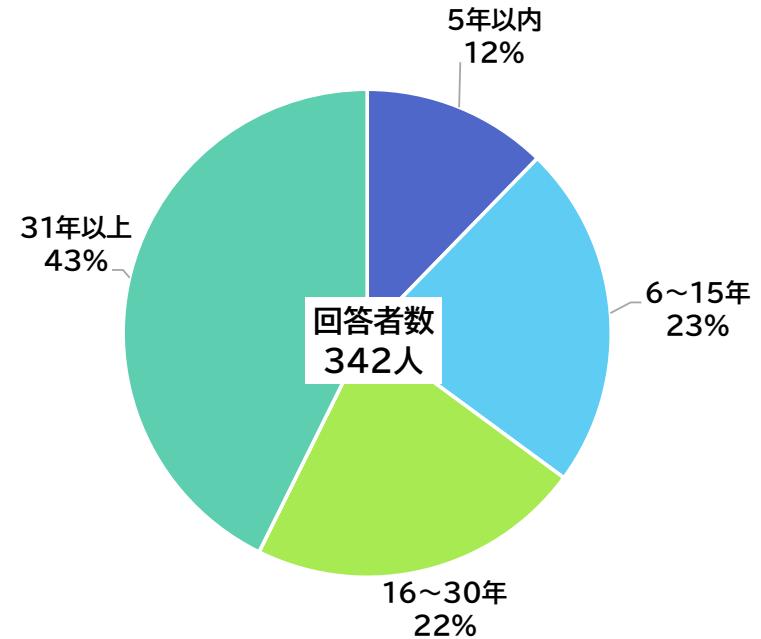


- 三滝川についての回答者のうち、10代、20代を除くと、概ね幅広い世代から回答があった。
- 三滝川についての回答者のうち、60%強が未整備区間周辺の住民であった。
- 三滝川の認知度は、回答者のうち約90%と高い。

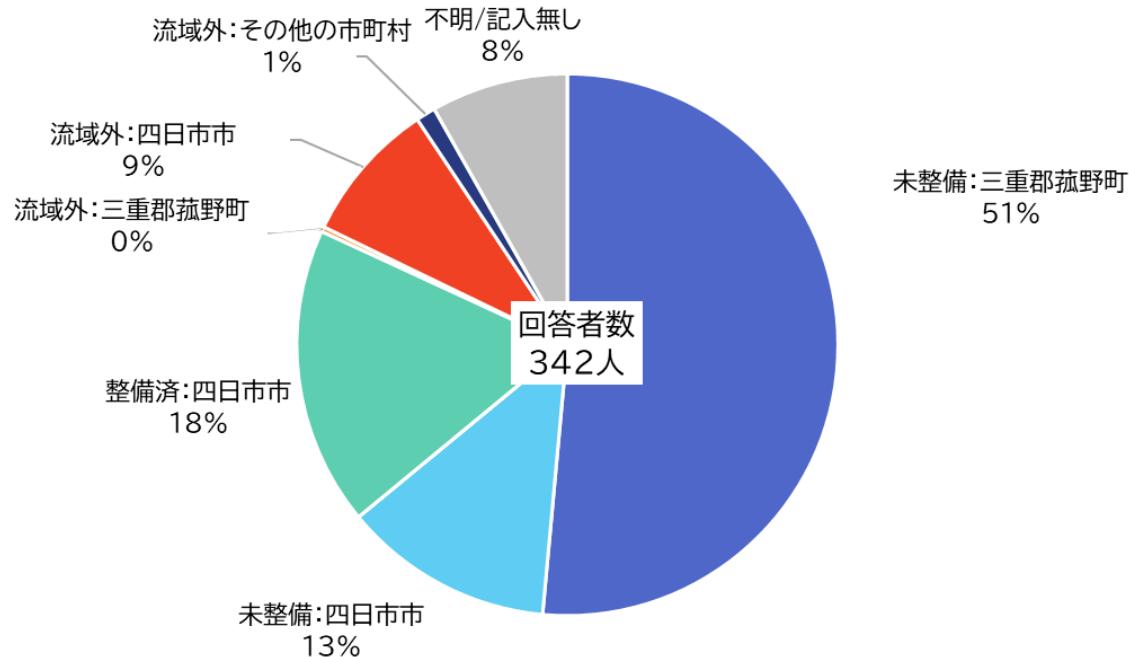
①年齢を教えてください。



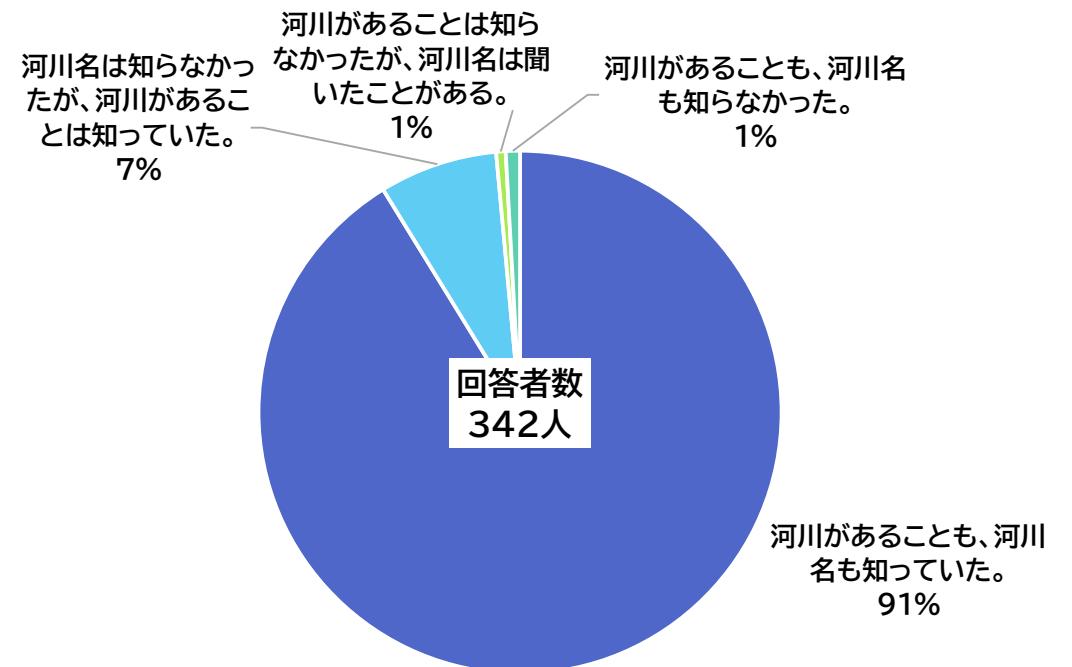
③現在の場所に何年お住まいですか？



②お住まいの地域を教えてください



④三滝川のことをご存じでしたか？



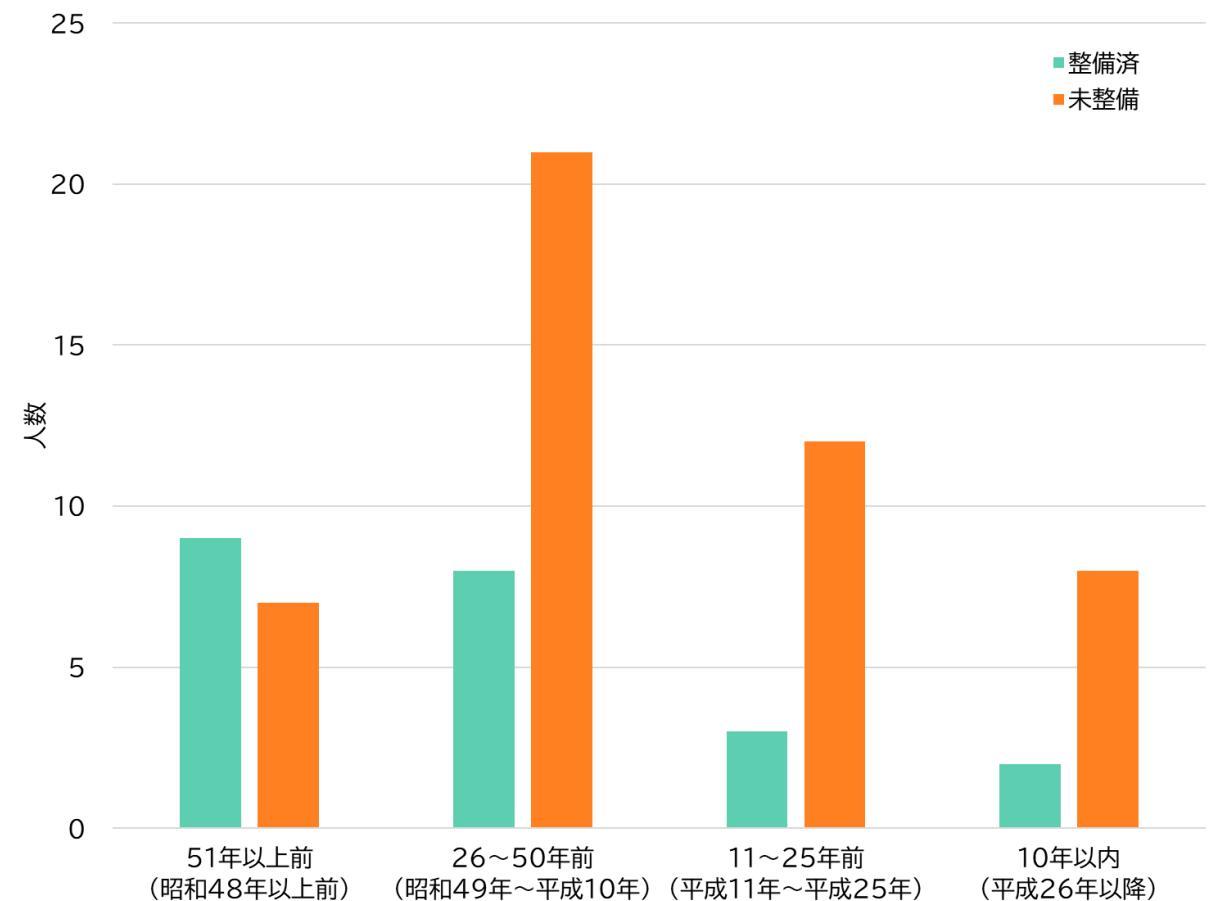
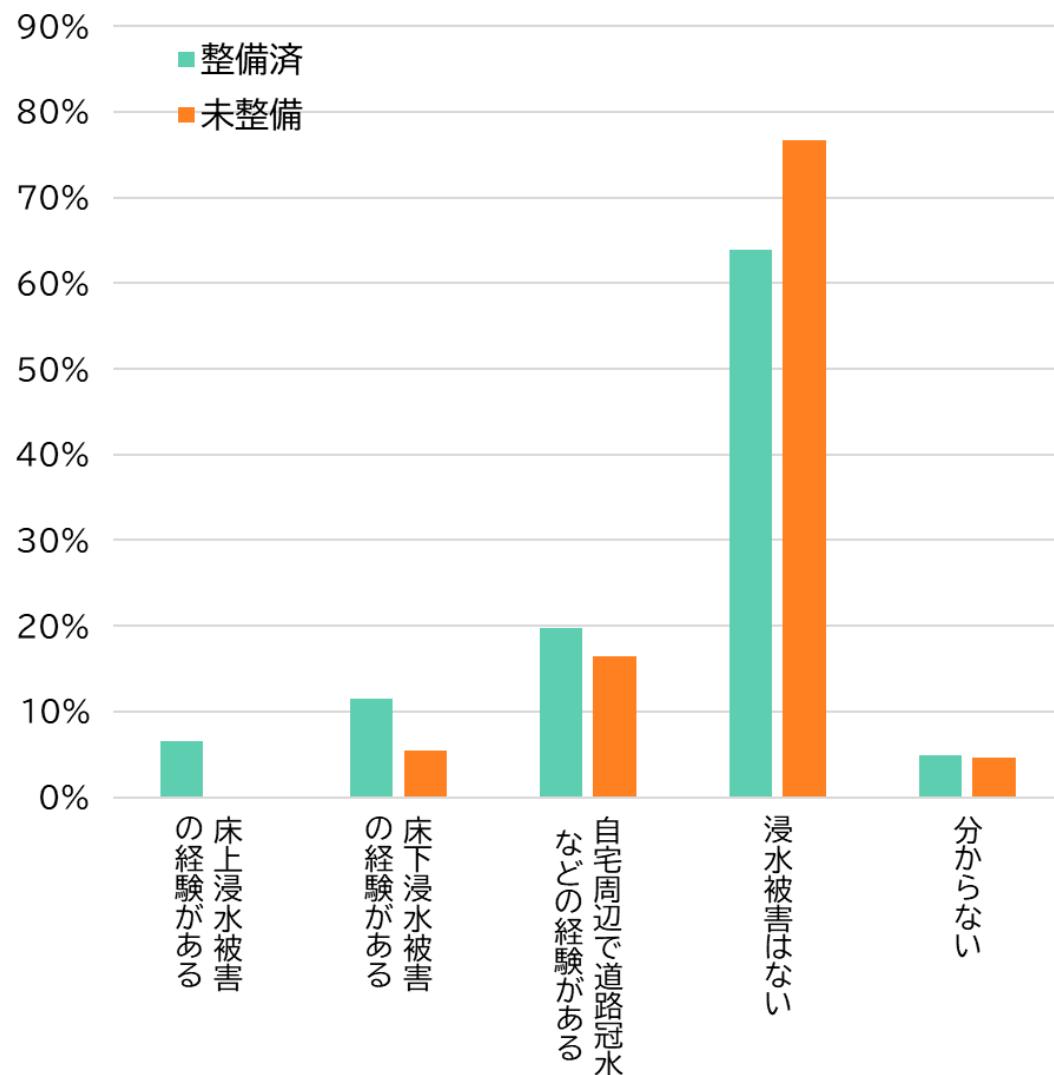


■調査結果② | 水害経験について (三滝川)

- 整備済区間、未整備区間とも、3割前後の方が水害を経験されていた。
- 床上または床下浸水被害の経験があると回答した方の割合は、整備済区間で15%、未整備区間で5%程度であった。
- 整備済区間で水害の経験があると回答した方は、26年以上前の経験を挙げるが多かった。

⑥現在のお住まいで、過去に水害(家屋の浸水等)にあったご経験がありますか？

⑦水害はいつ頃経験されましたか？ (⑥で水害の経験があると答えた人に質問、複数選択可)



(参考)期間中の主な豪雨災害

S36梅雨
前線豪雨等

平成2年
台風19号
台風20号等

東海豪雨等

令和元年9月
豪雨
令和2年台風
10号等

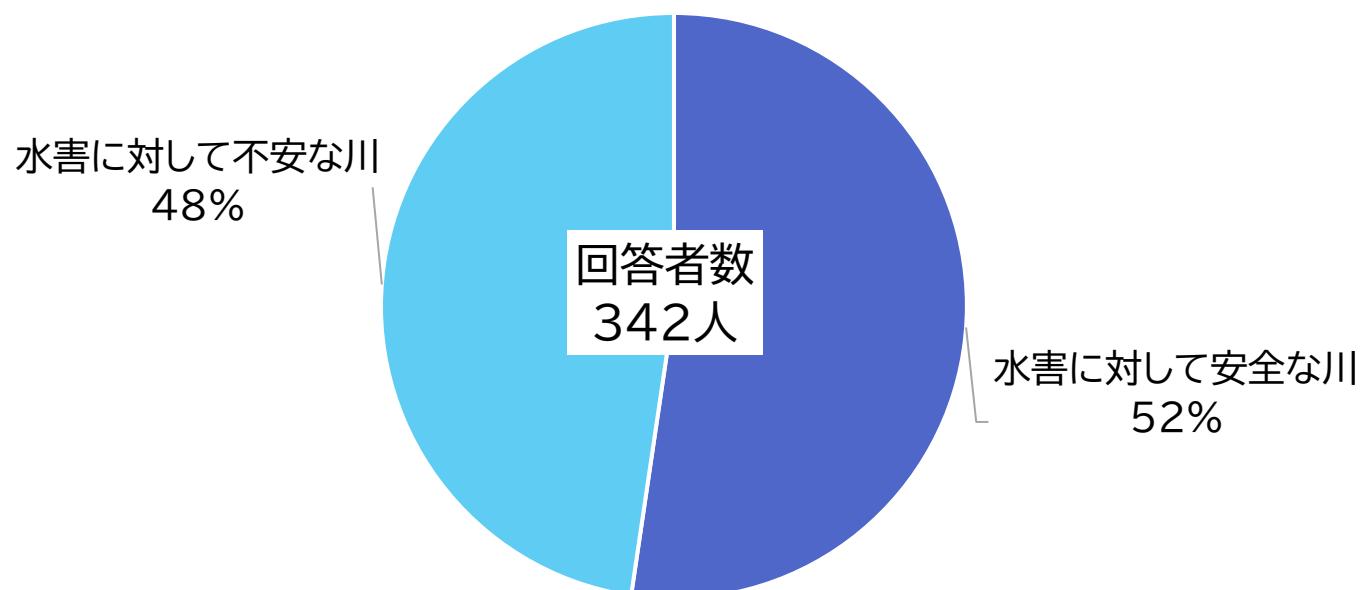


■調査結果③ | 水害への不安について（三滝川）

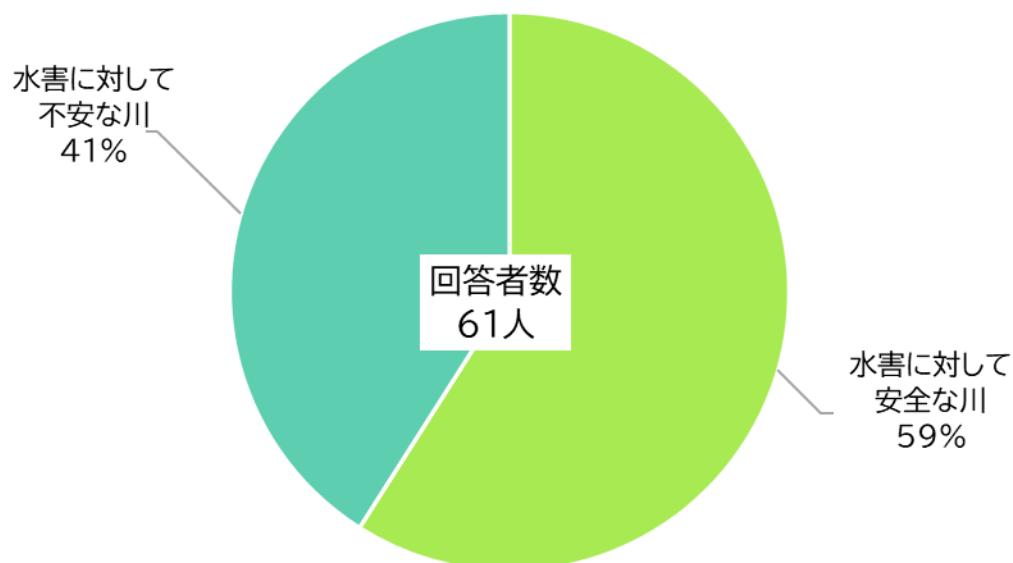
- 三滝川に対する回答のうち、概ね50%程度が「水害に対して不安な川」と回答した。
- 整備済区間に比べ、未整備区間で「水害に対して不安な川」と回答した割合が高かった。

⑧三滝川は、水害に対して安全だと感じられますか？（1つ選択）

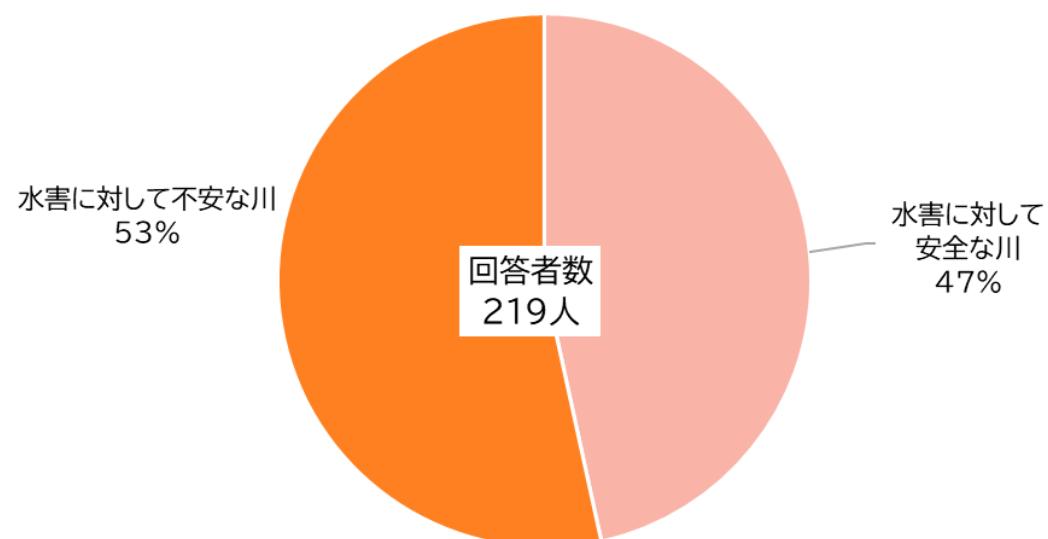
【全体】



【整備済区間】



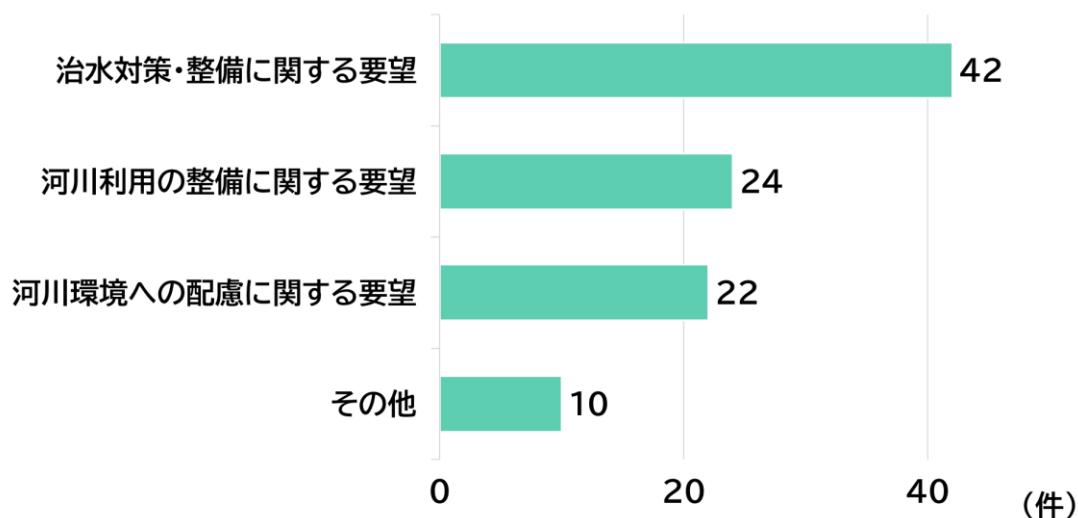
【未整備区間】



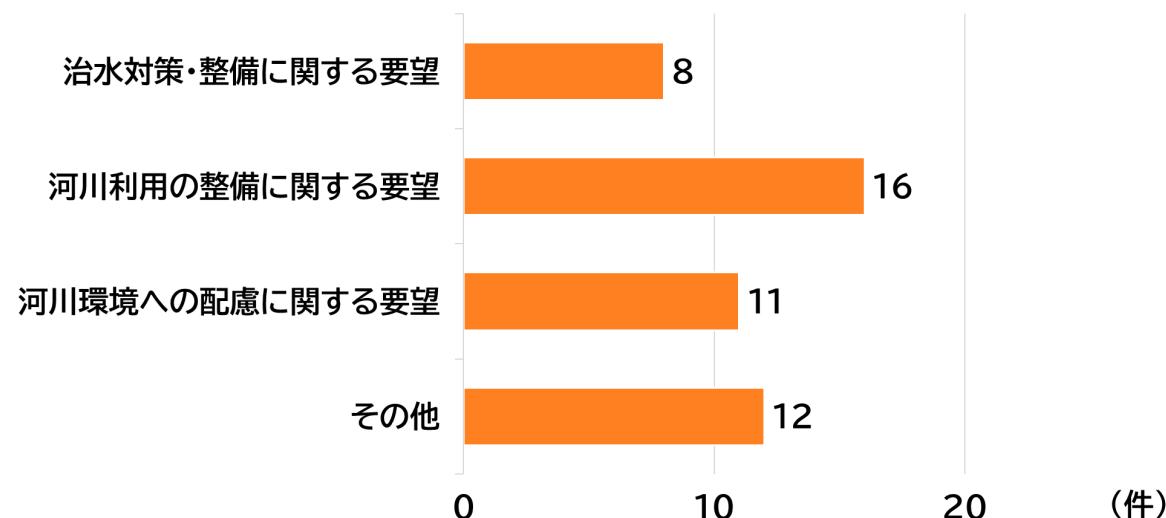


■第1回アンケート調査結果（三滝川：自由意見）

- 未整備区間では、治水対策・整備に関する要望の比率が高かった。
- 整備済区間では、河川利用に関する要望の比率が高かった。



未整備区間



整備済区間

治水対策・整備に関する意見(抜粋)

- 雨が結構降ったら、すぐ一杯になるので氾濫が怖いです。(未整備区間[工事区間]:四日市市)
- 豪雨に依る洪水被害から守るべき安全性の高い河川にして欲しい。(未整備区間[工事区間外]:菰野町)
- 護岸整備が重要であると痛切に思います。(未整備区間[工事区間外]:菰野町)
- 上流域で水害危険箇所が多数、整備を願う。(未整備区間[工事区間外]:菰野町)
- 河川事業への取組みは理解できますが部分的に実施してるかの様に見えます。(未整備区間[支川]:四日市市)
- 最下流の老廃化した堤防の整備を至急してほしい。(整備済区間:四日市市)

河川利用の整備に関する意見(抜粋)

- 三滝川の南側の道路(堤防)に散歩やジョギングできる歩道があるといいのと思う。(整備済区間:四日市市)
- 護岸堤防、河川敷の除草等の美化への管理(整備済区間:四日市市)
- 子どもたちが安全に川遊びができる親水公園が欲しい。(未整備区間[工事区間外]:菰野町)

河川環境への配慮に関する意見(抜粋)

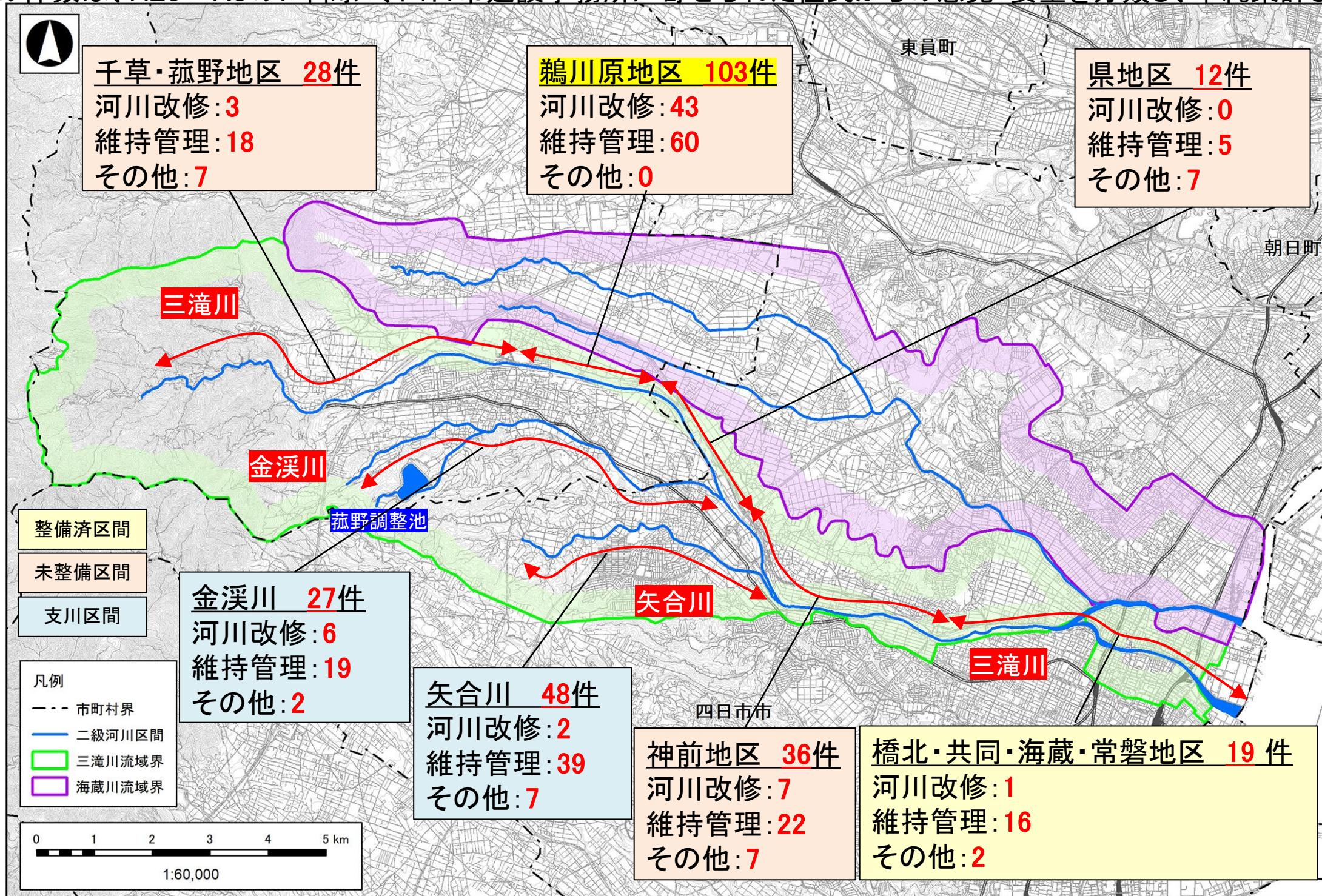
- 散歩コースは年中野鳥が楽しめます。野鳥の保護の観点も計画に反映させてください。(整備済区間:四日市市)
- 護岸ではなく魚の隠れる岩場や木陰を作り、さらに自然豊かな川にしてほしい。(未整備区間[工事区間外]:菰野町)

【参考】四日市建設事務所への要望（三滝川）



- 河川に関する行政への要望は、土砂撤去や樹木伐採など維持管理に関するものが多い。
- 河床掘削や堤防嵩上げなど、河川改修に関わる要望は、主に未整備区間でみられ、特に河川整備計画の工事区間外である鶺河原地区付近が多い。

注) 下図の件数は、H29～R5の7年間に、四日市建設事務所に寄せられた住民からの意見・要望を分類し、単純集計したもの。



■第1回アンケート調査結果（三滝川まとめ）



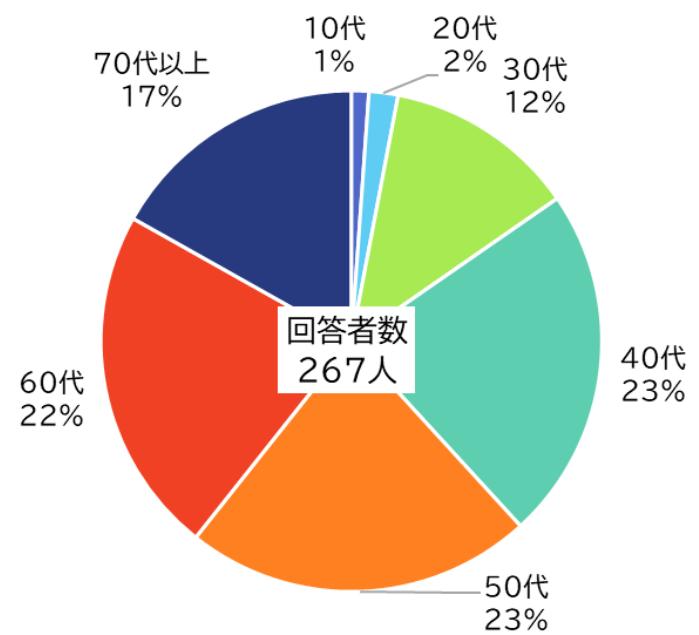
<p>災害について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 回答者の約7割は水害経験がなく、水害経験者のうち整備済区間の方は26年以上前の経験を挙げる人が多いことから、河川整備による効果が見られる。 ◆ 水害に対して不安と回答した方は、整備区間で約4割、未整備区間で約5割であり、未整備区間周辺の方が不安を感じる意識が強い。 ◆ 未整備区間では、洪水に対して危険だと思ふ理由として「川の中に堆積土砂や樹木が多い」と回答した方が約7割を占めており、水害に対する不安を感じさせる主要な要因と推察される。（整備済区間では約2割） ◆ 自由意見や住民要望からは、特に菰野町の区間（河川整備計画の工事区間外）で河川改修に関する要望が強いことが見られる。
<p>水質について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 水質が「きれい」との回答は約5割、「汚い」との回答は約1割であり、「きれい」と回答した理由は見た目に関連する回答が約6割を占め、三滝川は多くの人に「きれいな川」という印象を持たれていると推察される。
<p>自然・風景について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「自然豊かな川」との回答は約6割、「自然が少ない川」との回答は約2割であり、「自然が豊か」と回答した理由は「植生が豊か」が約4割を占める。 ◆ 「景色が良い川」との回答は約6割、「景色が悪い川」との回答は約2割であり、「景色が良い川」と回答した理由は「自然を感じる」との回答が約5割を占める。 ◆ 三滝川は多くの人に「自然豊かな川」という印象を持たれているとともに、河畔の植生が河川環境や景観形成に一定の機能を有していると推察される。
<p>利用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 月に数回以上行くとの回答が約5割と比較的多く、利用目的は「散歩ジョギング」が約7割、次いで「通勤・通学」「自然観察」がそれぞれ約2割で、主に整備された河川敷や堤防が活動の場になっていると推察される。

■調査結果① | 回答者の属性について (海蔵川)

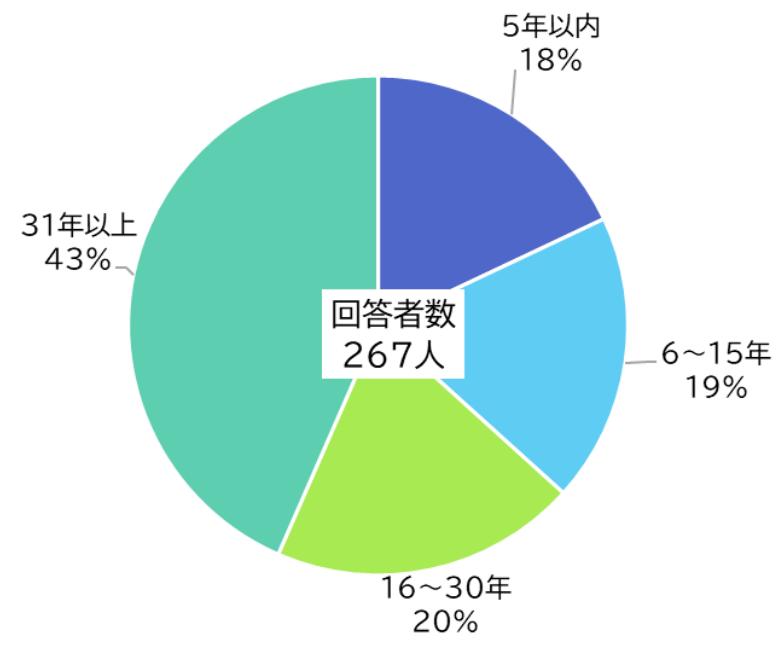


- 海蔵川に対する回答は、10代、20代を除いた幅広い世代から満遍なく得られた。
- 海蔵川についての回答者のうち、整備済区間の方からの回答が約60%を占め、未整備区間の方からの回答は約30%であった。

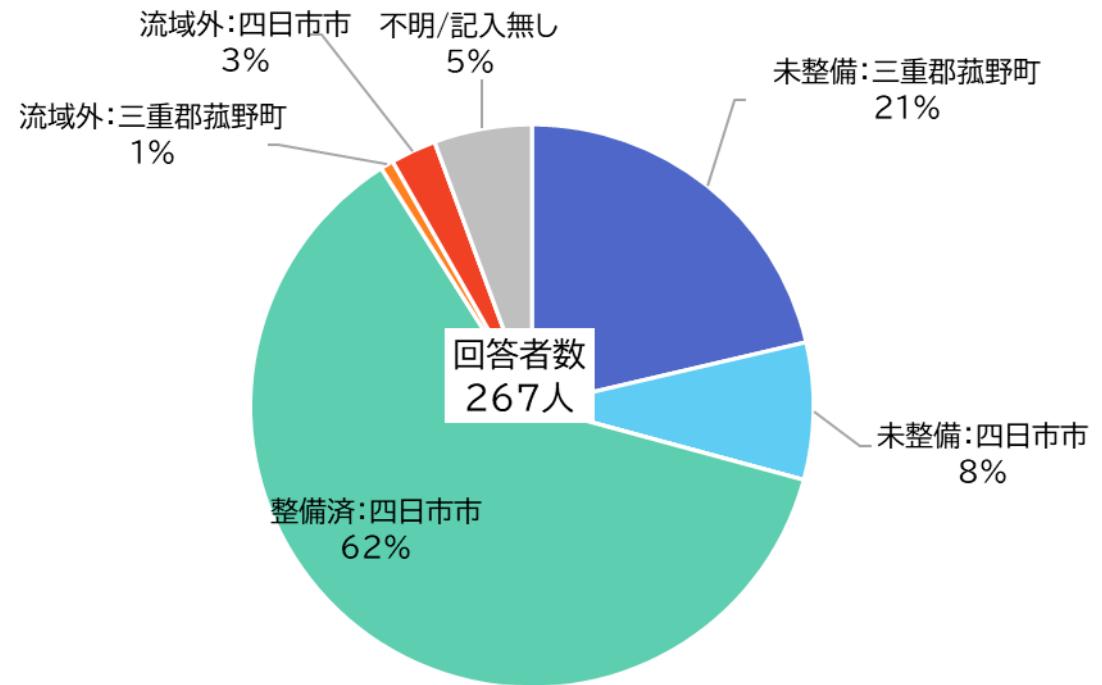
①年齢を教えてください。



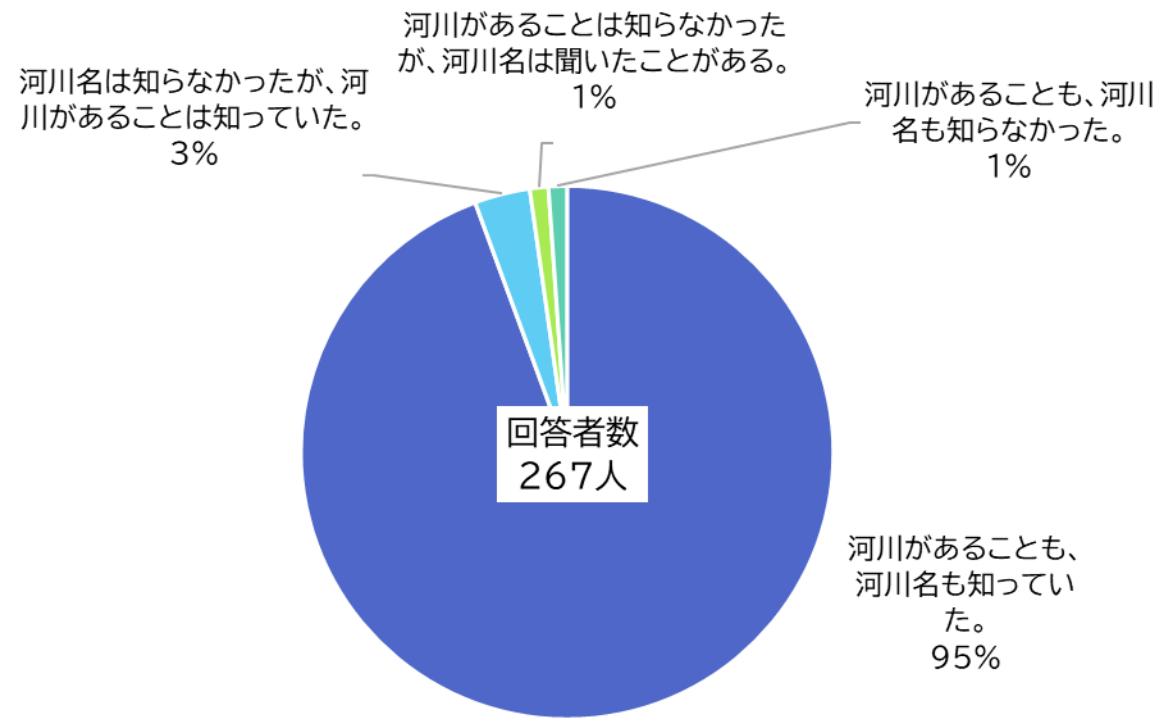
③現在の場所に何年お住まいですか？



② お住まいの地域を教えてください



④海蔵川のことをご存じでしたか？

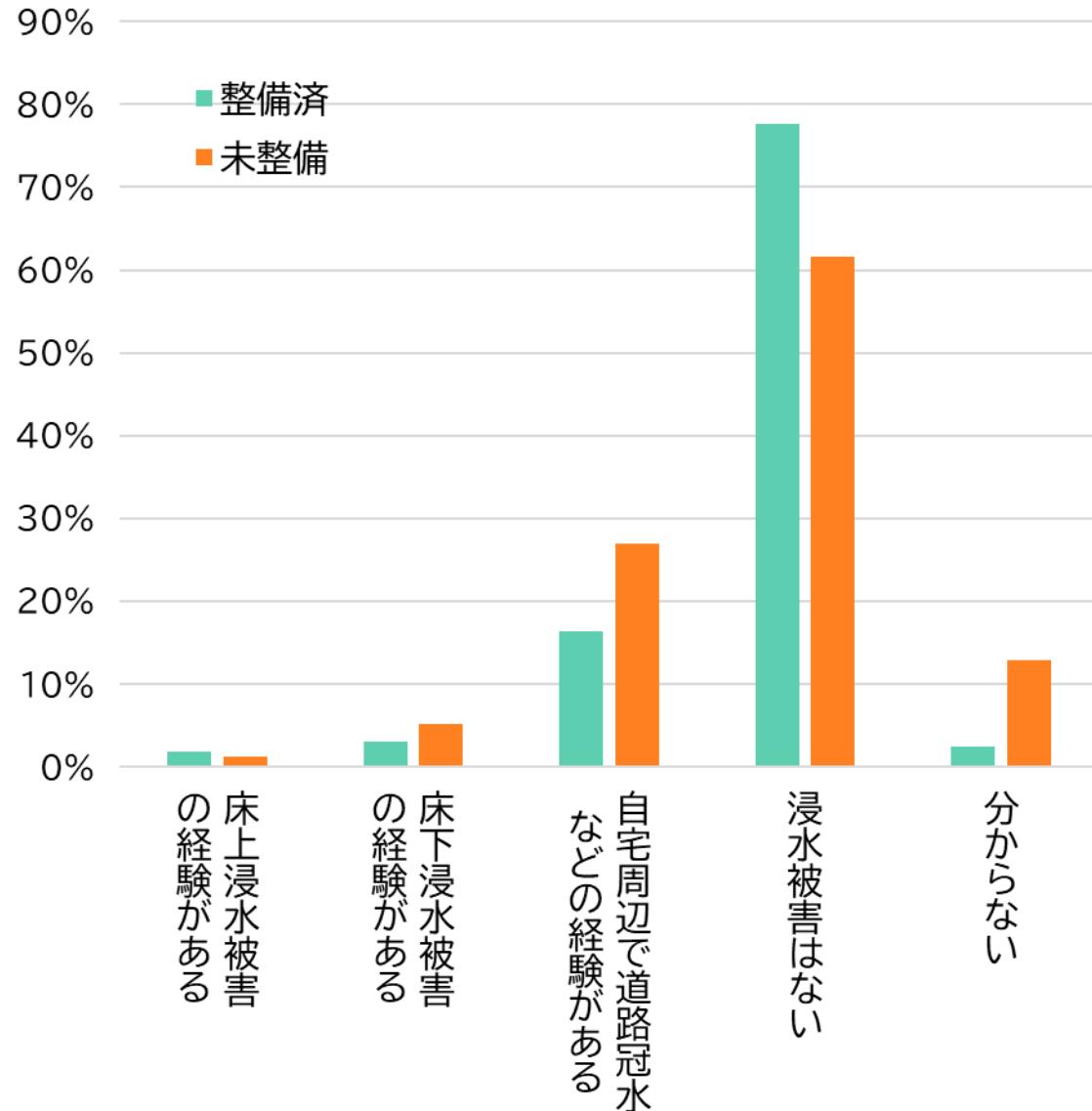




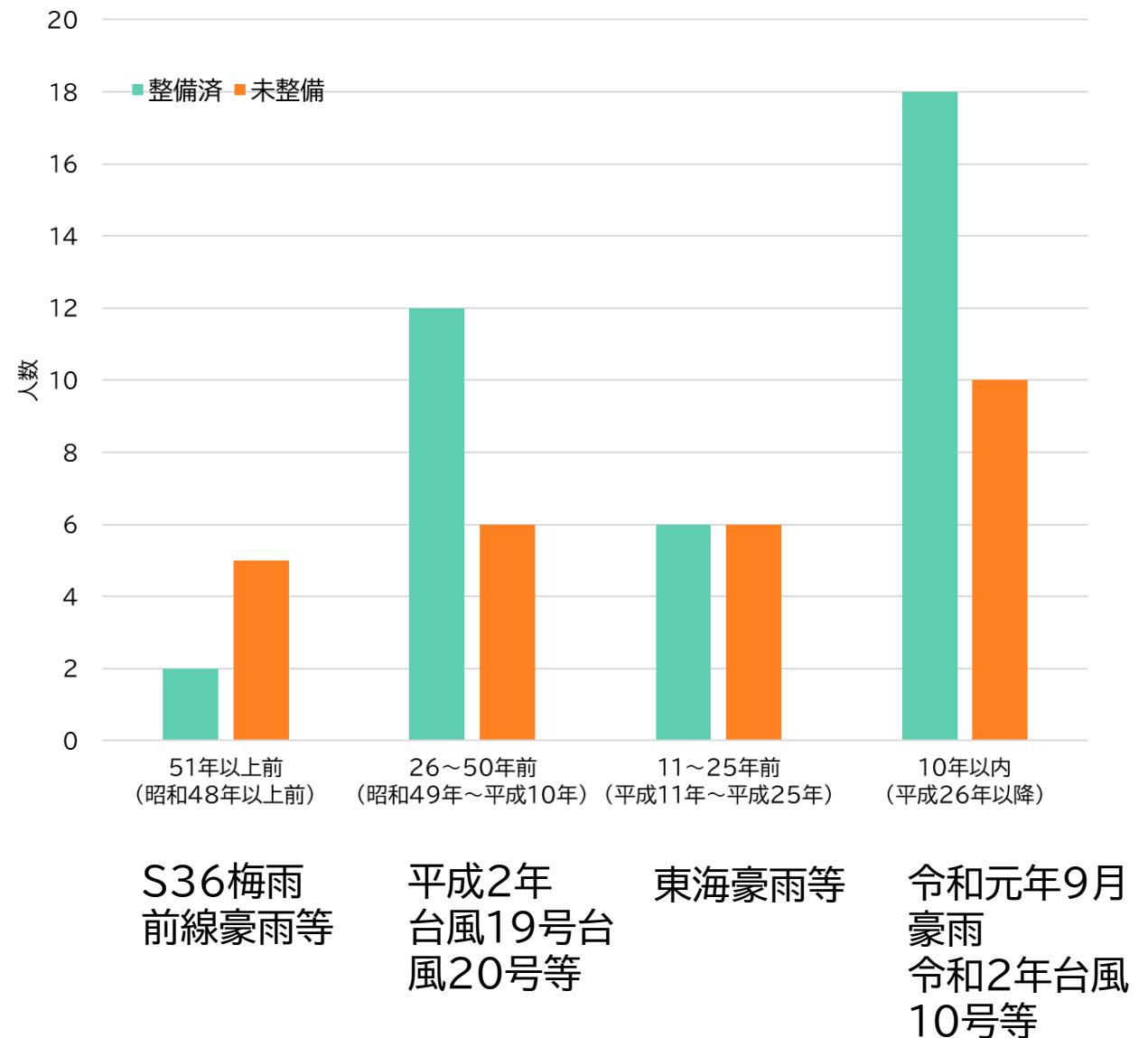
■調査結果② | 水害経験について（海蔵川）

- 整備済区間、未整備区間とも、3割前後の方が水害を経験されていた。
- 床上または床下浸水被害の経験があると回答した方の割合は、整備済区間、未整備区間とも10%以下であった。
- 整備済区間では水害経験として26～50年前と10年以内を挙げる人が多かった。
- 整備済区間における10年以内の水害経験は、主に内水氾濫によるものと推測される。

⑥現在のお住まいで、過去に水害(家屋の浸水等)にあったご経験がありますか？



⑦水害はいつ頃経験されましたか？ (⑥で水害の経験があると答えた人に質問、複数選択可)



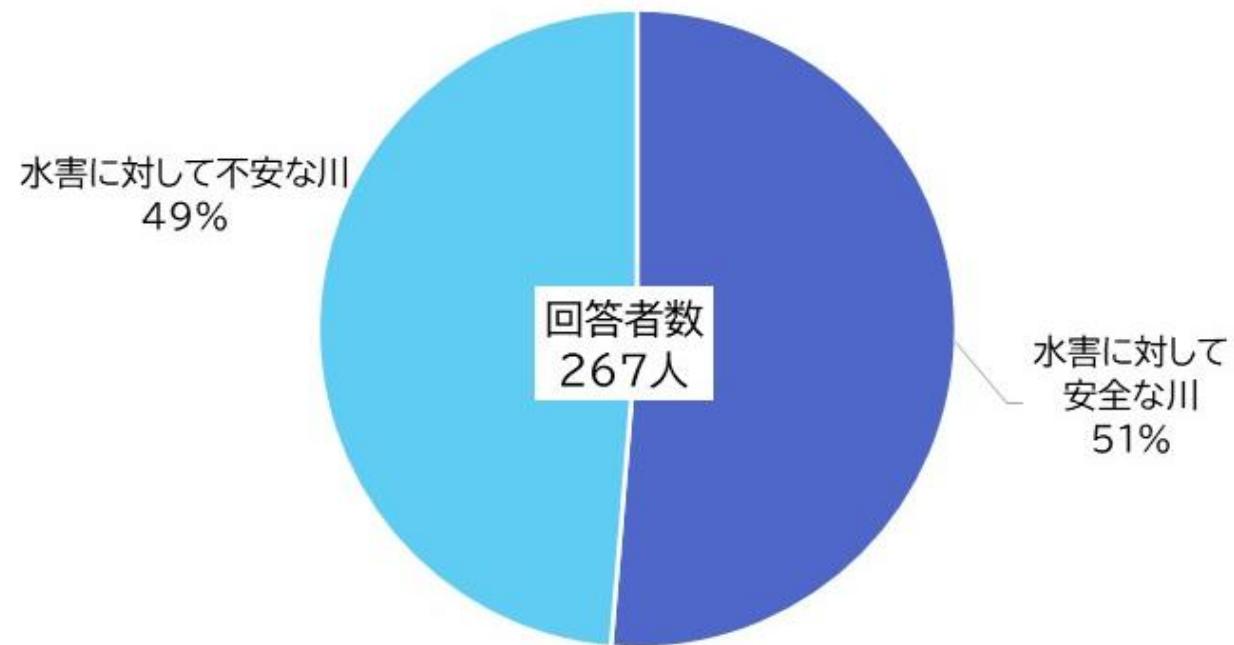
■調査結果③ | 水害への不安について（海蔵川）



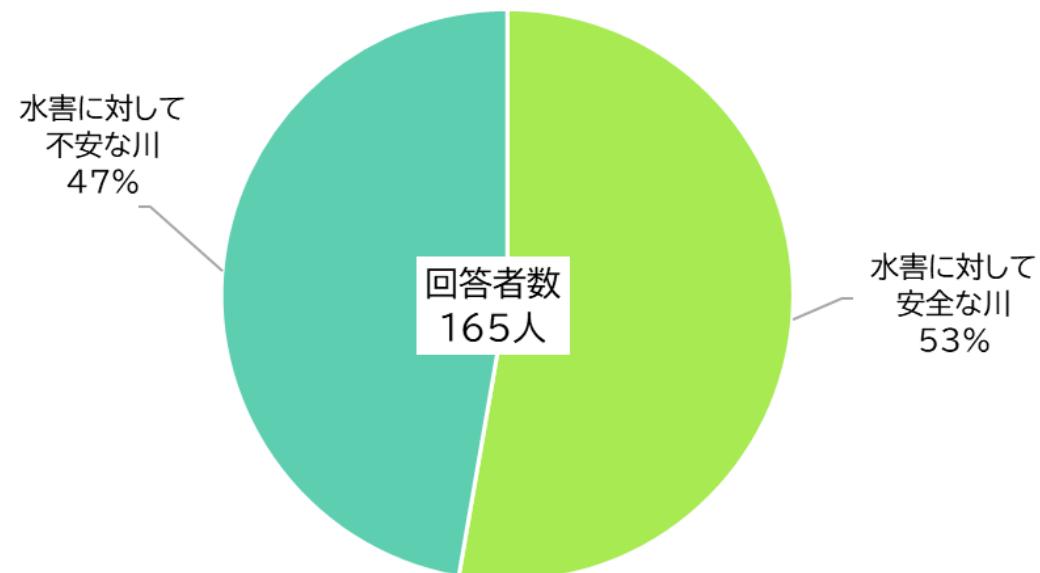
□ 未整備区間では「水害に対して不安な川」の回答が半数強と整備済区間よりもやや多かった。

⑧海蔵川は、水害に対して安全だと感じられますか？（1つ選択）

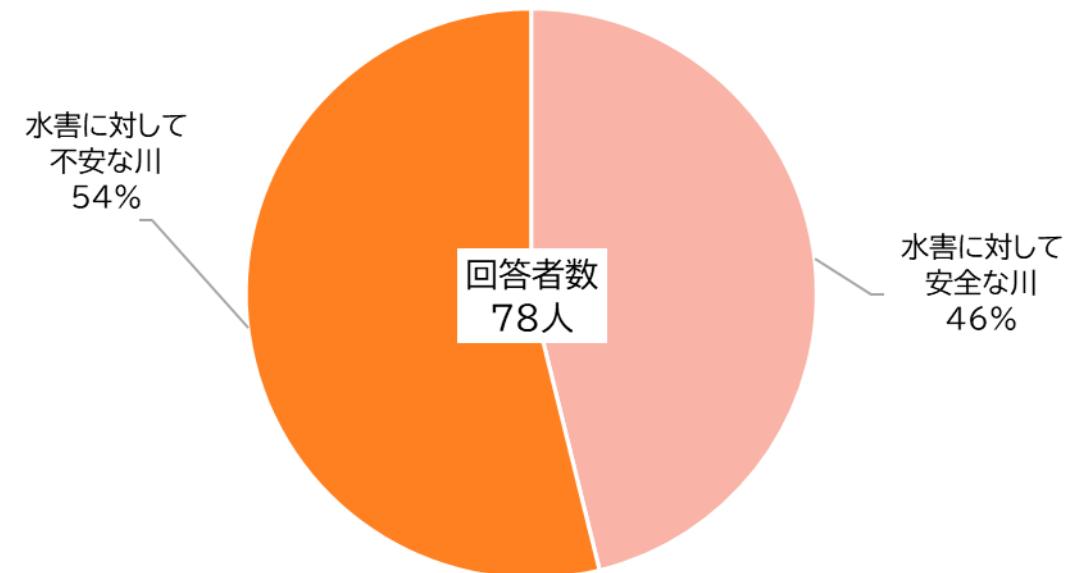
【全体】



【整備済区間】



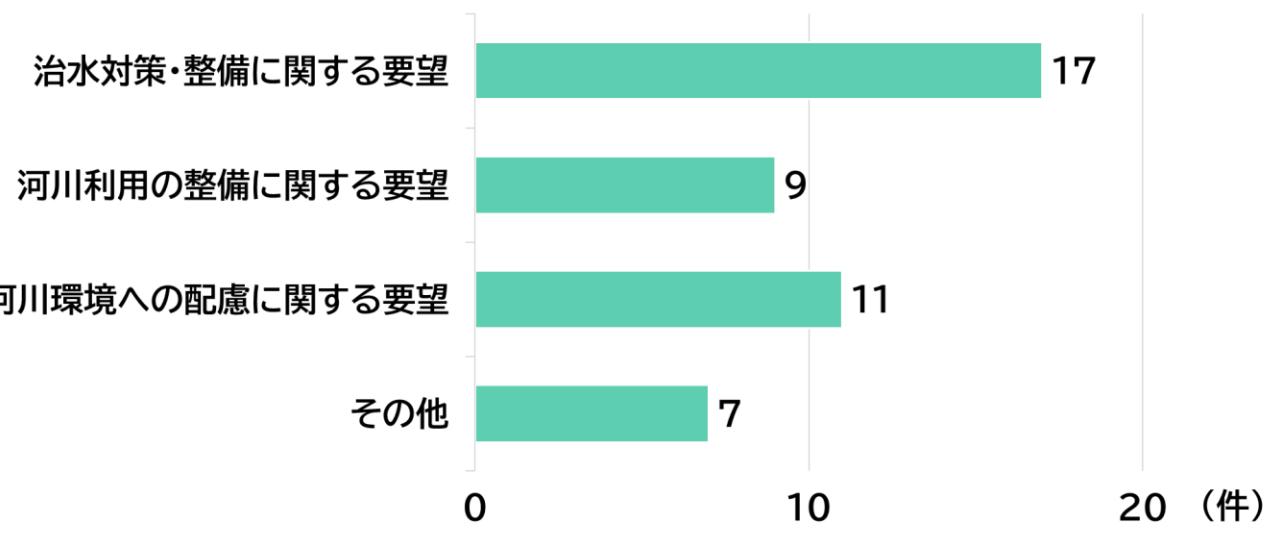
【未整備区間】



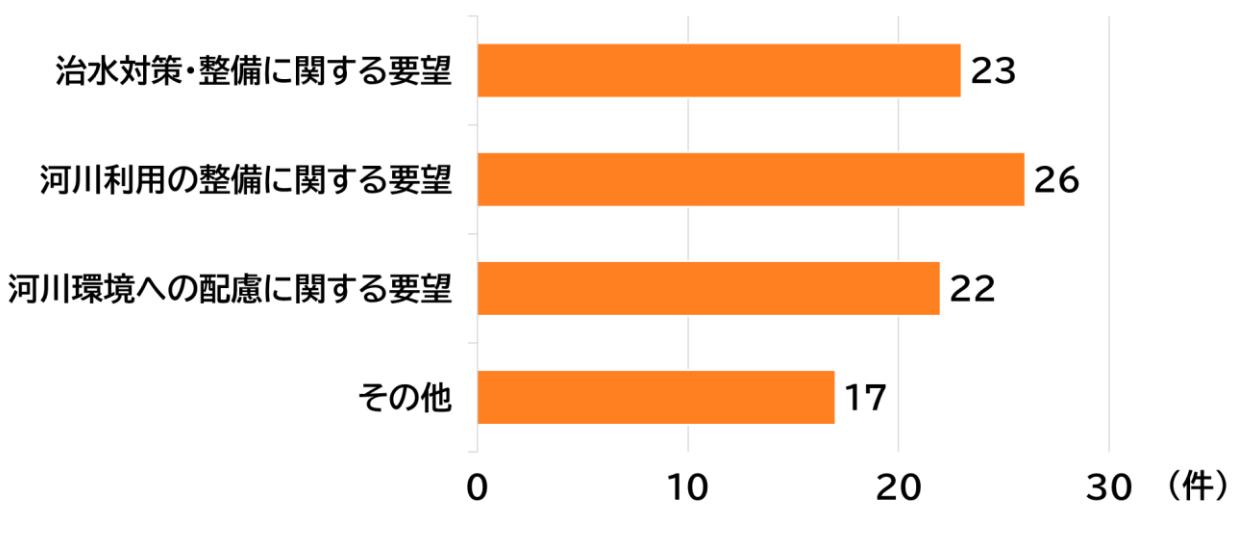


■第1回アンケート調査結果（海蔵川：自由意見）

- 未整備区間では、維持管理に関する要望の比率が高かった。
- 整備済区間では、河川利用に関する要望の比率が高かった。



未整備区間



整備済区間

治水対策・整備に関する意見（抜粋）

- 川に土が増え、樹木や草が増えています。流れもスムーズではないと感じる場所が多々あります。対策をお願いしたいです。（未整備区間[工事区間外]：菰野町）
- 洪水や高波で海蔵川が氾濫しないことを希望する。（整備済区間：四日市市）
- 三滝新川の改修に不安しかありません。説明不足です。（整備済区間：四日市市）
- 自身の土地の河岸が整備されておらず、大雨洪水の際には岸壁が徐々に削られている。役場へ声あげるも放置されたままである。（未整備区間[工事区間外]：菰野町）
- 井堰付近の堆積土砂の撤去や曲がり部分の土手崩れ箇所の補修を依頼する。（未整備区間[工事区間]：四日市市）

河川利用の整備に関する意見（抜粋）

- 海蔵川は三滝川と比較すると整備が進んでいない、違法耕作も多く歩道、公園等の整備をお願いしたいです。（整備済区間：四日市市）
- 海蔵川の桜並木はいつまでも残してほしい。（整備済区間：四日市市）
- 草刈り等の日常管理を、確実にしてください。（未整備区間：菰野町）

河川環境への配慮に関する意見（抜粋）

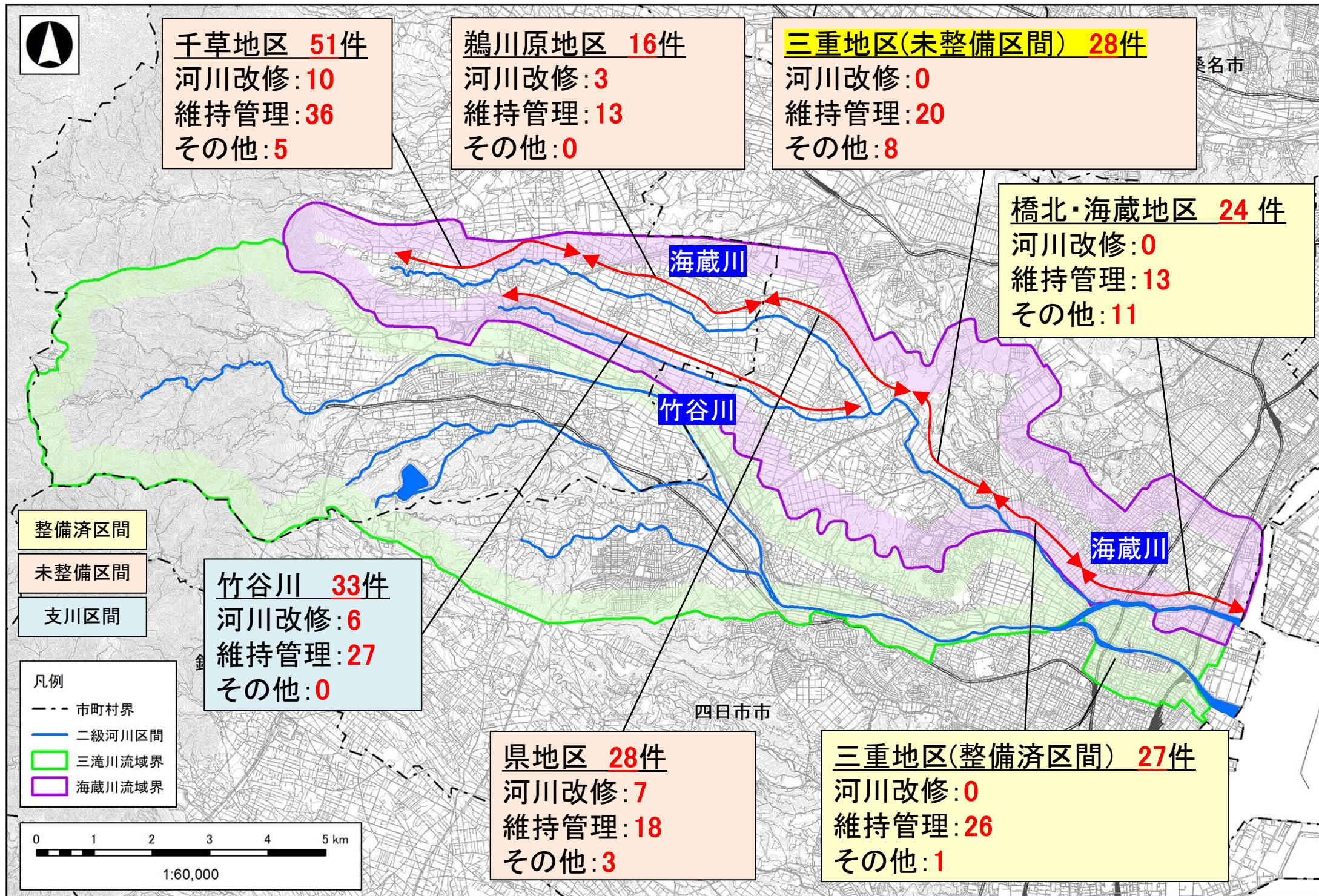
- PFASの検査をして、公開して欲しい。（整備済区間：四日市市）
- 自然を生かした環境整備をして欲しい。（整備済区間：四日市市）

【参考】四日市建設事務所への要望（海蔵川）



- 河川に関する行政への要望は、土砂撤去や樹木伐採など維持管理に関するものが多い。
- 整備済区間直上流(三重地区)では河川改修の要望はなく、維持管理によるものであった。**

注) 下図の件数は、H29～R5の7年間に、四日市建設事務所に寄せられた住民からの意見・要望を分類し、単純集計したものの。



■第1回アンケート調査結果（海蔵川まとめ）



<p>災害について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 回答者の約7割は水害経験がなく、床上または床下浸水被害の経験は1割以下であった。一方で、整備済区間でも10年以内の水害経験を挙げる方が一定数みられたが、これは内水氾濫による経験を挙げたものと推測される。 ◆ 水害に対して不安と回答した方は、整備済区間より未整備区間の方が多い。 ◆ 洪水に対して危険だと思う理由について、整備済区間では「河川施設の老朽化等」との回答が約5割（未整備区間は約1割）に対し、未整備区間では「川の中の堆積土砂や樹木」との回答が約7割（整備済区間は約2割）で、危険と感じる要因の違いがみられた。 ◆ 自由意見や住民要望からは、全体的に土砂撤去や樹木伐採など、維持管理に関する要望が強いことが見られる。
<p>水質について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 水質が「きれい」との回答は約3割、「汚い」との回答は約2割で、「きれい」と回答した理由は生物に関連する回答が約5割、「汚い」と回答した理由は見た目や臭いに関連する回答が約5割であった。 ◆ 海蔵川は取水堰が比較的多くあり、堰上げによる緩やかな流れが見た目と関連している可能性が考えられた。
<p>自然・風景について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「自然豊かな川」との回答は約5割、「自然が少ない川」との回答は約2割であり、「自然が豊か」とした理由は植生の豊かさに関連する回答が約4割だった。 ◆ 「景色が良い川」との回答は約5割、「景色が悪い川」との回答は約2割で、「景色が良い川」と回答した理由は、「自然を感じる」と回答が約6割だった。
<p>利用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 月に数回以上行くとの回答は約4割で頻度は高くないが、利用目的は「散歩・ジョギング」が約6割で最も多く、次いで「通勤・通学」「自然観察」がそれぞれ約2割であり、主に整備された河川敷や堤防が活動の場になっていると推察される。

目次

1. これまでの経緯 [変更]
2. 流域の概要
3. 現在の計画
4. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
5. 第1回住民アンケート調査結果
-  6. **利水の現状と課題**
7. 環境の現状と課題
8. 治水の現状
9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
10. 治水計画における見直しの方向性
11. 治水計画の見直し [新規]
12. 河川整備計画（原案）（案） [新規]
13. 今後の進め方 [変更]

■ 水利用の状況（水利権）

- **三滝川**水系では、許可水利権5件、慣行水利権27件あり、かんがい用水に利用されている。
- **海蔵川**水系には、許可水利権3件、慣行水利権75件あり、かんがい用水に利用されている。

【三滝川の水利権状況】 () 書きは慣行水利権のうち、取水実態が確認された水利権を示す。

区分	河川名	使用目的	件数	最大取水量	灌漑面積
許可	三滝川	かんがい	3件	3.068m ³ /s※	56.0ha
許可	金溪川	かんがい	2件	0.608m ³ /s	13.8ha
慣行	三滝川	かんがい	8 (3)件	0.573(0.152)m ³ /s	185.6(102)ha
慣行	矢合川	かんがい	7件	0.334m ³ /s	107.5ha
慣行	金溪川	かんがい	12件	0.787m ³ /s	110.2ha
合計			32件	5.370m ³ /s	473.1ha

※うち三重用水による取水量2.7m³/s(取水制限流量(夏期0.46m³/s冬期0.29m³/s)を上回る時のみ取水)



三滝合同井堰(三滝川6.8k付近)

【海蔵川の水利権状況】 () 書きは慣行水利権のうち、取水実態が確認された水利権を示す。

区分	河川名	使用目的	件数	最大取水量	灌漑面積
許可	海蔵川	かんがい	3件	0.189m ³ /s	146.6ha
慣行	海蔵川	かんがい	43(33)件	5.284(4.870)m ³ /s	607.4(579.8)ha
慣行	竹谷川	かんがい	32件	1.041m ³ /s	95.2ha
合計			78件	6.514m ³ /s	849.2ha



福水井堰(海蔵川5.7k付近)

■ 水利用の状況（三重用水）

- **三重用水**は、牧田川、員弁川、三滝川などから取水した水を中里貯水池や菰野調整池などに貯留し、4市2町※における農業用水の補給や水道用水、工業用水の供給を行っている。
- 両河川流域とも**三重用水**の受益区域となっており、農業用水の安定供給が図られている。

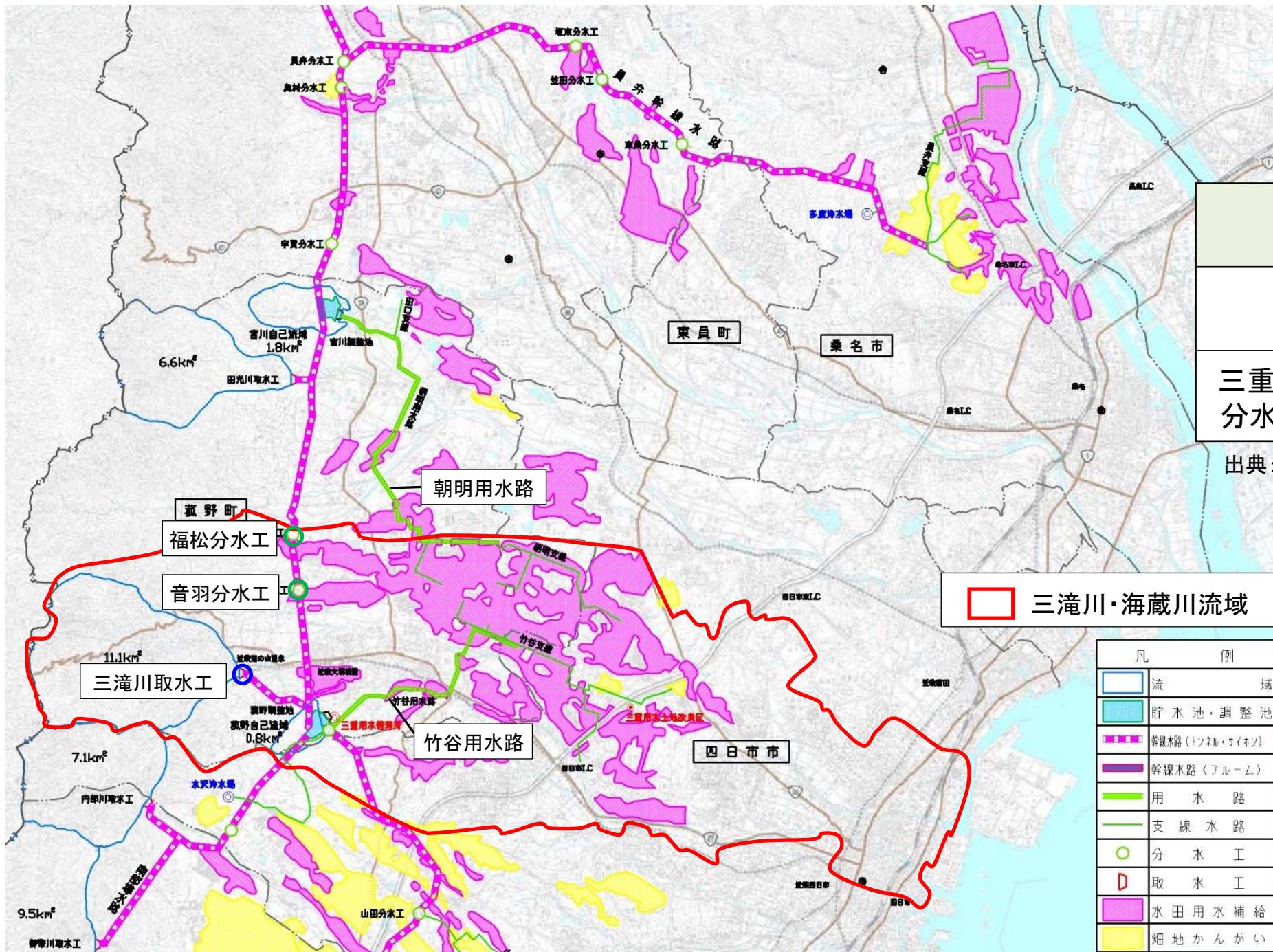
※4市2町：四日市市、いなべ市、桑名市、鈴鹿市、菰野町、東員町

三滝川・海蔵川流域周辺における実績取水量・分水量

区分	施設名	R2～R6平均 (千m ³ /年)
取水量	三滝川取水工	535
三重用水からの分水量(補給量)	-	6,051

出典：水資源機構 三重用水管理所提供データより作成

※農業用水は三重用水からの分水のほか、既存河川等からの取水もある。



三滝川・海蔵川流域

凡 例	
	流 域
	貯 水 池・調 整 池
	幹線水路(トンネル・サイフォン)
	幹線水路(フルーム)
	用 水 路
	支 線 水 路
	分 水 工
	取 水 工
	水田用水補給
	畑地かんがい

出典：三重用水土地改良区HP

■ 水利用の状況（空間利用）

- **三滝川**水系では、**上流区間**の渓谷は温泉地と一体的な観光地として、紅葉狩り、水遊びやピクニック等に利用されているほか、**中流区間**では高水敷にグラウンドやジョギングコースが整備され、地域住民のレクリエーションに活用されている。また、**下流区間**や**感潮区間上流部**においては「ふるさとの川モデル事業」として高水敷に芝生広場や遊歩道などが整備され、歴史的な市場（慈善橋市場）があるなど、都市の貴重なオープンスペースとして地域住民の散歩やレクリエーションに利用されているほか、**河口**では、釣り人の姿もみられる。
- **海蔵川**水系では、**中流区間**は川幅が狭く、特に空間利用はされていない。**下流区間**では高水敷が緑地として整備され、市民の憩いの場として利用されているほか、**河口**には球技場、サッカー場がある霞ヶ浦緑地が隣接し、市民のレクリエーションの場として利用されている。



ふるさとの川モデル事業
（三滝川 慈善橋付近）



三滝川ジョギングコース
（三滝川 庄部橋付近）



海蔵川緑地の桜並木
（海蔵川 海蔵橋付近）



【三滝川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 許可水利権5件、慣行水利権27件があり、約473haに及ぶ耕地のかんがい用水として利用されている。 ➤ 観光地や歴史的な市場があるなど、都市の貴重なオープンスペースとして地域住民の散歩やレクリエーションに活用されている。 ➤ アンケート結果からは、散歩やジョギングなど、整備された河川敷や堤防を活動の場とする利用形態が多いことが推察された。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 水利用の効率化を促進し、既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境の維持・改善 ➤ 河川愛護のための啓発活動や住民との協働による維持管理等の取り組み

【海蔵川】

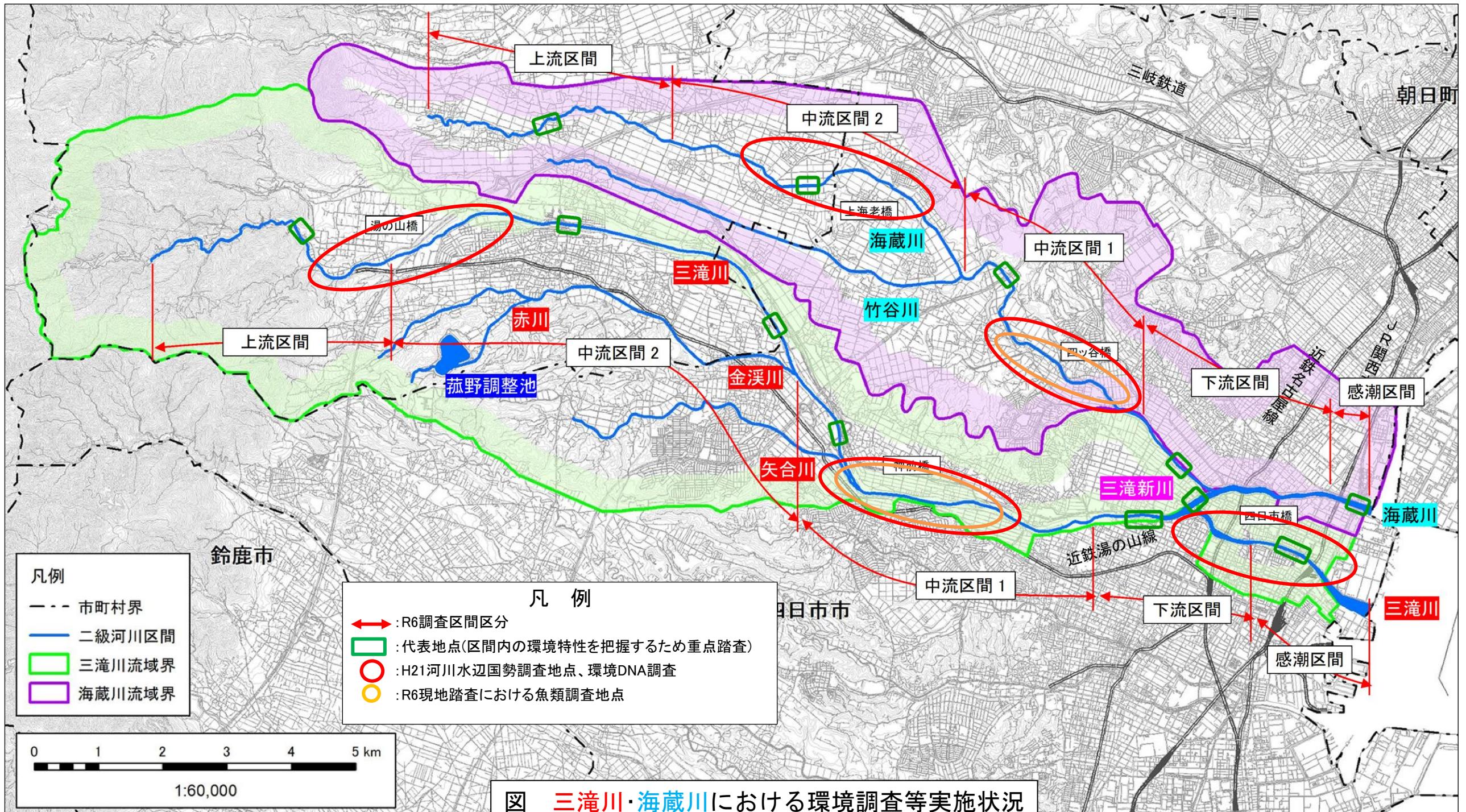
項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 許可水利権3件、慣行水利権75件と水利権が多く、約849haに及ぶ耕地のかんがい用水として利用されている。 ➤ 下流区間では高水敷が緑地として整備され、河口には霞ヶ浦緑地が隣接し、市民のレクリエーションの場として利用されている。 ➤ アンケート結果からは、散歩やジョギングなど、整備された河川敷や堤防を活動の場とする利用形態が多いことが推察された。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 水利用の効率化を促進し、既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境の維持・改善 ➤ 河川愛護のための啓発活動や住民との協働による維持管理等の取り組み

目次

1. これまでの経緯 [変更]
2. 流域の概要
3. 現在の計画
4. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
5. 第1回住民アンケート調査結果
6. 利水の現状と課題
-  7. **環境の現状と課題**
8. 治水の現状
9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
10. 治水計画における見直しの方向性
11. 治水計画の見直し [新規]
12. 河川整備計画（原案）（案） [新規]
13. 今後の進め方 [変更]

環境調査の概要

- **三滝川**: 令和6年5月(春季)、11月(秋季)に現地踏査・魚類調査、環境DNA調査を実施。
- **海蔵川**: 令和6年5月(春季)、11月(秋季)に現地踏査・魚類調査、環境DNA調査を実施。
- 平成21年の河川水辺の国勢調査(魚類)では、**三滝川**3地点、**海蔵川**2地点で調査を実施。



河川環境（三滝川：河川環境）河口～中流域



□ 感潮区間：流れは緩やかで河床材料は砂泥。植生はやや乏しい。



老松橋から上流方向

□ 下流区間：流れは多様で河床材料は砂泥～粗礫。水際にはヨシ等が生育。



野田橋から上流方向

□ 中流区間1：流れは緩やかで河床材料は砂～中礫。堰による連続性分断あり。



神前橋(三三四2)から上流方向



老松橋から下流方向

感潮区間の状況



野田橋から下流方向

下流区間の状況



神前橋(三三四2)から下流方向

中流区間1の状況

河川環境（三滝川：河川環境）中流域～上流域



□ 中流区間2: 流れは緩やかで河床材料は砂泥～粗礫。河畔林が連続。伏流区間。



梶橋から上流方向

□ 中流区間3: 流れは多様で河床材料は砂質。伏流区間で無水になる時もある。



菰野大橋から上流方向

□ 上流区間: 流れは速く、瀬淵が連続。河床材料は石～岩盤の溪流。河畔林。



老松橋から上流方向



梶橋から下流方向

中流区間2の状況



菰野大橋から下流方向

中流区間3の状況



老松橋から下流方向

上流区間の状況

河川環境（三滝川：魚類）

- **三滝川**：魚類調査・環境DNA調査・河川水辺の国勢調査で、ギンブナ、オイカワ、アブラハヤ、カマツカ、マハゼ、カワヨシノボリなど**34種**の魚類が確認された。
- **重要種**は、**スナヤツメ**、**ニホンウナギ**、**ドジョウ**、**アカザ**、**ミナミメダカ**、**カマキリ**、**ドンコ**の**7種**を確認。特定外来生物は、**カダヤシ**、**オオクチバス**の**2種**を確認。

重要種（魚類）

注) 写真右上の「春」「夏」「秋」は確認時期



スナヤツメ(中流) ※H21



ニホンウナギ(下流) ※H21・環D



ドジョウ(中流) ※H21・環D



アカザ(中流) ※H21・環D



ミナミメダカ(下流・中流) ※H21



カマキリ(下流) ※H21

特定外来生物（魚類）



カダヤシ(中流) ※H21・R6・環D



オオクチバス(下流) ※H21



ドンコ(中流) ※H21・R6・環D

※は確認された調査。H21：H21年度 河川水辺の国勢調査 R6：R6年度 現地踏査 環D：R6年度 環境DNA調査(ただしコピー数200未満の種は信憑性が低いため除外)

河川環境（三滝川：その他生物・植物）

- **三滝川**：現地踏査で、159種（春116種、秋91種）の生物・植物が確認された（魚類を除く）。
- 水辺付近ではヨシ、ツルヨシ、ミゾソバ等の植物、カルガモ、ダイサギ、カワセミ、カワガラス等の動物、河岸付近ではムクノキ、カワヤナギ、マダケ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、クズ等の植物、ウグイス、ムクドリ、コゲラ、トノサマバツタ、シオカラトンボ等の動物を確認。
- **重要種**は、カワヂシャ、アオハダトンボ、アキアカネ、ミヤマアカネ、イカルチドリ、コチドリ、トノサマガエルの計7種を確認。特定外来生物は、アレチウリ、オオキンケイギク、ヌートリア等、計6種を確認。

注) 下線の種は秋季調査での追加種

重要種（魚類以外）



春

カワヂシャ(下流・中流)



春

アオハダトンボ(中流)



秋

アキアカネ(下流・中流)



秋

ミヤマアカネ(中流)



春・秋

イカルチドリ(中流)



春

コチドリ(中流)



春

トノサマガエル(中流)

注) 写真左上の「春」「秋」は確認時期

特定外来生物（魚類以外）



春・秋

アレチウリ(下流・中流)



春

オオカワヂシャ(下流・中流)



春

オオキンケイギク(中流)



春・秋

ウシガエル(中流)



秋

写真は海蔵川

ヌートリア(下流・中流)



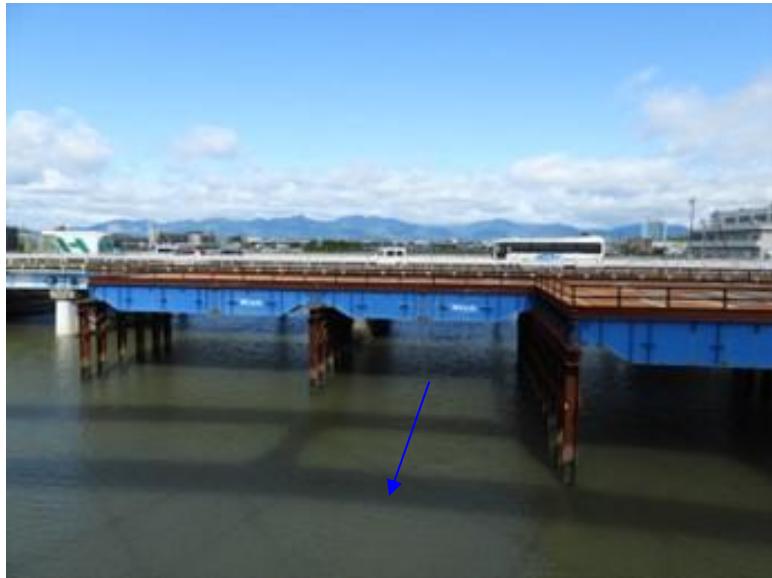
春・秋

アライグマ(下流・中流) 画像出典：環境省提供資料

河川環境（海蔵川：河川環境） 河口～中流域



□感潮区間：流れは緩やかで河床材料は砂泥。植生は乏しい。



霞ヶ浦パークブリッジから上流方向

□下流区間：流れは緩やかで河床材料は砂泥。水際にはヨシ等が生育。



新海蔵橋から上流方向

□中流区間1：流れは多様で河床材料は砂泥～中礫。堰による湛水域が多い。



四ッ谷橋(海海四1)から上流方向



霞ヶ浦パークブリッジから下流方向

感潮区間の状況



新海蔵橋から下流方向

下流区間の状況



四ッ谷橋(海海四1)から下流方向

中流区間1の状況

■河川環境（海蔵川：河川環境） 中流域～上流域・三滝新川

□中流区間2:流れは多様で河床材料は砂泥～中礫。河道内にツルヨシ繁茂。



新海蔵橋から上流方向

□上流区間:流れは単調で河床材料は砂泥～中礫。河道内にツルヨシ。



岡橋から上流方向

□三滝新川:通常時には流水はほぼなく、現在は掘削工事中。



末永橋から上流方向



新海蔵橋から下流方向

中流区間2の状況



岡橋から下流方向

上流区間の状況



末永橋から下流方向

三滝新川の状況

河川環境（海蔵川：魚類）

- 海蔵川：魚類調査・環境DNA調査・河川水辺の国勢調査で、オイカワ、カワムツ、イトモロコ、ミナミメダカ、カワヨシノボリなど**23種**の魚類が確認された。
- 重要種は、**スナヤツメ**、**イトモロコ**、**ドジョウ**、**ミナミメダカ**、**ドンコ**の**5種**を確認。
- 特定外来生物は、**ブルーギル**の**1種**を確認。

重要種（魚類）



スナヤツメ(中流) ※H21



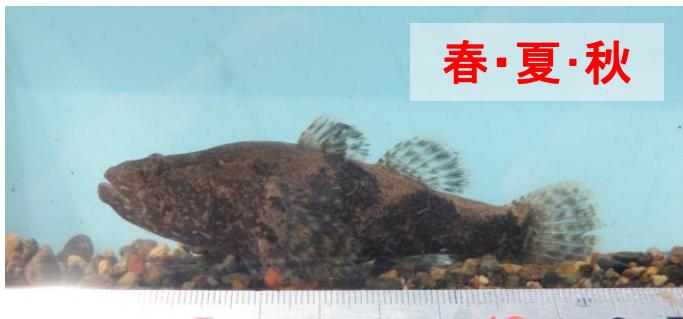
イトモロコ(中流) ※H21・R6・環D



ドジョウ(中流) ※H21・環D



ミナミメダカ(中流) ※H21・R6・環D



ドンコ(中流) ※H21・R6・環D

注)写真右上の「春」「夏」「秋」は確認時期

特定外来生物（魚類）



ブルーギル(中流) ※H21

※は確認された調査。H21：H21年度 河川水辺の国勢調査 R6：R6年度 現地踏査 環D：R6年度 環境DNA調査(ただしコピー数200未満の種は信憑性が低いため除外)

河川環境（海蔵川：その他生物・植物）

- **海蔵川**：136種（春96種、秋85種）の生物・植物が確認された（魚類を除く）。
- 水辺付近ではツルヨシ、ミゾソバ等の植物、アオサギ、ダイサギ、カワセミ、ニホンイシガメ等の動物、河岸付近ではエノキ、マダケ、セイバンモロコシ等の植物、ヒバリ、ムクドリ、モズ等の動物を確認。
- 重要種はカワヂシャ、ナガオカモノアラガイ、アキアカネ、コガムシ等、計10種を確認。
- 特定外来生物は、オオフサモ、アレチウリ、オオキンケイギク、ヌートリア等の計9種を確認。

注) 下線の種は秋季調査での追加種 **重要種**（魚類以外）

特定外来生物（魚類以外）



カワヂシャ(下流)



ナガオカモノアラガイ(中流)



アオハダトンボ(中流)
写真は三滝川



アキアカネ(中流・上流)



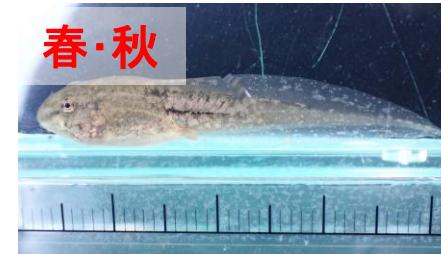
コガムシ(中流)



ヤマトアシナガバチ(下流)



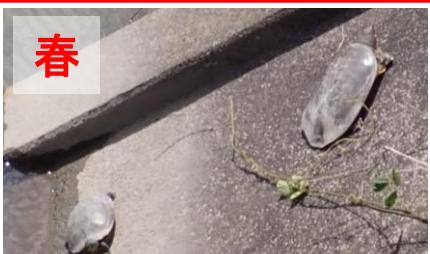
ミサゴ(下流)



トノサマガエル(中流)



ニホンイシガメ(下流・中流)



ニホンスッポン(下流・中流)

注) 写真左上の「春」「秋」は確認時期



アライグマ(中流) 画像出典：環境省提供資料



オオフサモ(下流・中流)



アレチウリ(中流)



オオカワヂシャ(中流)



オオキンケイギク(中流)



アメリカザリガニ(中流)



ウシガエル(中流)



ミシシippアカミガメ(下流・中流)



ヌートリア(下流・中流)

河川環境（三滝新川：河川環境、生物・植物）



- **三滝新川**：流水はごくわずかで、現地踏査時には掘削工事中。
- 現地踏査の結果、イグサ、ヨシ、クズ、セイタカアワダチソウ等の植物、ダイサギ、カワセミ、ムクドリ、シオカラトンボ等の動物、併せて46種（春25種、秋33種）の生物が確認された。
- 重要種は、**カワヂシャ**、アキアカネの2種を確認。
- 特定外来生物は、オオフサモ、アレチウリ、ミシシippアカミミガメ、ヌートリアの計4種を確認。

注) 下線の種は秋季調査での追加種

重要種

特定外来生物

春



カワヂシャ

春・秋



オオフサモ

春



アレチウリ

秋



写真は三滝川

アキアカネ

春・秋



ミシシippアカミミガメ

秋



写真は海蔵川

ヌートリア



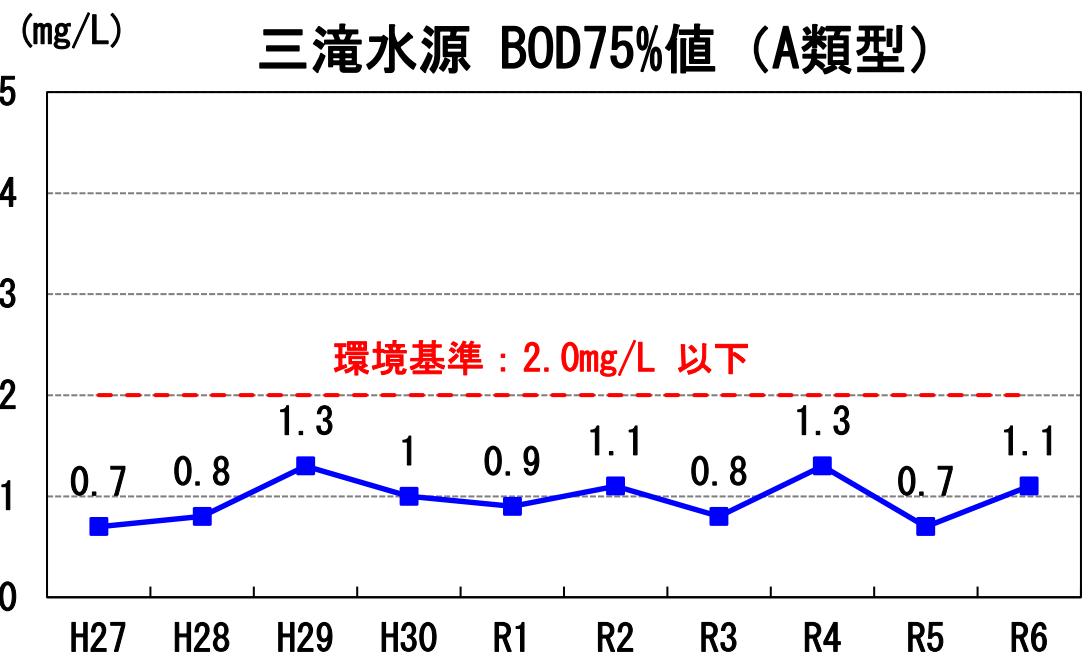
末永橋から下流方向



末永橋から上流方向

上流区間の状況

河川水質の推移（三滝川）

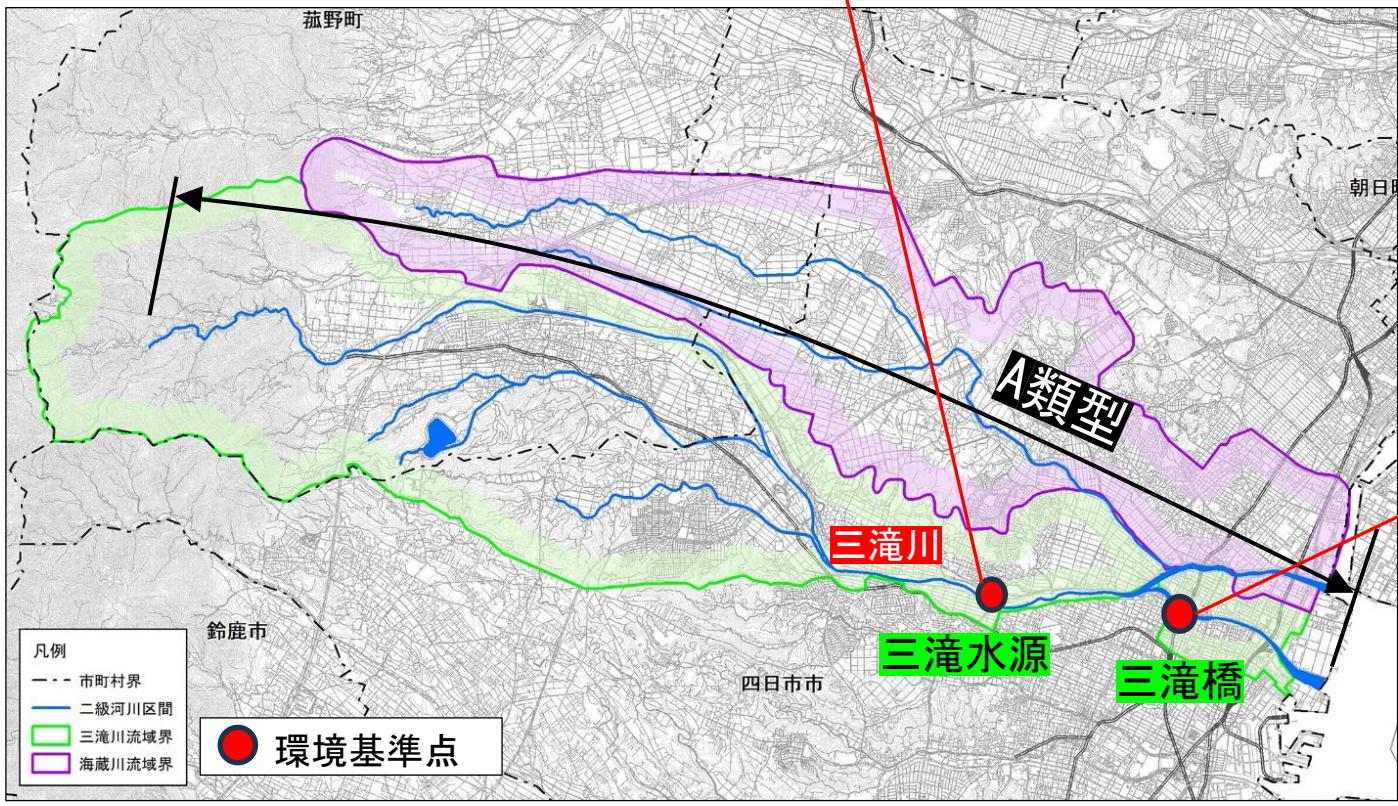


□水質調査の実施状況

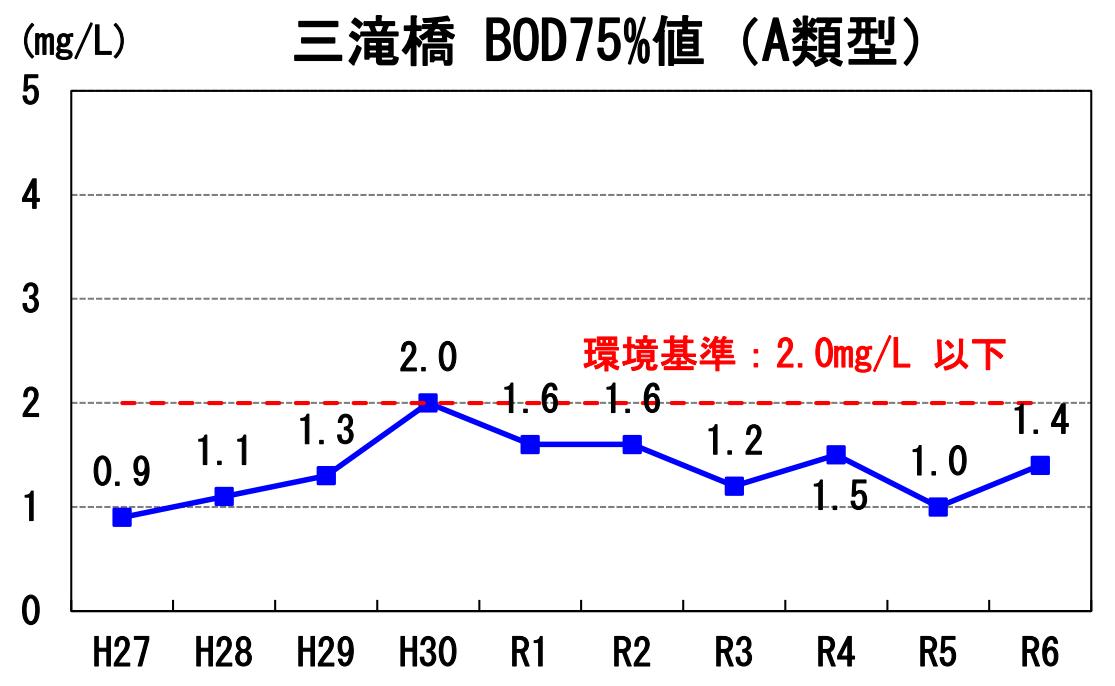
- ・三滝川では、三滝橋と三滝水源の2地点において、定期的な水質調査が行われている。

□環境基準の達成状況

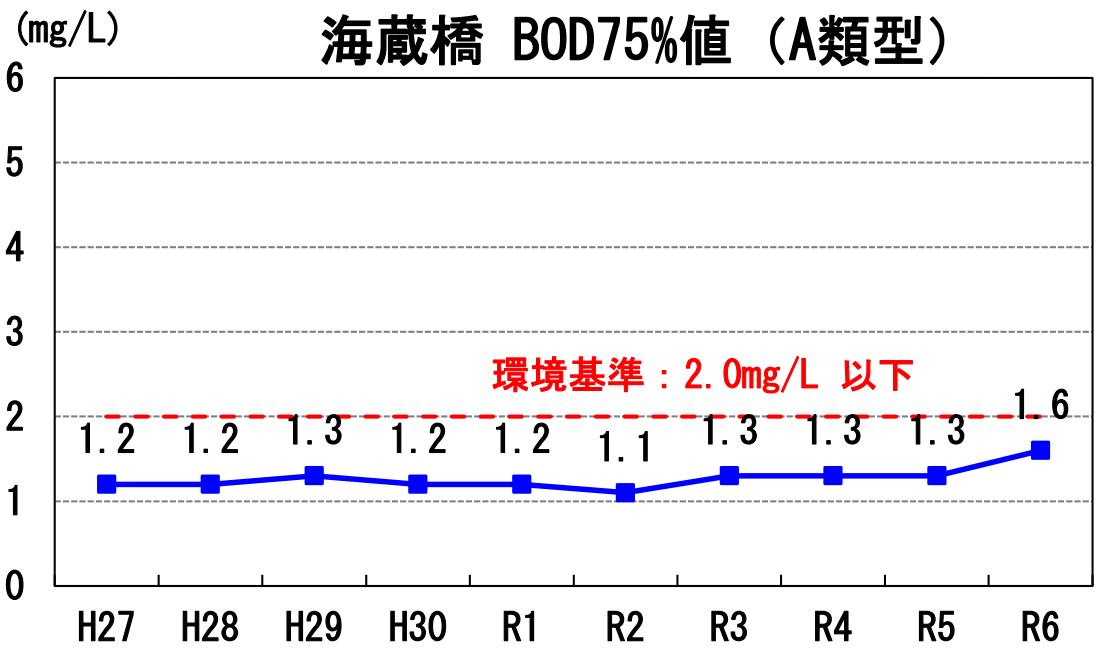
- ・三滝川は環境基準A類型に指定されている。
- ・BOD75%値の近年の経年変化は、三滝水源で0.7～1.3mg/L、三滝橋で1.0～2.0mg/Lであり、ともに環境基準(A類型2mg/L)を満足している。



三滝川の類型指定および水質基準点位置図



河川水質の推移（海蔵川）

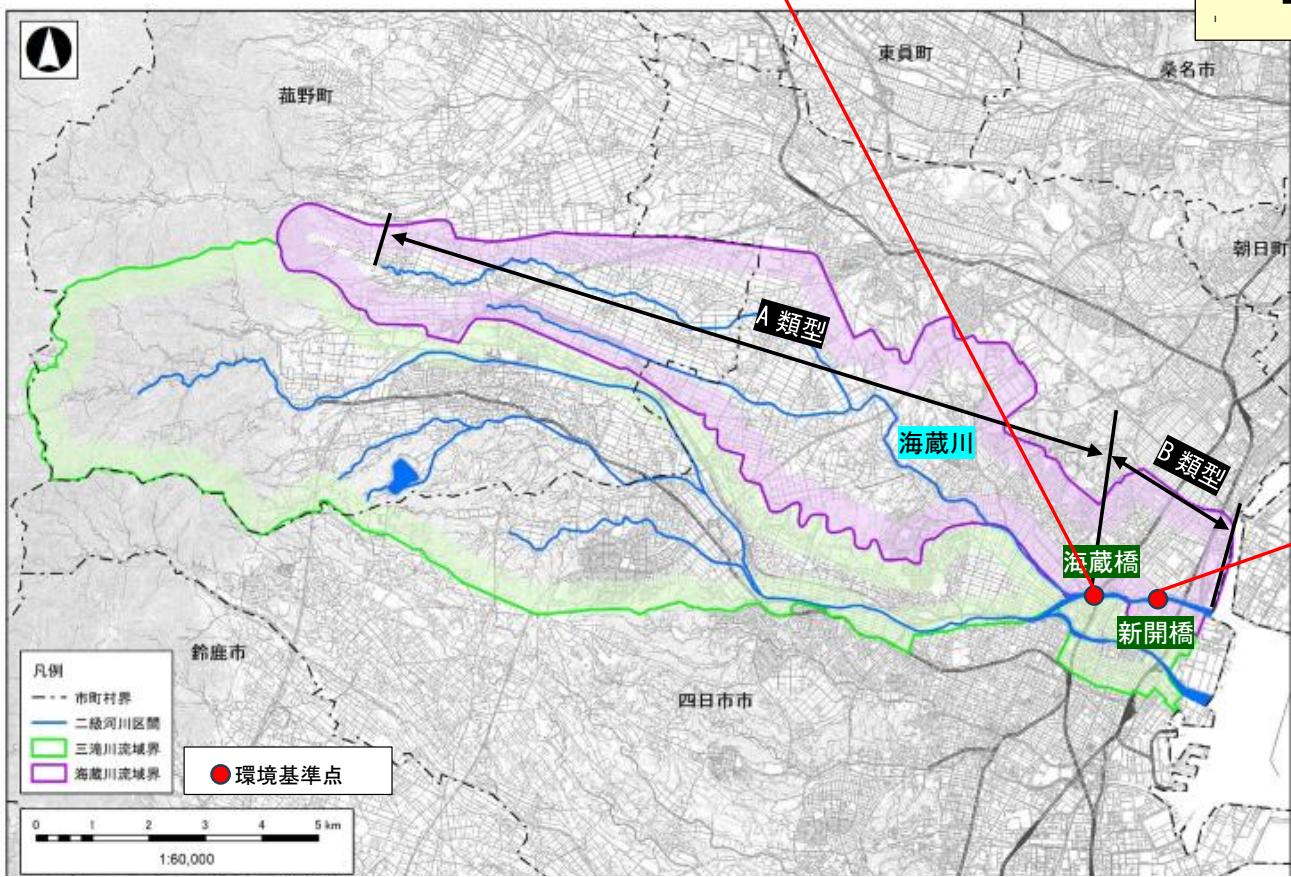


□水質調査の実施状況

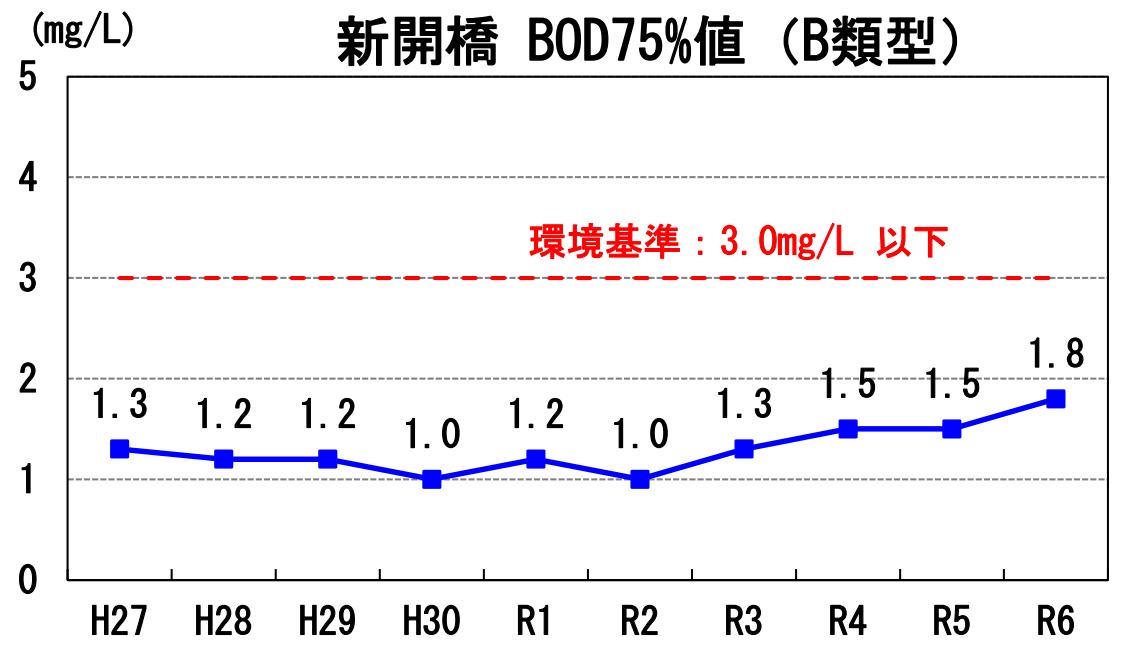
- 海蔵川では、**新開橋**と**海蔵橋**の2地点において、定期的な水質調査が行われている。

□環境基準の達成状況

- 海蔵川は**上流区間**が環境基準A類型、**下流区間**が環境基準B類型に指定されている。
- BOD75%値の近年の経年変化は、**上流区間の海蔵橋**で1.1～1.6mg/L、**下流区間の新開橋**で1.0～1.8mg/Lで、ともに環境基準(A類型2mg/L、B類型3mg/L)を満足している。



海蔵川の類型指定および水質基準点位置図



【三滝川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 河口2k付近までは感潮区間であり、小規模な干潟がみられる。 ➤ 下流域はヨシ群落などの水際植生があり、水域では回遊魚・汽水魚・淡水魚など多様な魚種が生息する。 ➤ 中流域～上流域は河畔林が多くみられ、樹林性鳥類が生息するほか、水域ではスナヤツメやアカザなどの重要種もみられる。 ➤ 全区間で良好な水質が維持されている。 ➤ アンケート結果から、河畔の樹林帯は自然の豊かさを感じさせる一方で、水害に対する不安要素のひとつにもなっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 治水・利水面との調和を図りつつ、自然環境の保全・創出 ➤ 良好な水質の保持

【海蔵川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 下流域はクサヨシ群落などの水際植生があり、緩やかな流れの水域ではカモ類やサギ類などの鳥類がみられる。 ➤ 中流域は、かんがい期には堰上げによる湛水域が多くみられ、イトモロコやミナミメダカなど緩やかな流れを好む魚種が多くみられる。 ➤ 中流域～上流域は、水際にツルヨシ、法面にチガヤ等の植生が繁茂する。 ➤ アンケート結果から、約半数の人が自然が豊かな川と感じており、多くは植生が豊かであることを理由に挙げている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 治水・利水面との調和を図りつつ、自然環境の保全・創出 ➤ 良好な水質の保持

目次

1. これまでの経緯 [変更]
2. 流域の概要
3. 現在の計画
4. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
5. 第1回住民アンケート調査結果
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
- 8. 治水の現状**
9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
10. 治水計画における見直しの方向性
11. 治水計画の見直し [新規]
12. 河川整備計画（原案）（案） [新規]
13. 今後の進め方 [変更]



■ 既往洪水の被害状況

- 平成12年の東海豪雨以降、三滝川・海蔵川流域において、大規模な浸水被害は発生していないが、小規模な内水氾濫は数年おきに発生している。
- 平成15年から令和7年までの期間において、流域内で被害の記録がある水害※は4件あり、うち外水が1件、内水が3件であった。(※:水害統計(国交省)に記載されている水害 令和7年は調査中のため含まない)

流域における洪水被害等(平成15年～令和7年)

年代	発生原因	洪水の記述等	区域
2008(平成20)年9月2～3日	集中豪雨	山間地での記録的豪雨により崖崩れが多数発生、湯の山地区では国道477号や県道が通行不能となり、孤立状態となった。	菰野町
2012(平成24)年9月30日	台風17号	床上浸水65戸、床下浸水399戸。	四日市
2019(令和元)年9月4～6日	集中豪雨	床上浸水54戸、床下浸水175戸。	四日市
2020(令和2)年9月6～7日	台風10号	床上浸水5戸、床下浸水17戸。	四日市
2025(令和7)年9月12～13日	集中豪雨	四日市市において123.5mm/hr(観測史上最大)を記録。被害状況は速報値	四日市

参考資料:「平成20年9月の記録的豪雨による災害について」(「砂防と治水189号」(2009年6月))
「四日市市地域防災計画 資料(1)」(四日市市, 令和5年7月修正) ※平成年代以降

【令和4年9月23日水位上昇状況(三滝川)】



三重県北部では9月23日午後、大雨になり、菰野町江野雨量観測所で約28mm/hを記録。写真は一色橋付近。

流域における内水被害等(平成15年～令和7年)

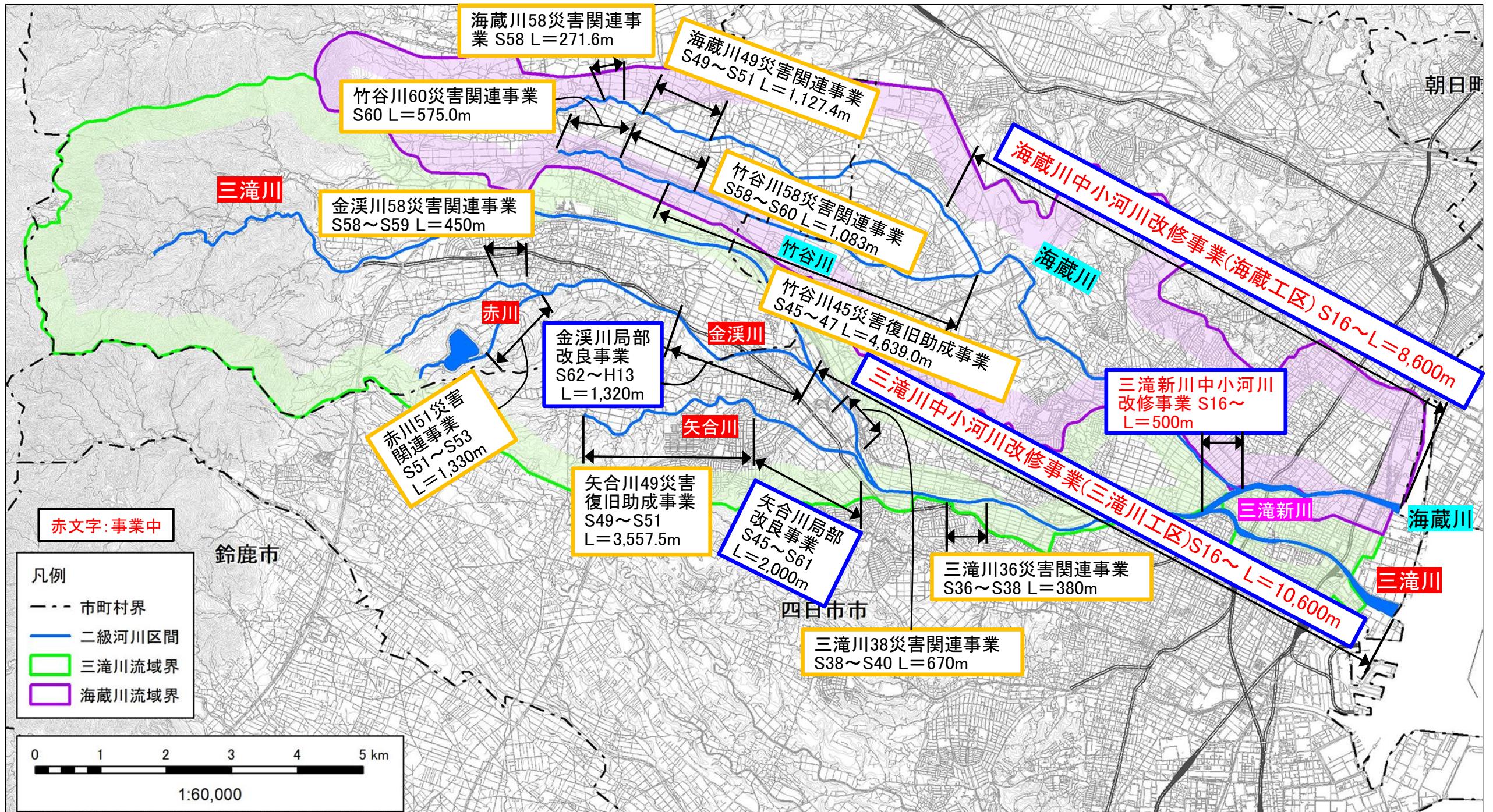
異常気象名	水害発生年月	河川名	市町村名	水害要因	水害区域面積(m ²)※			被災数※	
					宅地 その他	農地	計	世帯数	
								床下	床上
新潟・福島豪雨	H23.7/24-8/1	野田川(海蔵川水系)	四日市市	内水	140		140	1	
		矢合川(三滝川水系)	四日市市	内水	700		700	5	
台風17号	H24.9/27-10/1	三滝川	四日市市	内水	2,800		2,800	19	
		金溪川(三滝川水系)	四日市市	内水	280		280	2	
豪雨	H27.8/12-8/18	三滝川	四日市市	内水	235		235	2	
豪雨	R1.9/3-9/8	海蔵川	菰野町	無堤部溢水	355		355		1
豪雨	R7.9/12-9/13	四日市市内	四日市市	内水			調査中	約3,100	約200

※資料:水害統計(国土交通省水管理・国土保全局)

河川改修の経緯

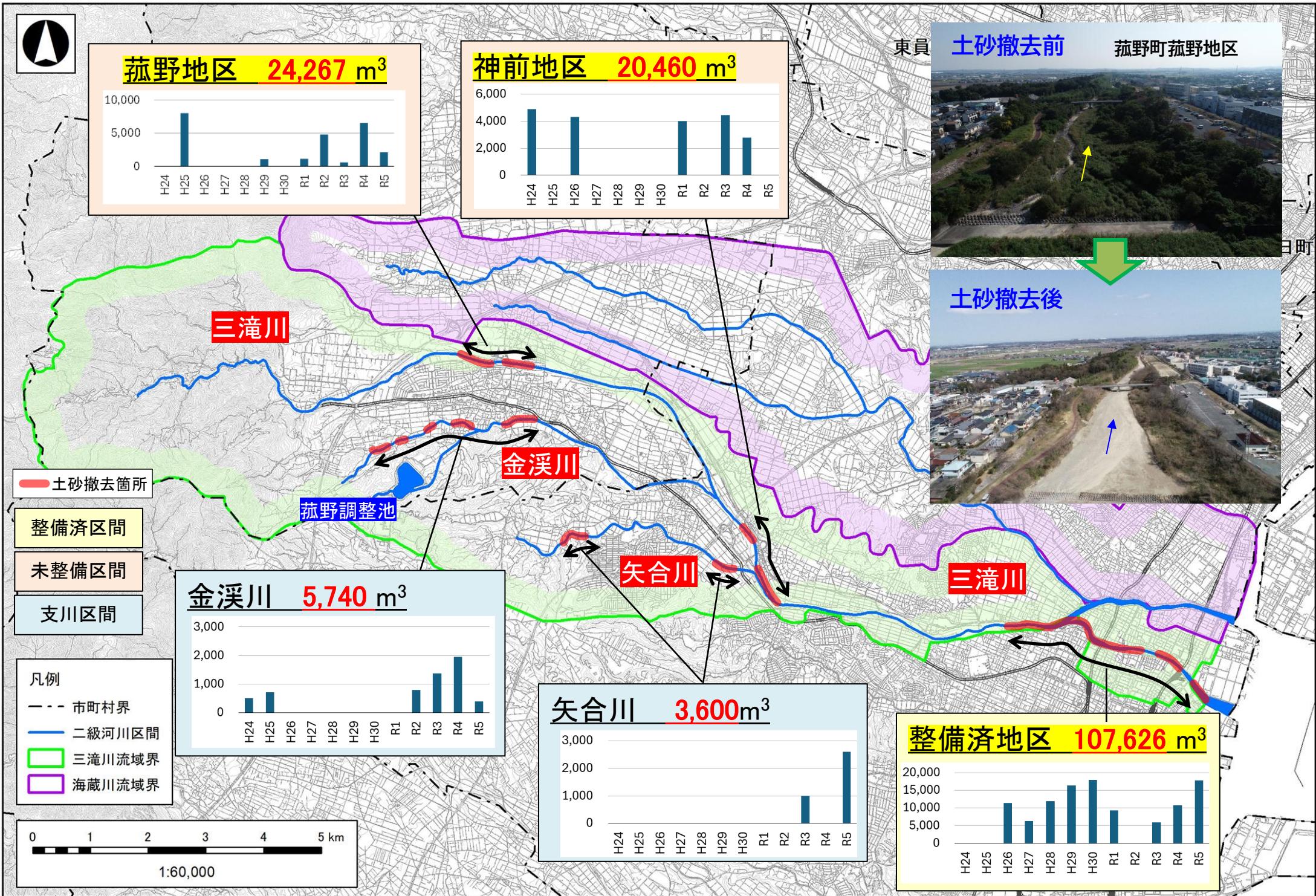


- 三滝川、海蔵川は、中小河川改修事業により、昭和16年から河道改修に着手されている。
- 三滝川では河口から10.6kmの区間、海蔵川では河口から8.6kmの区間が対象区間であり、三滝新川も含め、現在も継続実施中。
- 支川では、災害関連事業による河道改修が多く実施されている。



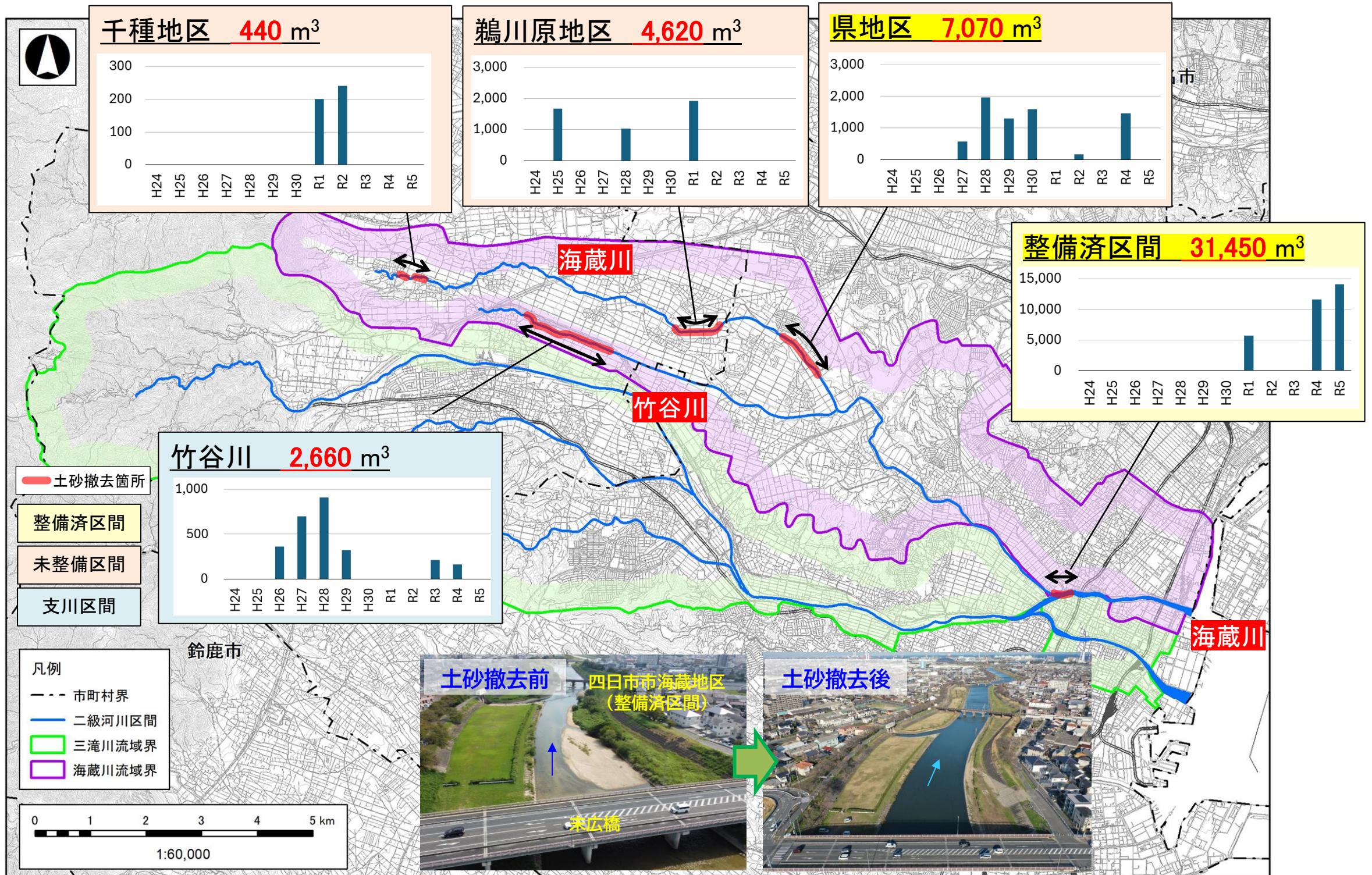
■堆積土砂撤去の実績（三滝川）

- 堆積土砂撤去の実績(H24～R5)は、最下流の整備済区間が頻度・量とも多い。
- その他の区間では、狭小区間直上流の菰野大橋付近や、河道屈曲点直上流の矢合川合流点付近も頻度が多い。



■堆積土砂撤去の実績（海蔵川）

- 堆積土砂撤去の実績(H24～R5)は、下流部の整備済区間で撤去量が多い。
- その他の区間では、中流部の県地区で頻度・量が比較的多い傾向がみられる。



目次

1. これまでの経緯 [変更]
2. 流域の概要
3. 現在の計画
4. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
5. 第1回住民アンケート調査結果
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 治水の現状
- 9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題**
10. 治水計画における見直しの方向性
11. 治水計画の見直し [新規]
12. 河川整備計画（原案）（案） [新規]
13. 今後の進め方 [変更]





- 国の「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」による提言では、現在の河川整備計画はまだ整備途上であり、すべての河川整備基本方針を直ちに見直す必要性はない。
- 基本方針流量を超過する洪水が発生した場合や河川整備が進捗し、新たな段階に進む場合には、気候変動の影響を踏まえて河川整備基本方針の見直しを行うべきとされている。

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言(令和3年4月改訂)

(1-1) 河川整備基本方針の見直し

- 目標とする治水安全度を温暖化が進行した気候下でも確保するためには、基準地点における基本高水のピーク流量について、あらかじめ気候変動による影響を踏まえた降雨の予測計算結果等も活用し、将来の気候状況を適切に想定して設定することが基本となる。
- 現在の河川整備はまだ整備途上であり、多くの河川においては河川整備計画の目標は河川整備基本方針の目標と比べると相当低いところに留まっていることから、まずは速やかに現在の河川整備基本方針に向けた整備を加速することを優先させる必要がある。
- 気候変動予測には不確実性があり、予測結果は将来見直される可能性もあるものの、河川整備基本方針についても順次見直すべきである。具体的には、河川整備基本方針策定後に大規模な洪水が発生して基本高水のピーク流量を超過した場合や、河川整備計画を検討する過程の中で、洪水調節施設と河道の配分流量を変更する必要がある河川等から、順次、降雨量変化倍率を活用すること等により、気候変動を踏まえた基本高水を設定するべきである。



- 国の「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」による提言では、河川整備計画については、整備計画の早期達成を目指すとともに、合わせて気候変動の影響も考慮した計画に見直していく必要があるとされている。

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言(令和3年4月改訂)

(1-2) 河川整備計画の目標の見直し

- 河川整備基本方針の実現に向けて、今後20～30年間の河川整備内容を定める河川整備計画においては、多くの一級河川で過去（主に戦後）に発生した最大の豪雨が発生しても被害の発生を防止することを目標にしている。しかし、河川整備の目標としては、豪雨において観測もしくは算定された流量を目標とする現在の方式では、気候変動によって実質的な目標安全度が年々低下していることを意味している。
- 一方、現在の河川は整備途上であり、多くの河川において河川整備計画の目標は河川整備基本方針の目標安全度と比べると相当低いところにとどまっていることから、まずは速やかに現在の河川整備計画の早期達成を目指すとともに、合わせて河川整備計画を気候変動の影響も考慮した計画に見直していく必要がある。
- 河川整備計画を見直す場合、現在の河川整備計画において目標とする洪水に相当する治水安全度を、河川整備計画の完成目標とする時点においても確保することを目指すべきであり、その際には降雨量変化倍率を用いるなど適切な目標設定を行う必要がある。

・気候変動を考慮した計画雨量の検討方針
 →「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」による提言や、国の見直し事例では、気温2℃上昇時の降雨量変化倍率を1.1倍とし、降雨データは2010年までのデータを使用している
 →以上より、三重県においても**2010年までの降雨データを使用し、1.1倍した雨量を計画に用いることとする。**

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言

表-2 降雨量変化倍率

		降雨継続時間 12時間以上	降雨継続時間 3時間以上12時間未満	降雨継続時間 3時間未満
4℃上昇		1.3	1.4	—
	北海道、九州北西部	1.4	1.5	—
	その他の地域 (沖縄含む)	1.2	1.3	—
2℃上昇		1.1	1.1	1.1
	北海道	1.15	1.15	1.15
	その他の地域 (沖縄含む)	1.1	1.1	1.1

【適用範囲】

- ・4℃上昇時における降雨継続時間 12 時間未満の値は、3 時間未満では適用できない。
- ・雨域面積 100km² 以上について適用する。ただし、100km² 未満の場合についても降雨量変化倍率が今回設定した値より大きくなる可能性があることに留意しつつ適用可能とする。
- ・年超過確率 1/200 以上の発生頻度の降雨を対象とする計画に適用する。

【留意事項】

- ・降雨量変化倍率は、現在気候に対する将来気候の状態を表す。なお、4℃上昇時の降雨量変化倍率は、21 世紀末時点の将来気候であり、2℃上昇時の降雨量変化倍率については、RCP2.6 では 2040 年頃以降の気温上昇が横ばいとなることから、2040 年以降の値として適用可能。

【計算条件】

- ・現在気候の実験期間は、d4PDF(5 km,SI-CAT)が 1980～2011 年（中間年 1995 年）、d4PDF(5 km,yamada)が 1951～2010 年（中間年 1980 年）であり、中間年でみると 15 年の差があるが、現在の治水計画では主に戦後以降のデータを対象としているため、d4PDF(5 km,yamada)の実験期間である 1951～2010 年を基準とする。なお、1951～1980 年を基準とすると、d4PDF(5 km,SI-CAT)の降雨量変化倍率は約 0.02 倍低く評価されているが、それも考慮した上で上表のと

出典:「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」提言
 (令和3年4月改訂)国土交通省
 (https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/chisui_kentoukai/index.html)



- 気候変動考慮後の整備計画流量が現行の基本方針計画流量以上になる場合、現行の河川計画からの手戻りが生じないように、基本方針計画流量を超える分をどのように受け持つか、洪水調節施設を視野に入れた河川の配分流量から再検討する必要がある。
- このため、**気候変動考慮後の整備計画流量が現行の基本方針計画流量を上回る場合には、河川整備基本方針も見直す。**

基本方針計画流量を**超えない**場合

現行	
基本方針計画流量 (1/80)(m3/s)	整備計画流量 (1/50)(m3/s)
960	870

気候変動考慮後	
基本方針計画流量 (1/80)(m3/s)	整備計画流量 (1/50)(m3/s)
960	920

基本方針計画流量を**超える**場合

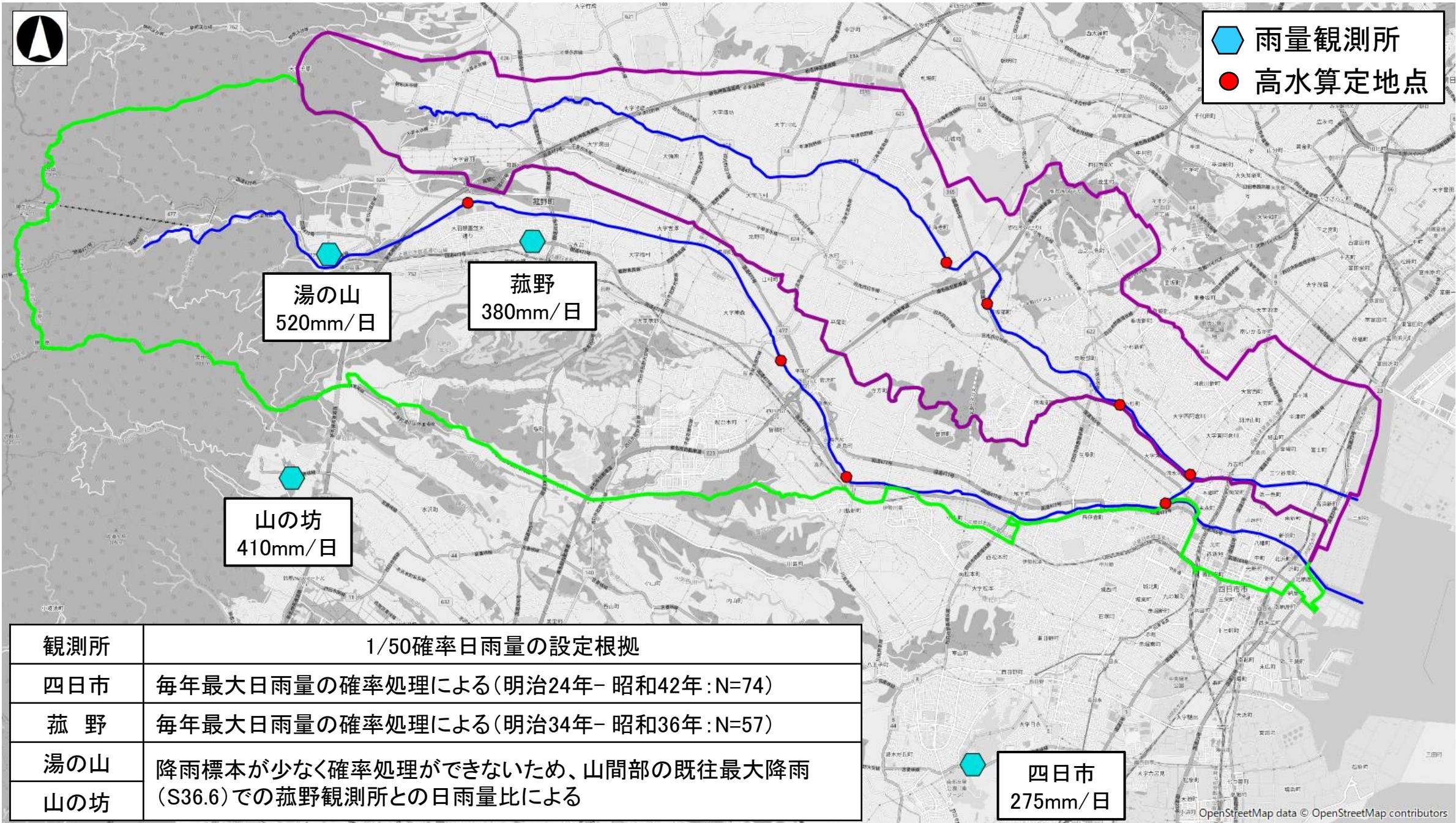
現行	
基本方針計画流量 (1/80)(m3/s)	整備計画流量 (1/50)(m3/s)
960	870

気候変動考慮後	
基本方針計画流量 (1/80)(m3/s)	整備計画流量 (1/50)(m3/s)
960	1000

基本方針も見直す

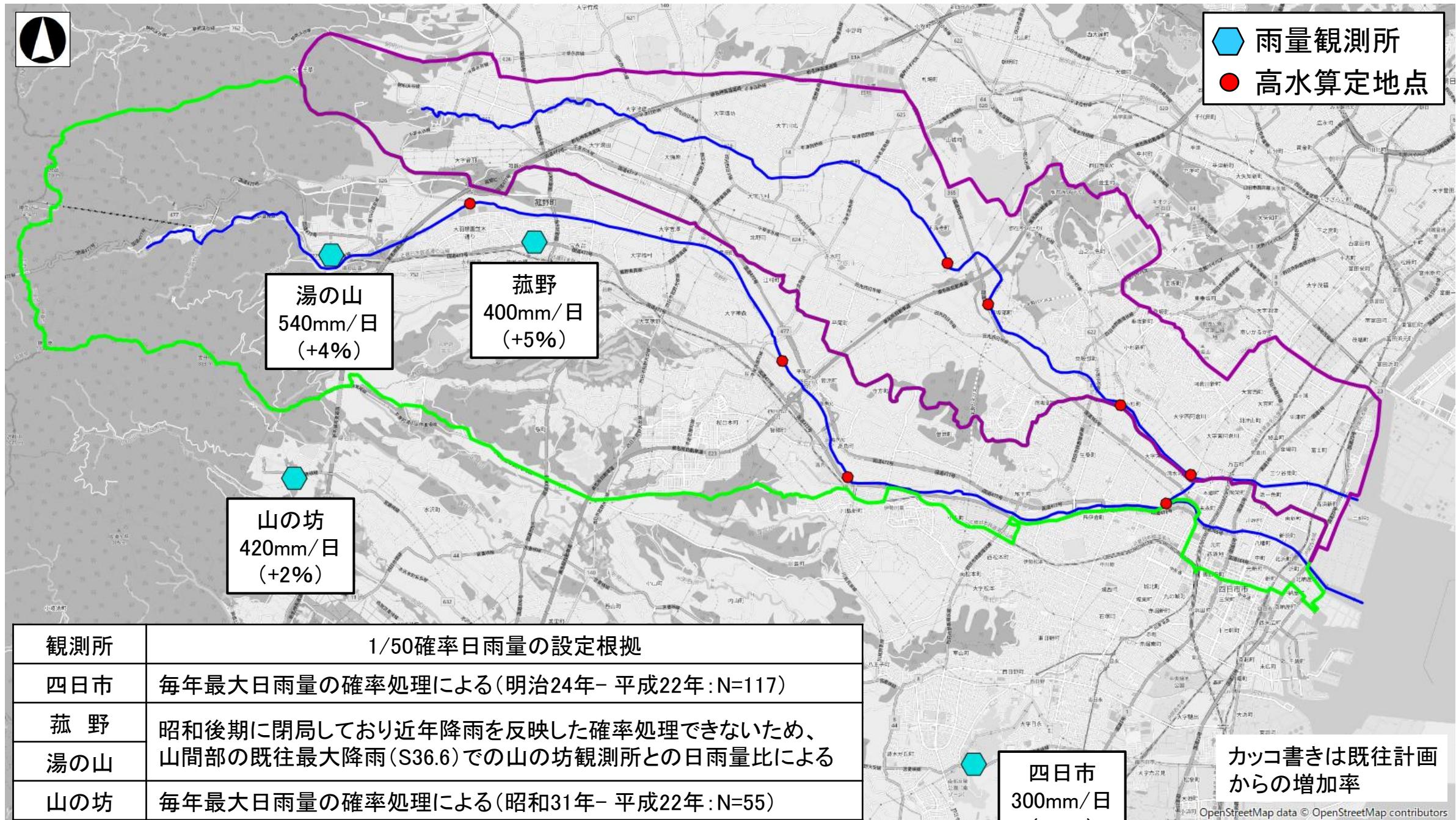
計画降雨（既往計画）

- 既往計画では、流域近傍の4観測所における1/50確率日雨量を計画降雨としている。
- 高水算定地点における計画降雨は、流域内の降雨分布特性を考慮するため、4観測所の確率日雨量を用いた流域平均日雨量としている。



計画降雨（気候変動考慮）

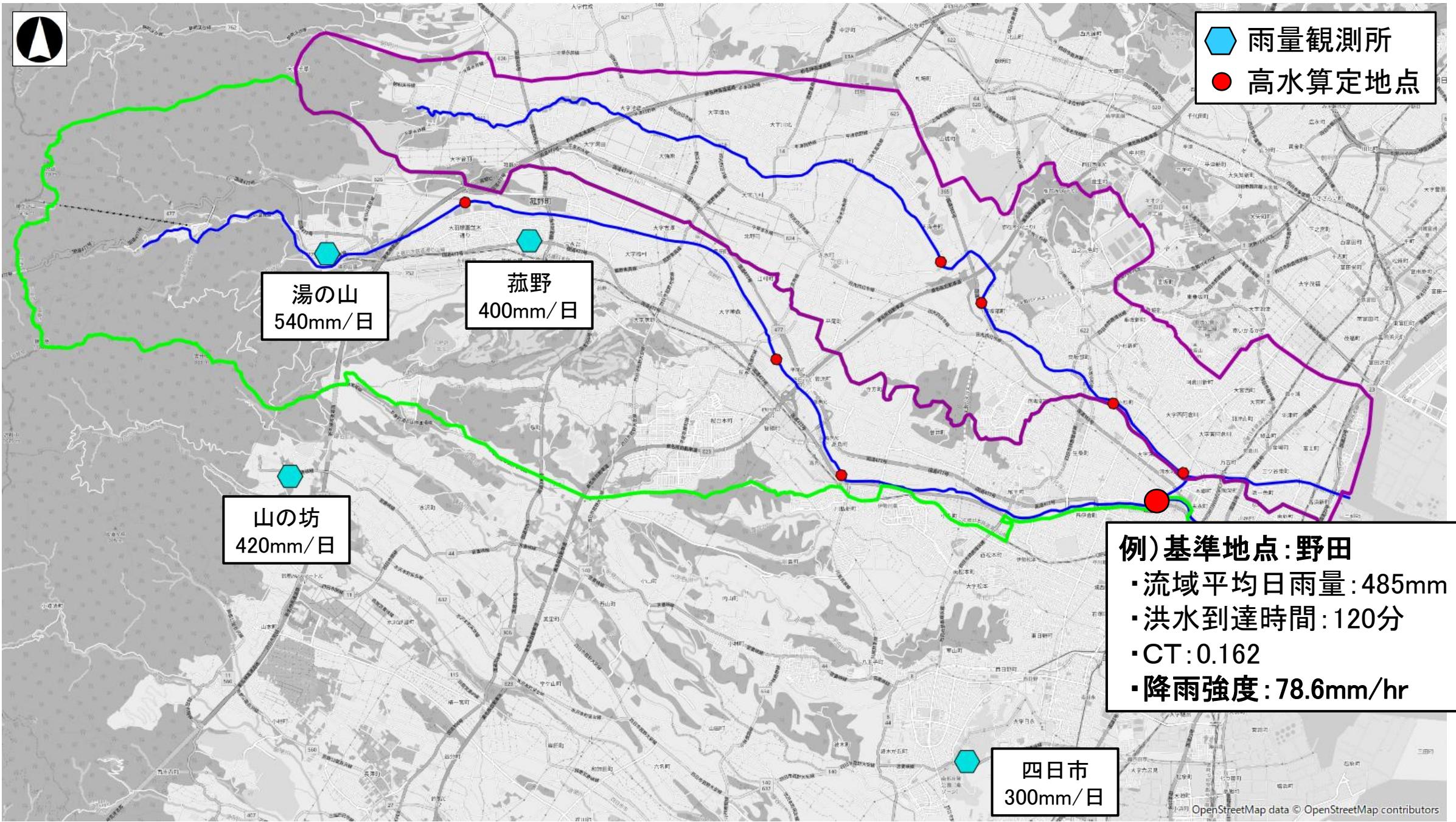
- 既往の河川整備計画における対象降雨について、気候変動の影響を考慮する。
- 既往計画で設定された4観測所の1/50確率日雨量を2010年までの降雨資料により更新。
- 更新した1/50確率日雨量を1.1倍し、気候変動を考慮した1/50計画日雨量とする。



■高水の算定手法

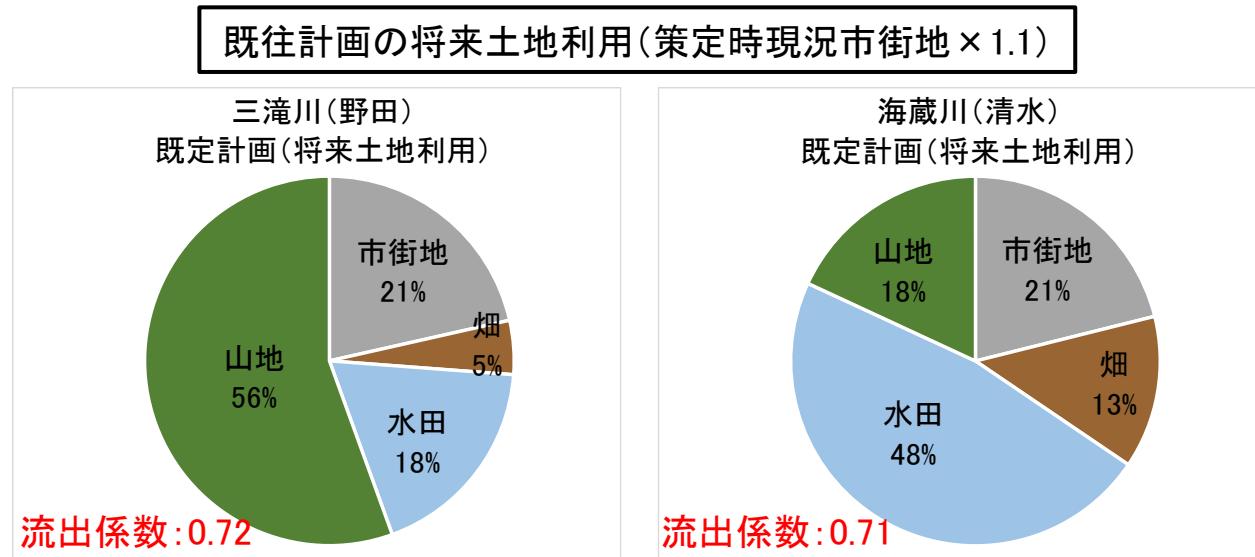
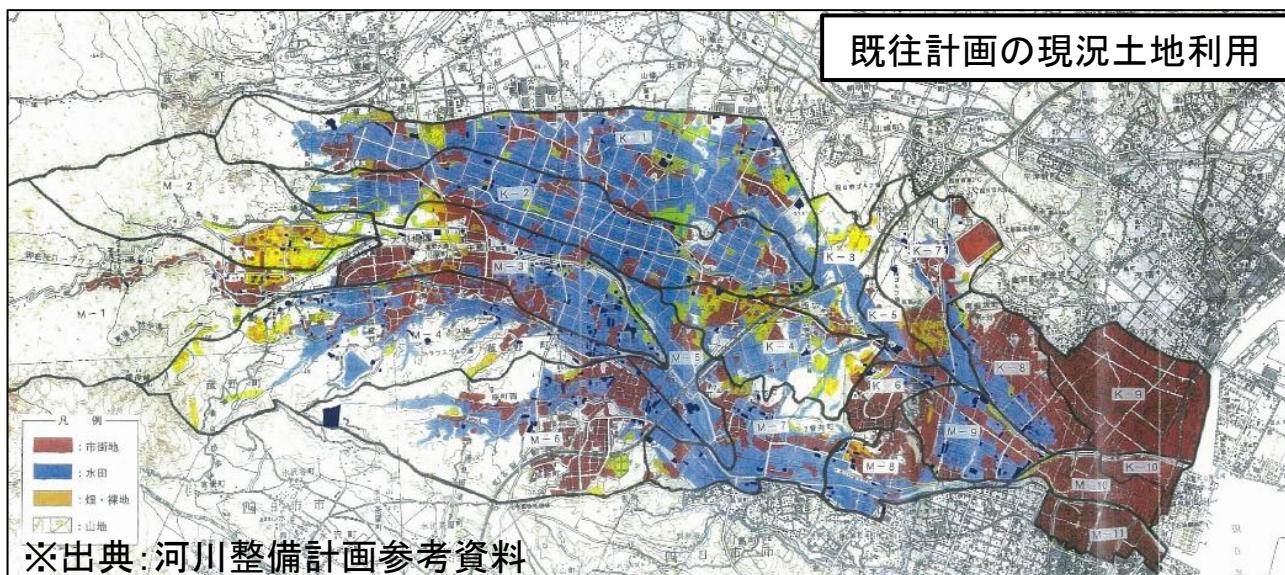


- 流出計算手法は合理式とする。 $Q(m^3/s)=1/3.6*(流出係数)*i(降雨強度mm/hr)*A(km^2)$
- 高水算定地点の計画降雨は、4観測所の1/50確率流域平均日雨量(気候変動考慮)とする。
- 高水算定地点の降雨強度は、流域平均日雨量と伊藤A式により算定する。
- 伊藤A式は、日雨量と洪水到達時間から降雨強度を推定する計算式であり、既往計画で採用されている。 降雨強度(mm/hr)=CT×日雨量(mm) $CT=34,710/(T^{1.35}+1,502)$ T:洪水到達時間(分)

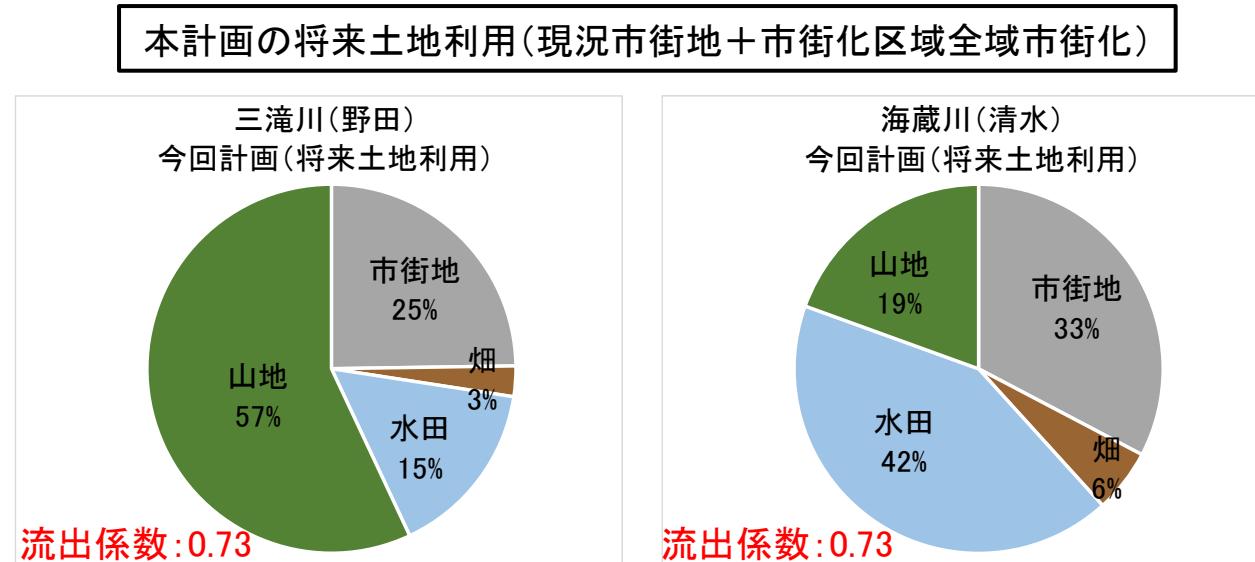
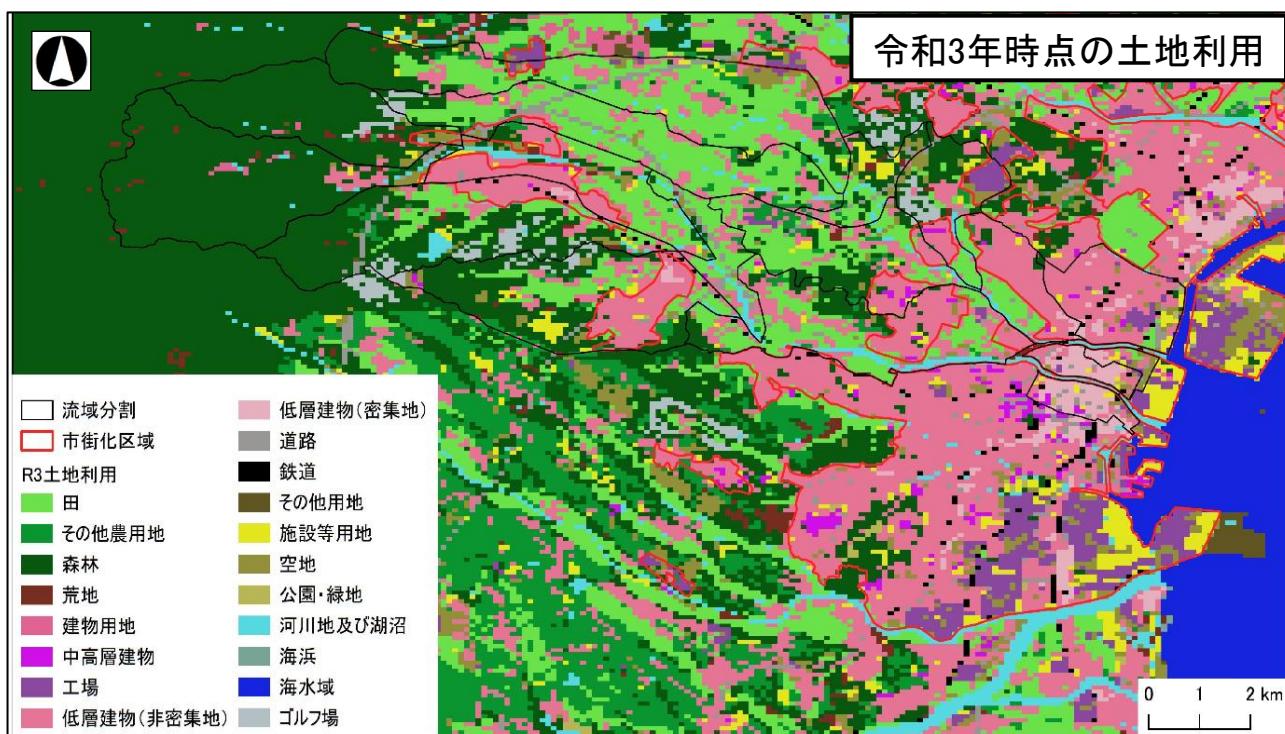


■将来市街化想定

- **三滝川・海蔵川**の現況市街地面積は、既往計画で想定された将来市街地面積を上回っているため、最新の土地利用データを用いて将来土地利用の見直しを行う。
- 将来市街化想定は、R3土地利用メッシュデータによる現況市街地に加え、市街化区域が全て市街化する想定とする。



将来土地利用の見直しにより流出係数が増加



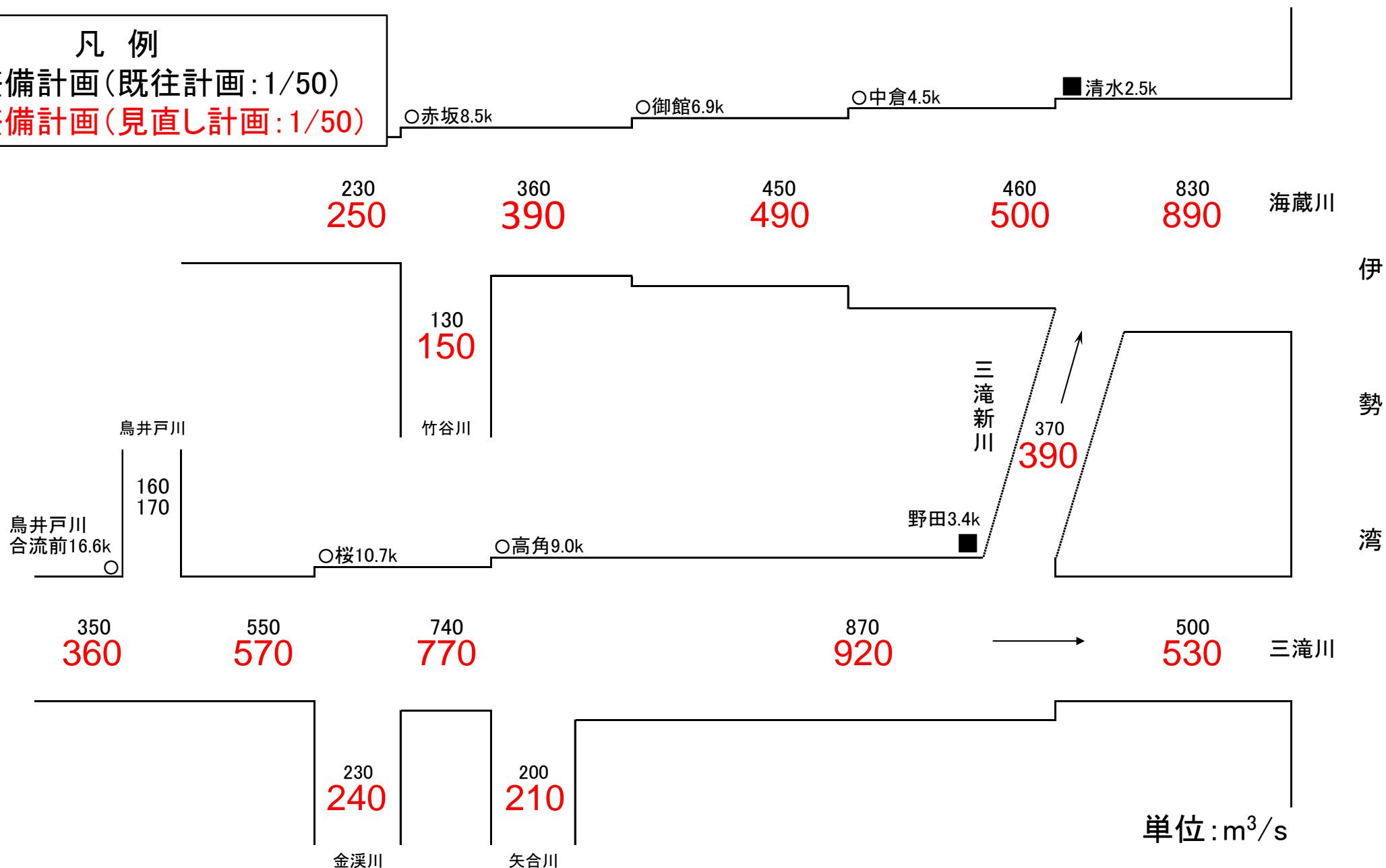
計画高水流量(案)の概要

- 三滝川における気候変動を考慮した計画高水流量(案)は、基準地点(野田)において $920\text{m}^3/\text{s}$ とする。
- 海蔵川における気候変動を考慮した計画高水流量(案)は、基準地点(清水)において $500\text{m}^3/\text{s}$ とする。
- 計画高水流量は、模型実験等に基づく三滝新川分派特性より分派量を算定して設定する。
- 計画高水流量は、全ての地点において既往計画を上回る。(基準地点において約1割増加)

凡例

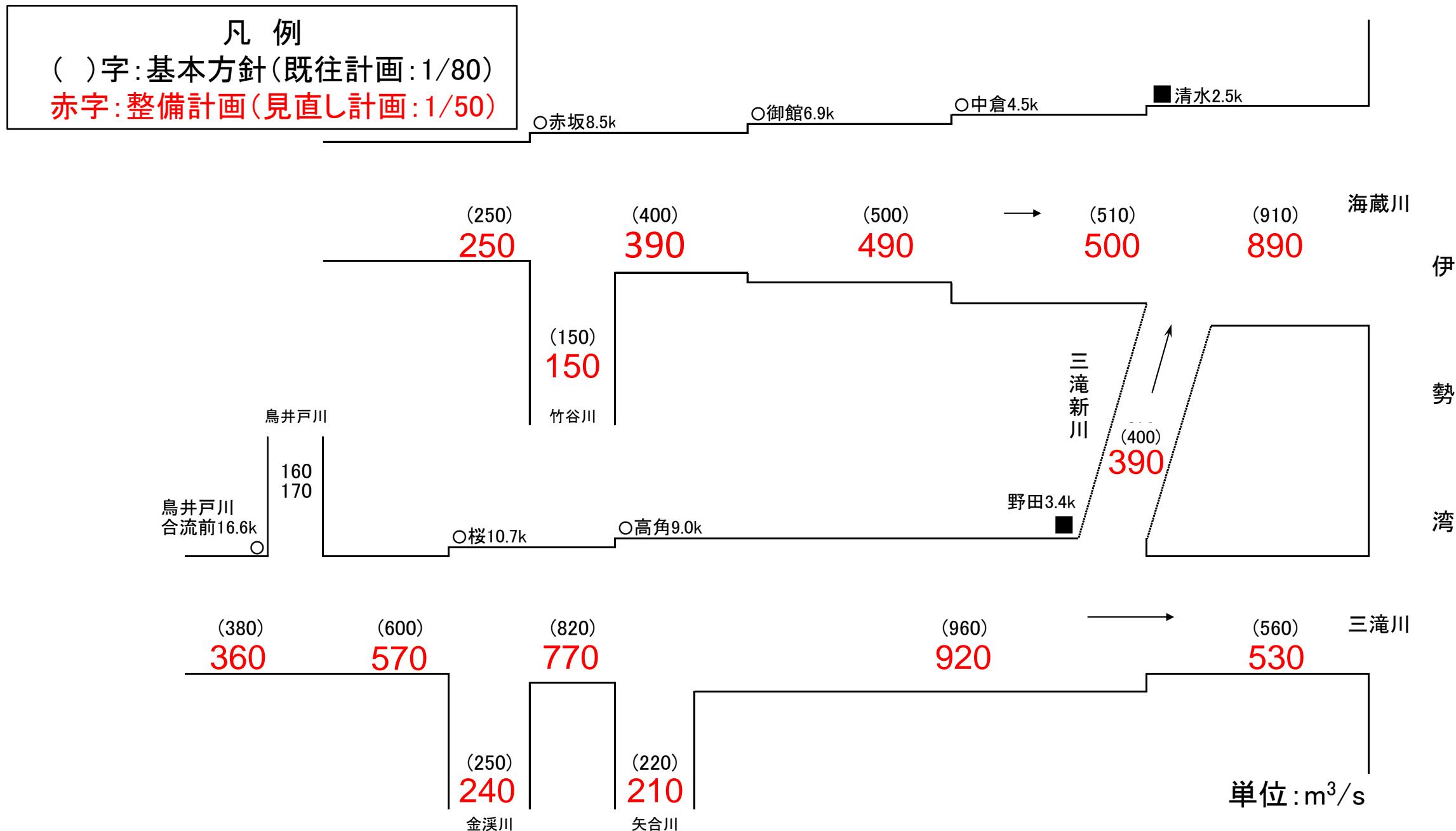
黒字: 整備計画(既往計画: 1/50)

赤字: 整備計画(見直し計画: 1/50)



■計画高水流量(案)の概要

・ 計画高水流量が基本方針流量を上回る区間はないため、**基本方針の見直しは行わない。**



河川整備計画の概要（三滝川）



□ 既往計画と整備計画の変更点（三滝川）

	河川整備計画 (平成17年度策定)	河川整備計画 (気候変動考慮)	変更理由
計画規模	1/50確率	1/50確率	
基準地点	野田	野田	
流域面積	57.36km ²	57.36km ²	
洪水到達時間	119分	119分	
流出係数	0.72	0.73	将来市街化想定の見直し
計画降雨 (野田地点)	466mm/日	438mm/日: 現在気候※ 485mm/日: 気候変動考慮 ※既往計画以降の降雨を2010年まで追加	<ul style="list-style-type: none"> ・4観測所の1/50確率日雨量の更新 ・気候変動考慮(現在気候×1.1)
降雨強度 (野田地点)	75.4mm/hr	71.1mm/hr: 現在気候 78.6mm/hr: 気候変動考慮	<ul style="list-style-type: none"> ・計画降雨の見直し
流出計算手法	合理式	合理式	
計画高水流量	870m ³ /s	920m ³ /s (既往計画比106%)	<ul style="list-style-type: none"> ・将来市街化想定の見直し ・確率日雨量の更新 ・気候変動考慮(現在気候×1.1)

河川整備計画の概要（海蔵川）



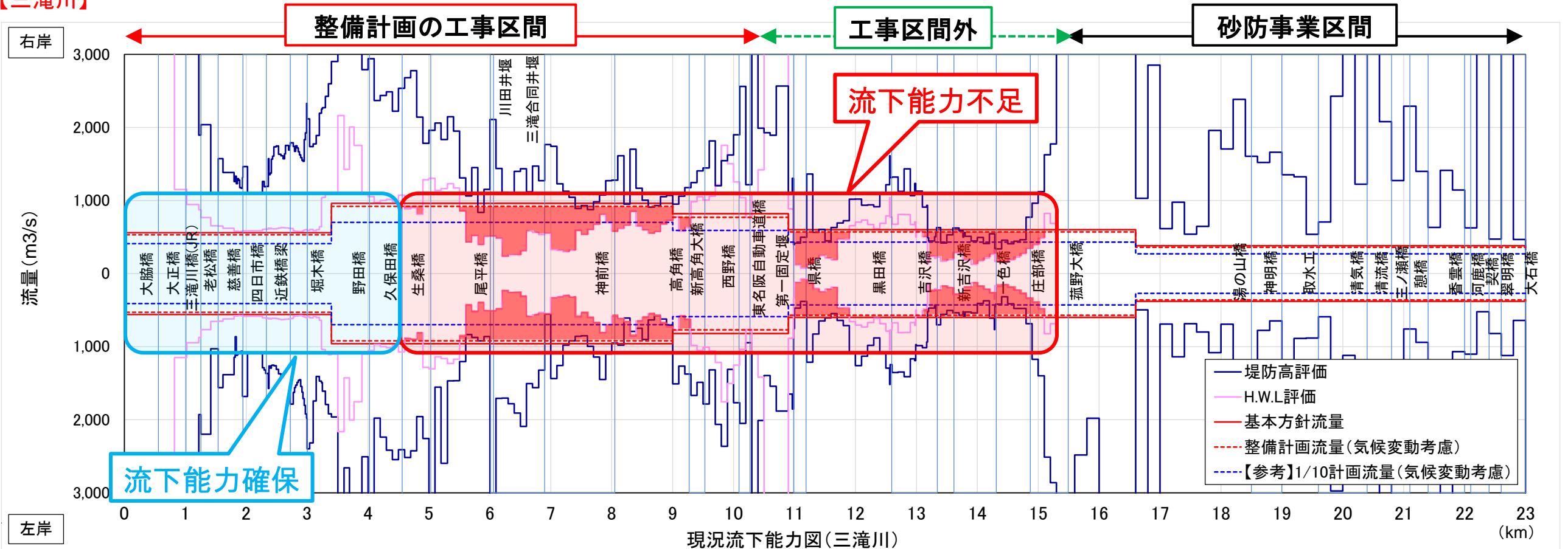
□ 既往計画と整備計画の変更点（海蔵川）

	河川整備計画 （平成17年度策定）	河川整備計画 （気候変動考慮）	変更理由
計画規模	1/50確率	1/50確率	
基準地点	清水	清水	
流域面積	36.02km ²	36.02km ²	
洪水到達時間	121分	121分	
流出係数	0.71	0.73	将来市街化想定の見直し
計画降雨 （清水地点）	396mm/日	375mm/日：現在気候※ 416mm/日：気候変動考慮 ※既往計画以降の降雨を2010年まで追加	<ul style="list-style-type: none"> 4観測所の1/50確率日雨量の更新 気候変動考慮（現在気候×1.1）
降雨強度 （清水地点）	64.2mm/hr	60.7mm/hr：現在気候 67.3mm/hr：気候変動考慮	<ul style="list-style-type: none"> 計画降雨の見直し
流出計算手法	合理式	合理式	
計画高水流量	460m ³ /s	500m ³ /s （既往計画比109%）	<ul style="list-style-type: none"> 将来市街化想定の見直し 確率日雨量の更新 気候変動考慮（現在気候×1.1）

■現況流下能力（三滝川）気候変動考慮後

- **三滝川**は、洪水対策実施済区間(河口～久保田橋区間)は、気候変動考慮後の降雨(1/50確率)に対して流下能力を確保している
- **久保田橋～菰野大橋**区間は対策未実施で、計画高水流量に対する流下能力が不足している

【三滝川】

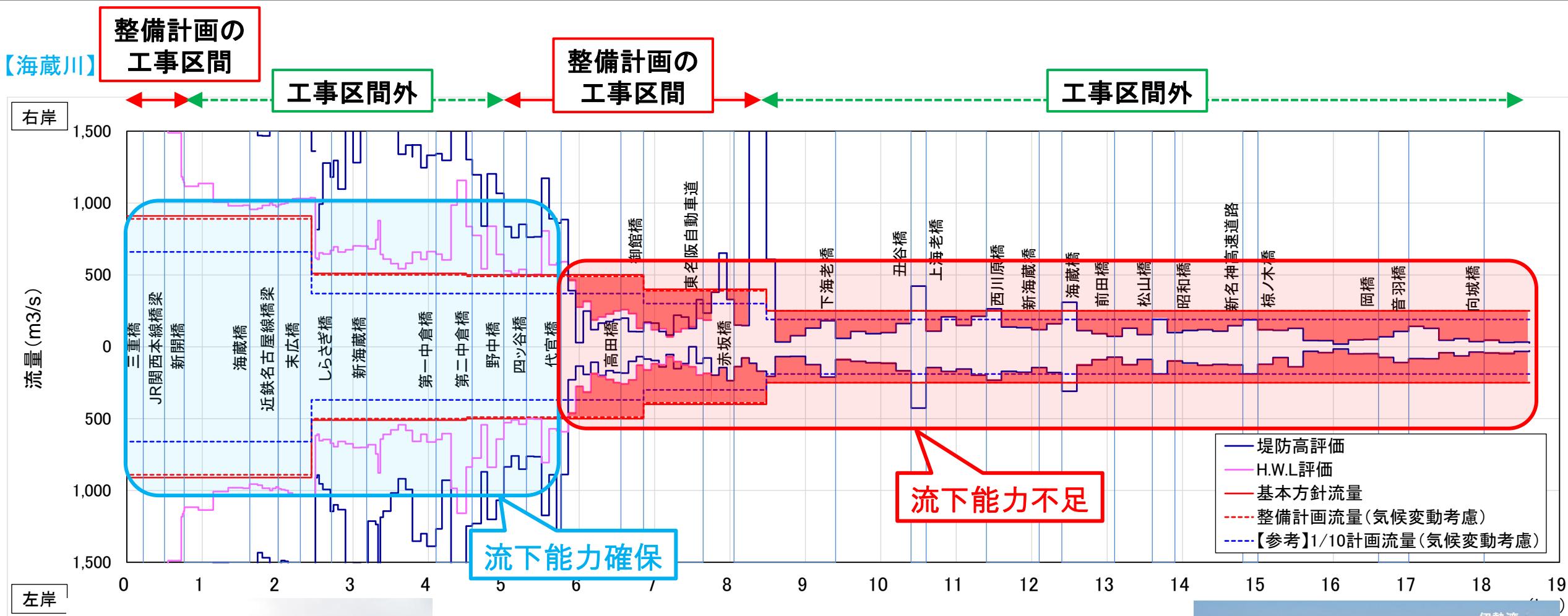


近鉄橋梁架替

洪水対策実施済区間の再対策は不要

■現況流下能力（海蔵川） 気候変動考慮後

- 海蔵川は、洪水対策実施済区間(河口～代官橋区間)は、気候変動考慮後の降雨(1/50確率)に対して流下能力を確保している
- 代官橋より上流は対策未実施で、計画高水流量に対する流下能力が不足している。
- 三滝新川では、基本方針流量が流下できるよう対策を実施中



【海蔵川】



野中橋～代官橋

洪水対策実施済区間の再対策は不要



三滝新川の開削工事状況

【三滝川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 河口～久保田橋において洪水対策実施済であり、気候変動考慮後の降雨（1/50確率）の流下能力を有している。 ➤ 久保田橋～金溪川合流点は対策未実施であり、計画高水流量に対する流下能力が不足する区間が多く存在している。 ➤ 金溪川合流点～菰野大橋は対策未実施であり、工事要望が多い。 ➤ 菰野大橋から上流は、計画高水流量に対して十分な流下能力を有している。 ➤ 河口部において堤防の耐震性能が不足している区間がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 流下能力不足区間の解消 ➤ 気候変動を踏まえた治水計画の見直し ➤ 整備計画工事区間の見直し検討 ➤ 堤防耐震対策の推進

【海蔵川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 河口～代官橋において洪水対策実施済であり、気候変動考慮後の降雨（1/50確率）の流下能力を有している。 ➤ 代官橋から上流は対策未実施であり、計画高水流量に対する流下能力が連続して不足している。 ➤ 河口部において堤防の耐震性能が不足している区間がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 流下能力不足区間の解消 ➤ 気候変動を踏まえた治水計画の見直し ➤ 堤防耐震対策の推進

目次

1. これまでの経緯 [変更]
2. 流域の概要
3. 現在の計画
4. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
5. 第1回住民アンケート調査結果
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 治水の現状
9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
- 10. 治水計画における見直しの方向性**
11. 治水計画の見直し [新規]
12. 河川整備計画（原案）（案） [新規]
13. 今後の進め方 [変更]

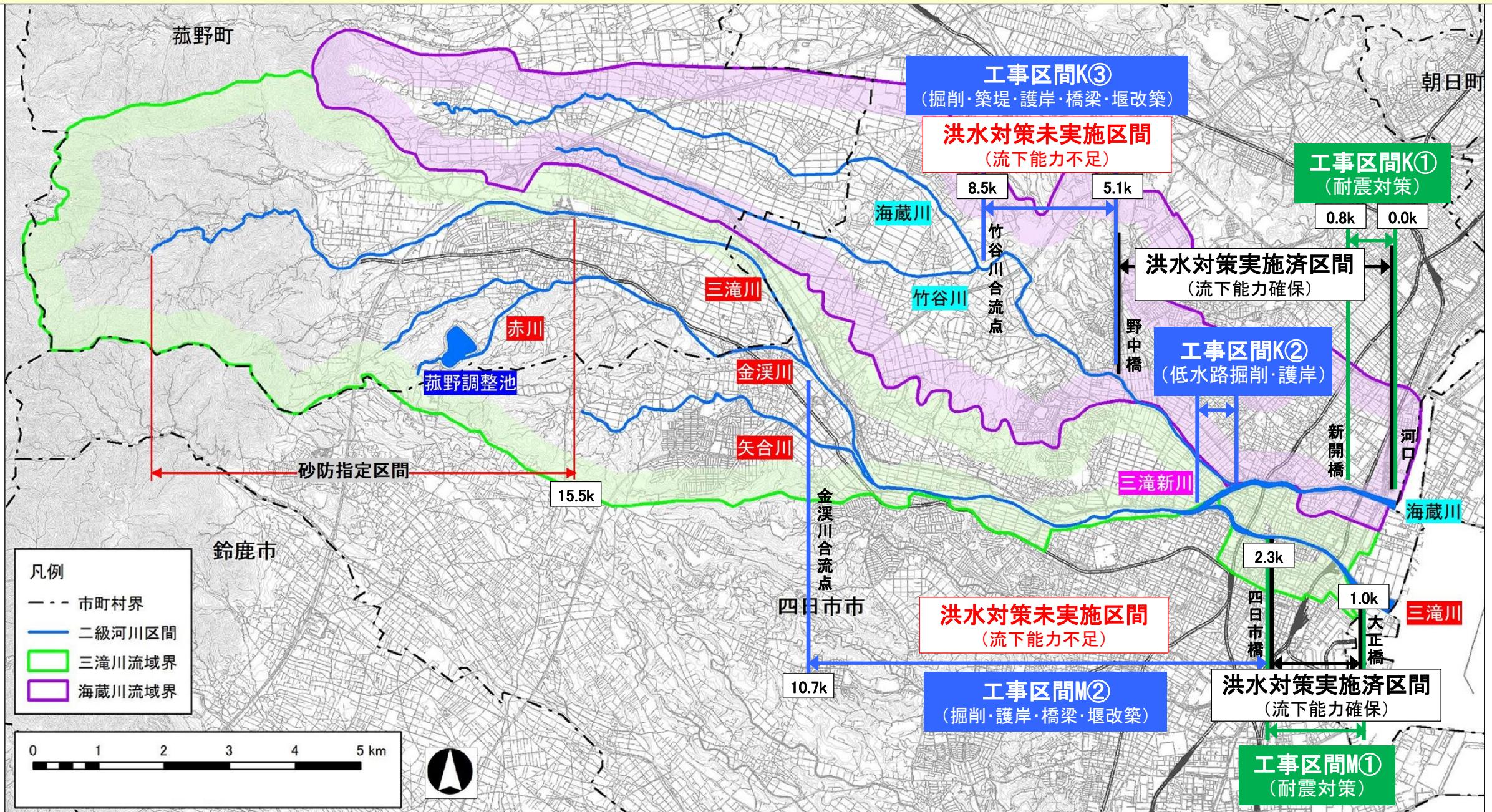




■ 既往計画の施工内容

- 洪水対策 **三滝川**: **工事区間M②**: 掘削・護岸・橋梁・堰改築(四日市橋付近～金溪川合流点)
- 海蔵川**: **工事区間K③**: 掘削・築堤・護岸・橋梁・堰改築(野中橋付近～竹谷川合流点)
- 三滝新川**: **工事区間K②**: 低水路掘削・護岸

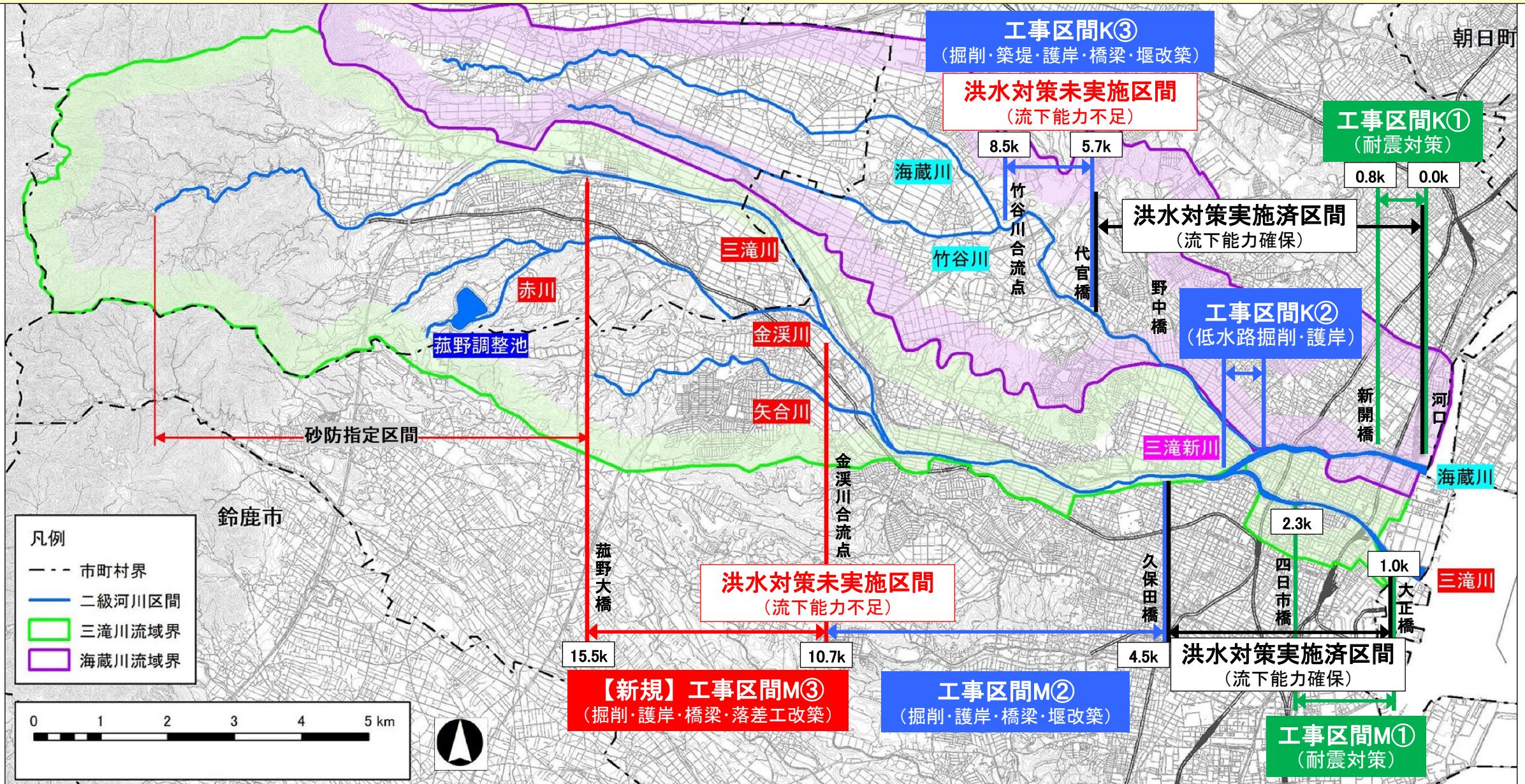
- 耐震対策 **三滝川**: **工事区間①**: 耐震対策(大正橋付近～四日市橋付近)
- 海蔵川**: **工事区間①**: 耐震対策(河口～新開橋付近)



治水計画における見直しの方向性

- 洪水対策 **三滝川**: **工事区間M②**: 久保田橋付近～金溪川合流点に見直す。
工事区間M③: 洪水浸水想定区域・流下能力不足区間であり、さらには工事要望が多いため、**金溪川合流点～菰野大橋付近**を工事区間とする。
- 海蔵川**: **工事区間K③**: 代官橋付近～竹谷川合流点に見直す。
- 三滝新川**: **工事区間K②**: 対策内容を引続き実施する。令和8年度に工事完成予定

- 耐震対策 **三滝川・海蔵川**: **工事区間①**: 洪水対策実施済のため、耐震対策を実施する





目次

1. これまでの経緯 [変更]
2. 流域の概要
3. 現在の計画
4. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
5. 第1回住民アンケート調査結果
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 治水の現状
9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
10. 治水計画における見直しの方向性
- 11. 治水計画の見直し [新規]**
12. 河川整備計画（原案）（案） [新規]
13. 今後の進め方 [変更]



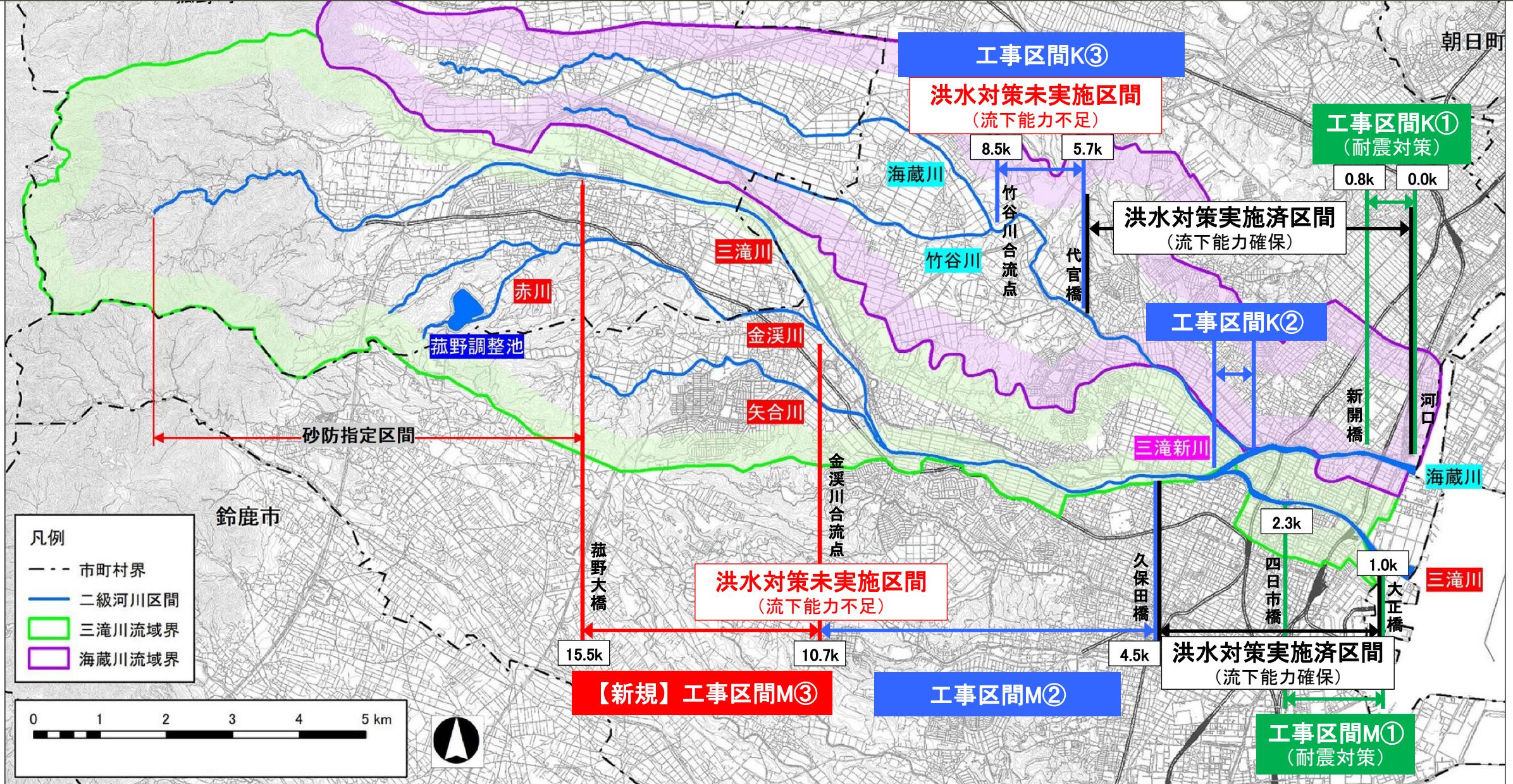


計画対象区間（工事区間）

・ 気候変動を考慮した高水流量およびこれまでの整備状況を踏まえ、工事区間は以下とする。

- 洪水対策 **三滝川**: **工事区間M②**: 久保田橋付近～金溪川合流点(1/50確率)
工事区間M③: 金溪川合流点～菰野大橋付近(新規)
- 海蔵川**: **工事区間K③**: 代官橋付近～竹谷川合流点(1/50確率)
- 三滝新川**: **工事区間K②**: 三滝川分派地点～海蔵川合流点(1/50確率)

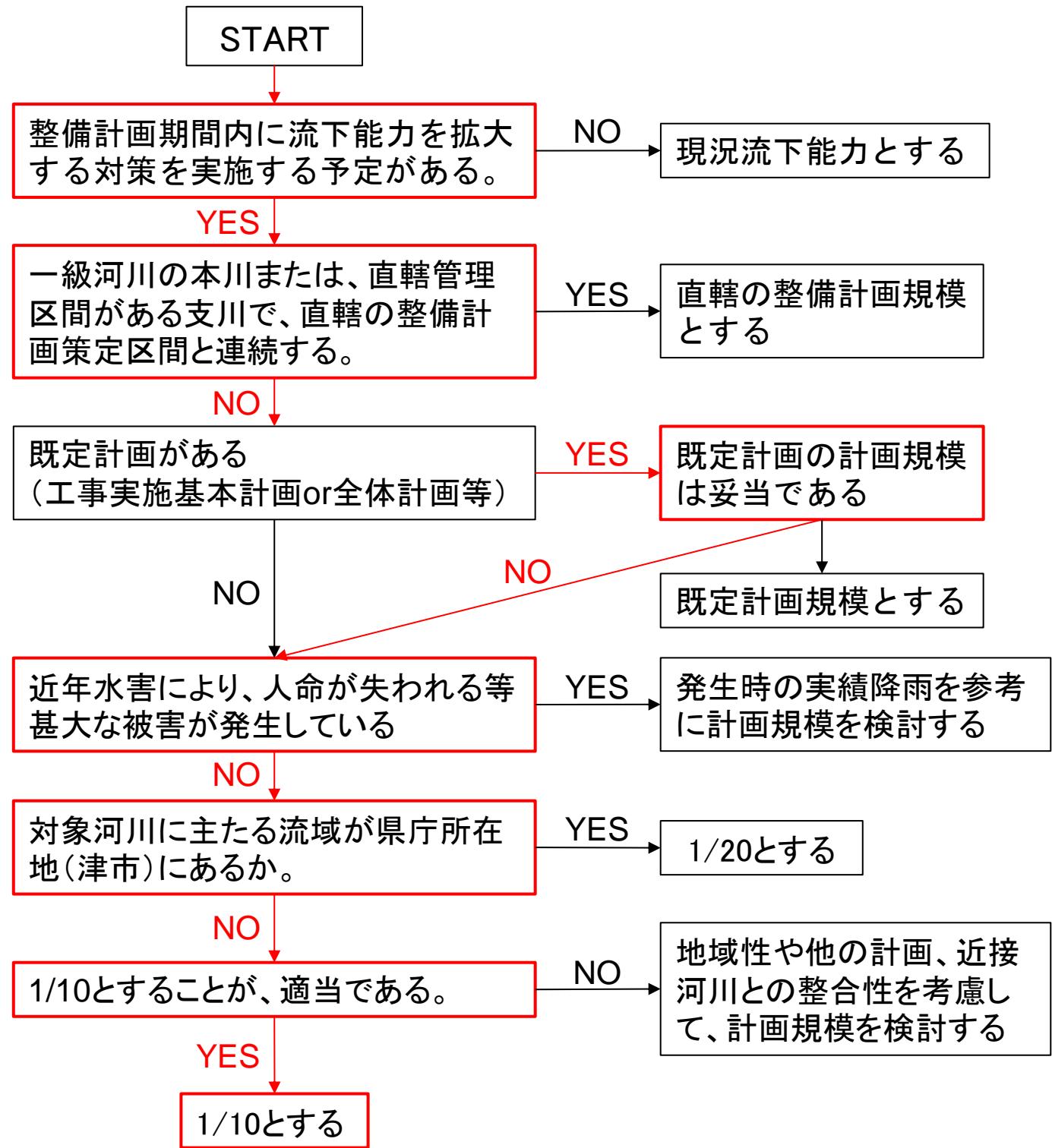
- 耐震対策 **三滝川・海蔵川**: **工事区間M①**および**K①**: 河口付近





■新規工事区間における計画規模の設定理由

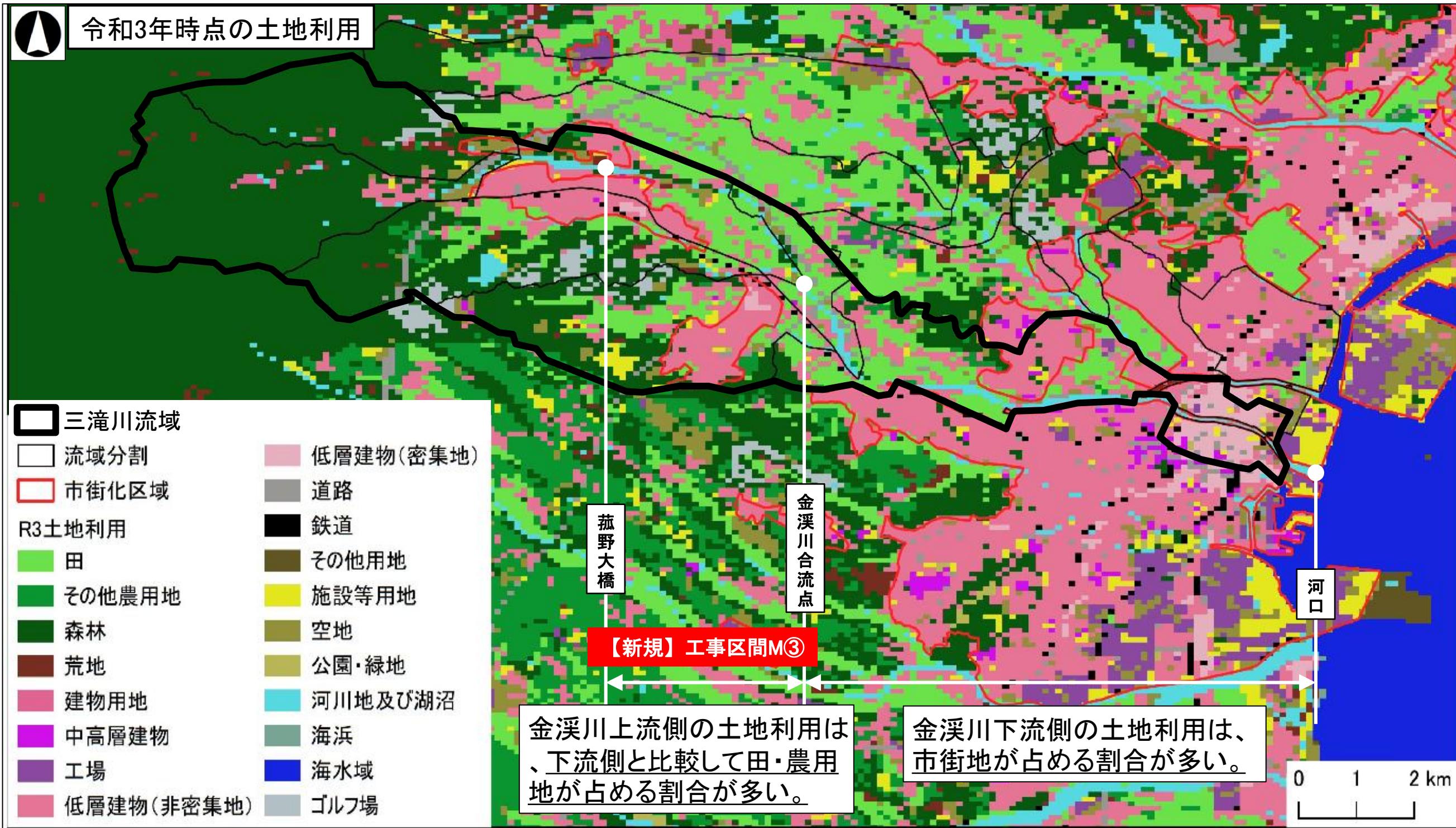
・三重県における河川整備計画規模の設定フロー(案)に基づき評価すると、新規工事区間の計画規模は、年超過確率1/10が適切である。



新規工事区間の状況

- 新規工事区間の現況流下能力は1/10未満であり、対策が必要である。
- 三滝川は二級河川である。
- 現行河川整備計画の工事区間外である。
- 下流の工事区間における計画規模は1/50であるが、下流とは土地利用に違いが見られる。(次頁参照)
- 近年、新規工事区間では、人命が失われる等の甚大な浸水実績はない
- 主たる流域は菰野町および四日市市である。
- 近隣他河川との地域バランスの観点からは、1/10が適切である。(P90参照)

■新規工事区間における計画規模の設定理由



※国土地理院細分メッシュデータより作成

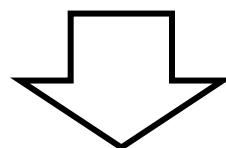
三滝川・海蔵川周辺の土地利用

■新規工事区間における計画規模の設定理由

- 三滝川流域内の治水バランスを考慮すると、新規工事区間の計画規模は年超過確率1/10規模が適切である。
- 既往計画区間は、氾濫原に密集市街地（四日市市）を有し、築堤区間でもあることから、計画規模は年超過確率1/50としている。
- 近隣他河川（朝明川、堀切川）においては、計画規模は年超過確率1/10としている。

近隣他河川における計画規模

河川名	計画規模 (年超過確率)
朝明川（四日市市・菰野町）	1/10
堀切川（鈴鹿市）	1/10
三滝川（金溪川上流）	—

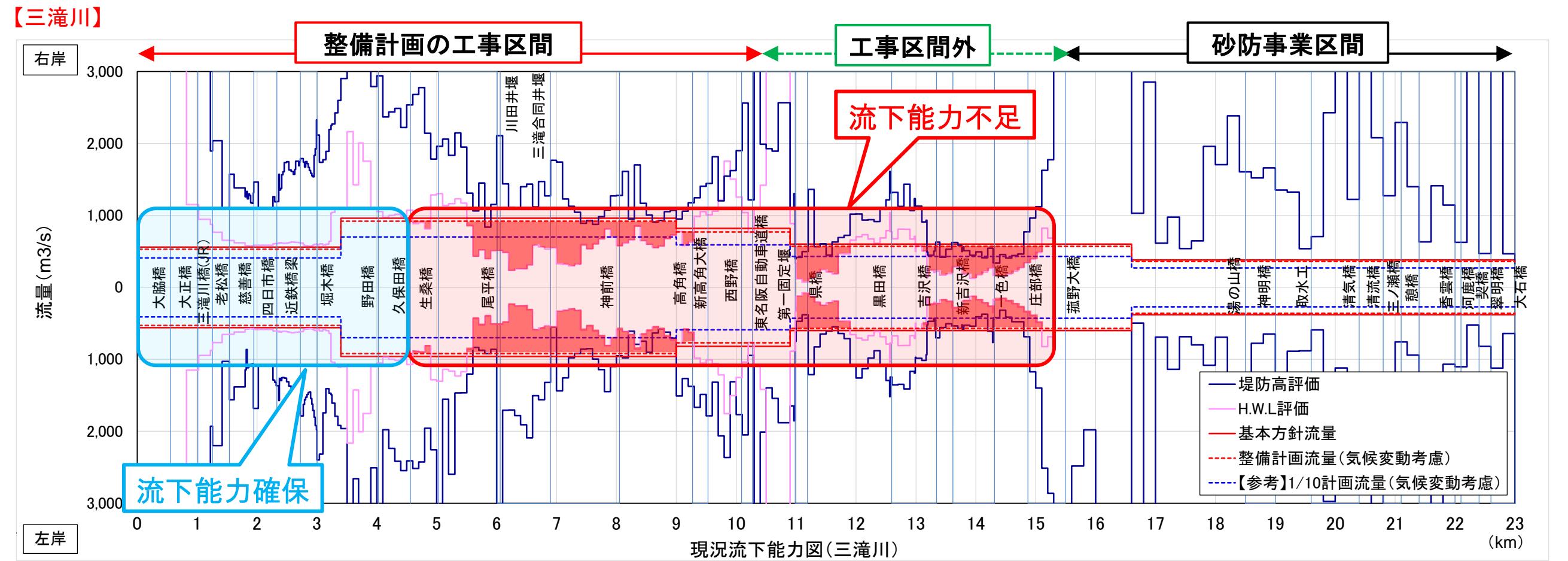


近隣他河川との治水バランスの観点から
計画規模1/10とすることが適切



■現況流下能力（三滝川） 気候変動考慮後

- **三滝川**は、洪水対策実施済区間(河口～久保田橋区間)は、気候変動考慮後の降雨(1/50確率)に対して流下能力を確保している
- **久保田橋～菰野大橋**区間は対策未実施で、計画高水流量に対する流下能力が不足している



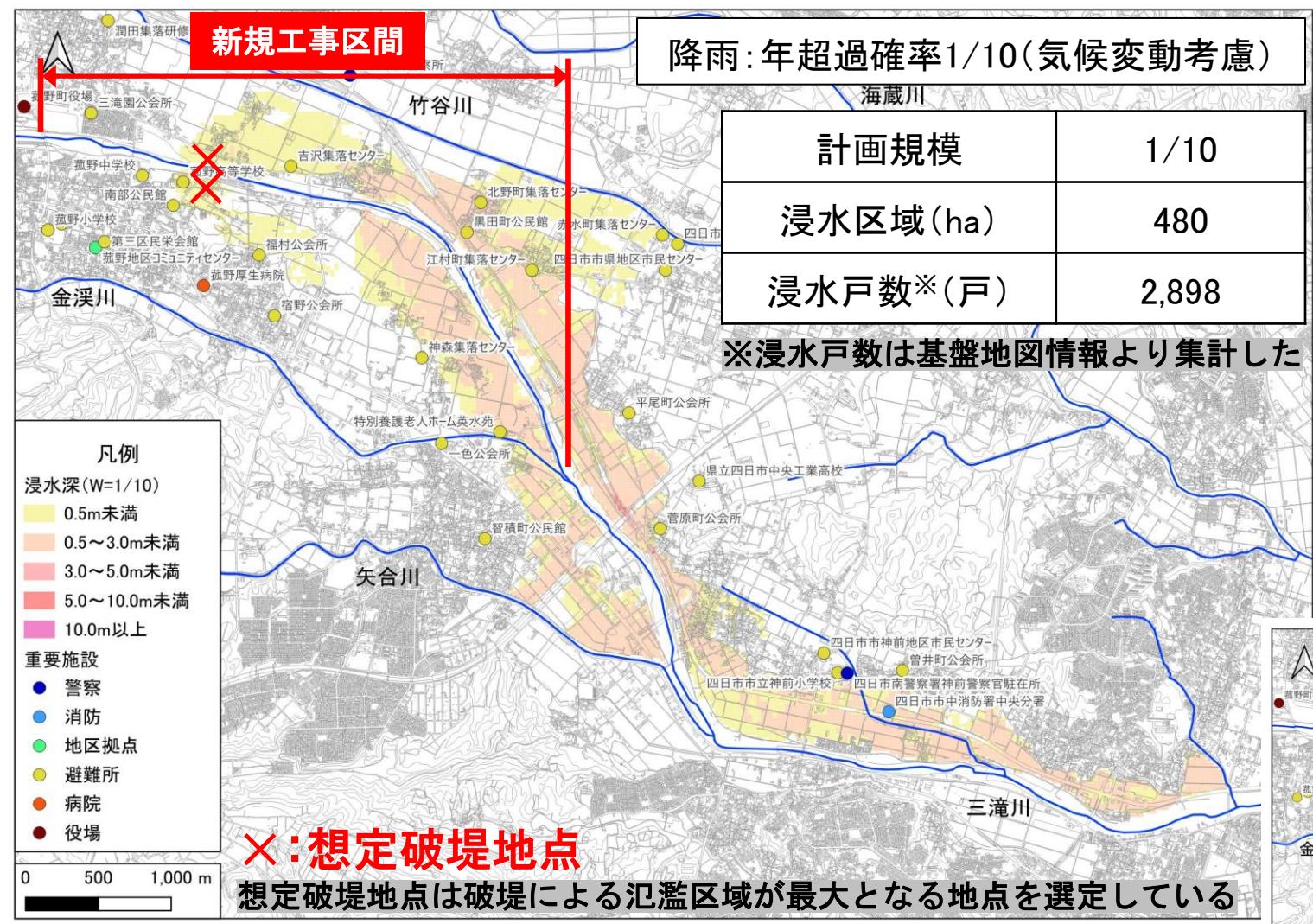
近鉄橋梁架替

洪水対策実施済区間の再対策は不要



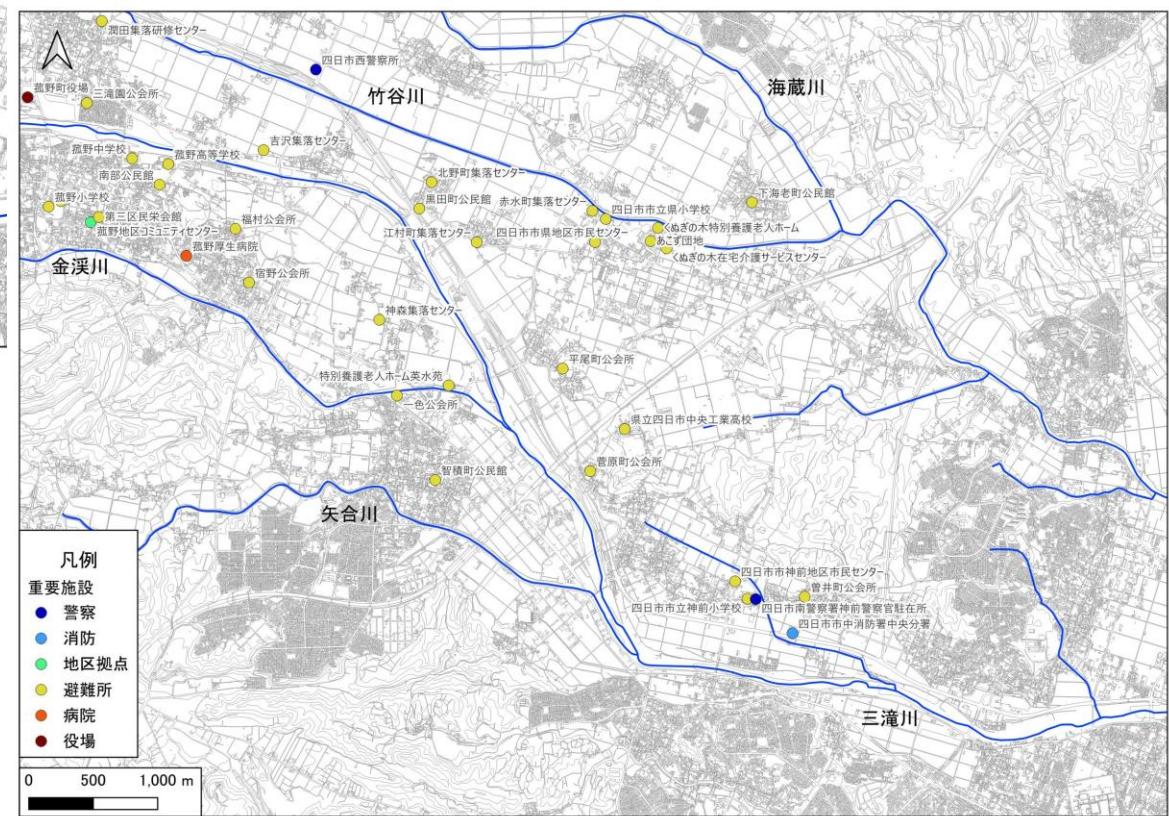
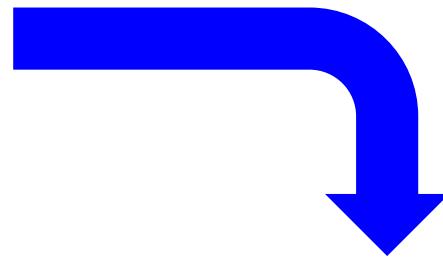
■新規工事区間における改修効果

1/10規模による河川改修により、河川周辺の重要施設・避難施設等の浸水被害が解消・軽減される。



現況河道に対する氾濫解析結果

1/10規模の河川改修により、
浸水被害は解消される



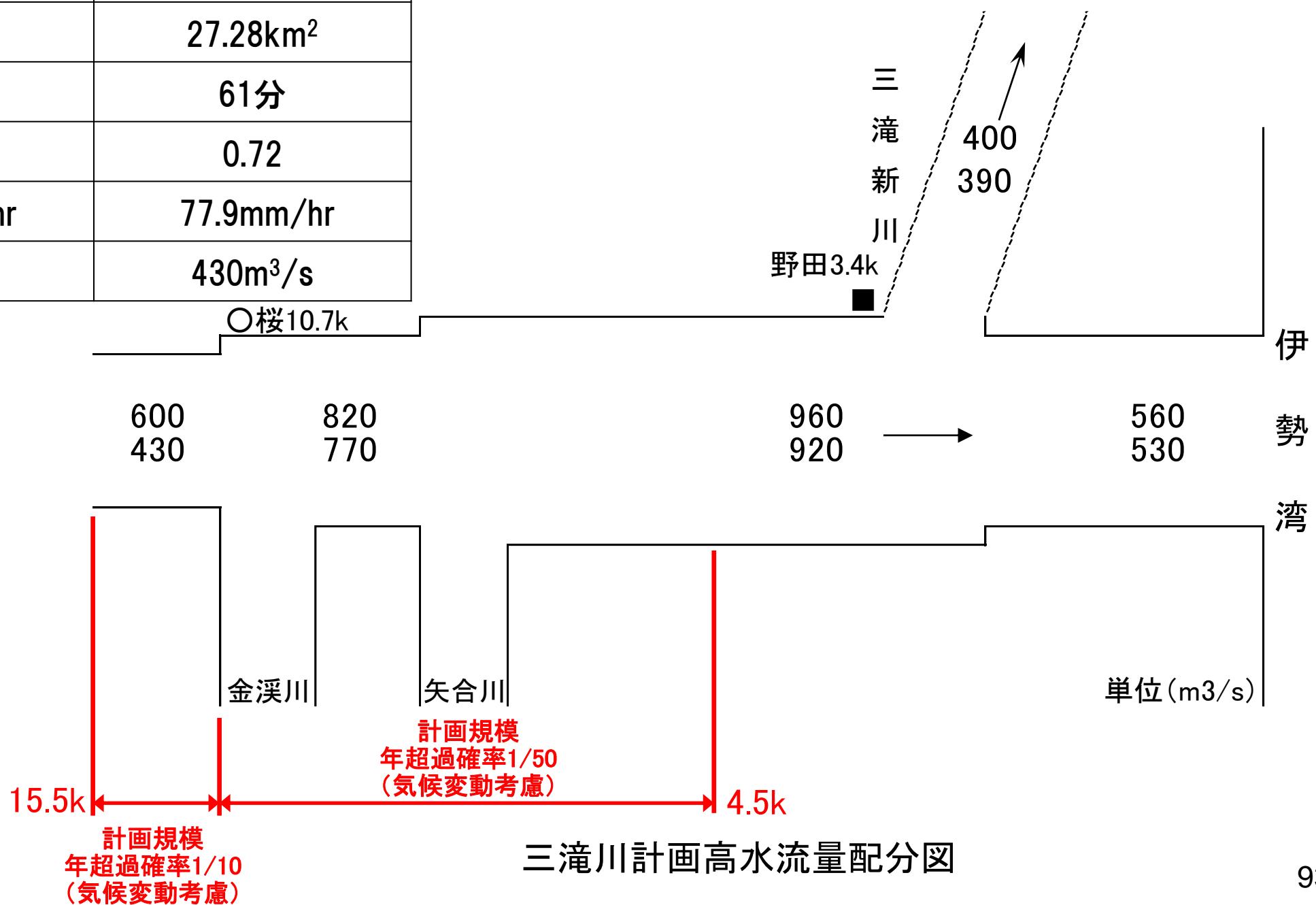
計画河道に対する氾濫解析結果

■計画高水流量（三滝川）

- 河川整備計画における計画高水流量は、下図のとおりとする。
- 工事区間は金溪川合流点から菰野大橋区間を延伸する。

	河川整備計画(気候変動考慮)	
	年超過確率1/50	年超過確率1/10
計画規模	野田	桜(主要地点)
基準地点	野田	桜(主要地点)
流域面積	57.36km ²	27.28km ²
洪水到達時間	119分	61分
流出係数	0.73	0.72
降雨強度	78.9mm/hr	77.9mm/hr
計画高水流量	920m ³ /s	430m ³ /s

凡例
 上段:基本方針(1/80)
 下段:整備計画(1/50~1/10)気候変動考慮

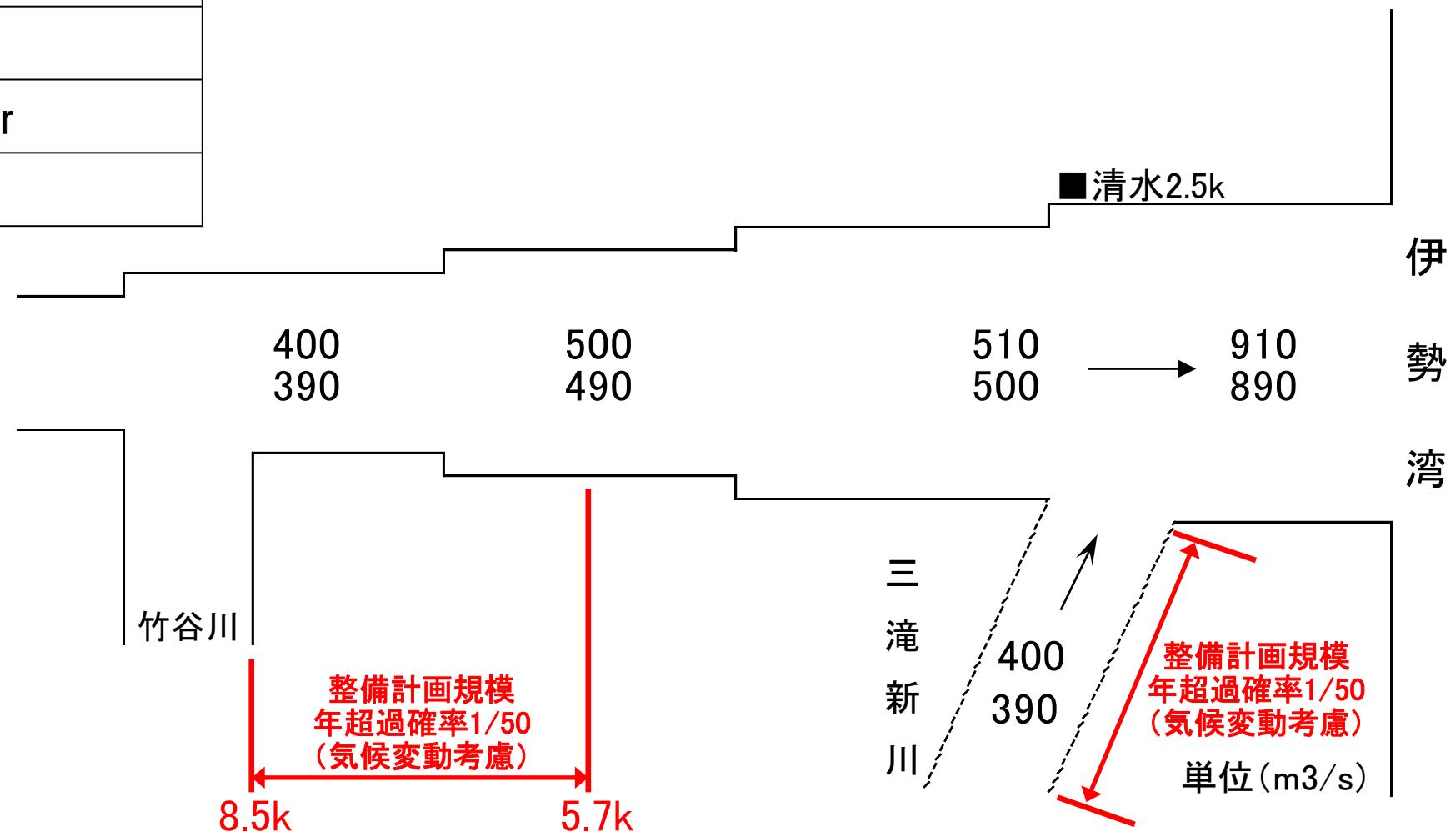


■計画高水流量（海蔵川）

- 河川整備計画における計画高水流量は、下図のとおりとする。
- 工事区間は変更なし。

河川整備計画(気候変動考慮)	
計画規模	1/50
基準地点	清水
流域面積	36.02km ²
洪水到達時間	121分
流出係数	0.73
降雨強度	67.3mm/hr
計画高水流量	500m ³ /s

凡例
 上段:基本方針(1/80)
 下段:整備計画(1/50~1/10)気候変動考慮



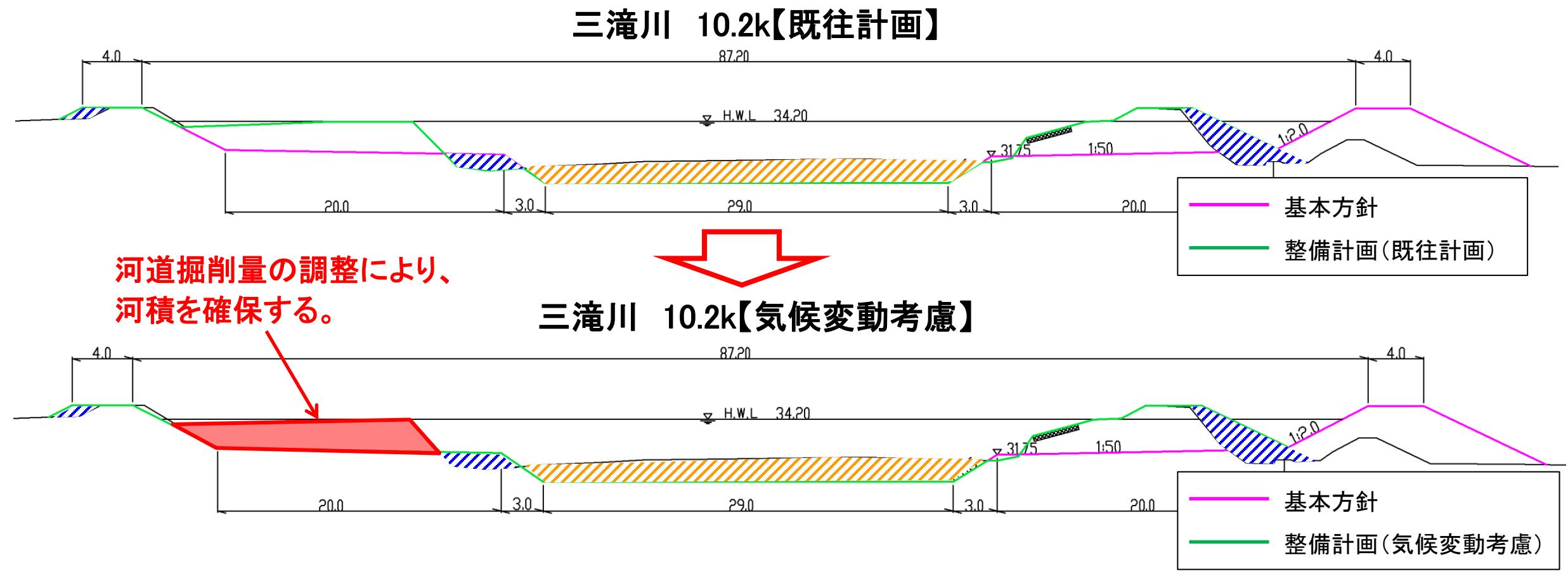
海蔵川計画高水流量配分図

河道計画（標準断面の設定方針）（三滝川）

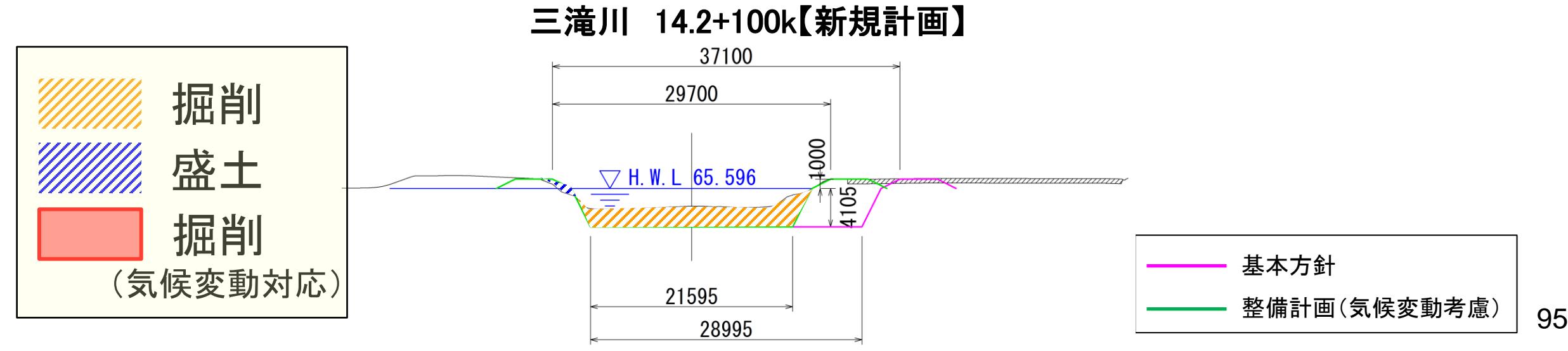


- 既往計画区間は、既往計画で設定された低水路断面を整備し、高水敷部等の掘削量の調整により、気候変動による流量増加に必要な河積を確保する。
- 新規工事区間は、計画高水流量を計画高水位以下で安全に流下させる断面を設定する。

既往計画区間



新規工事区間

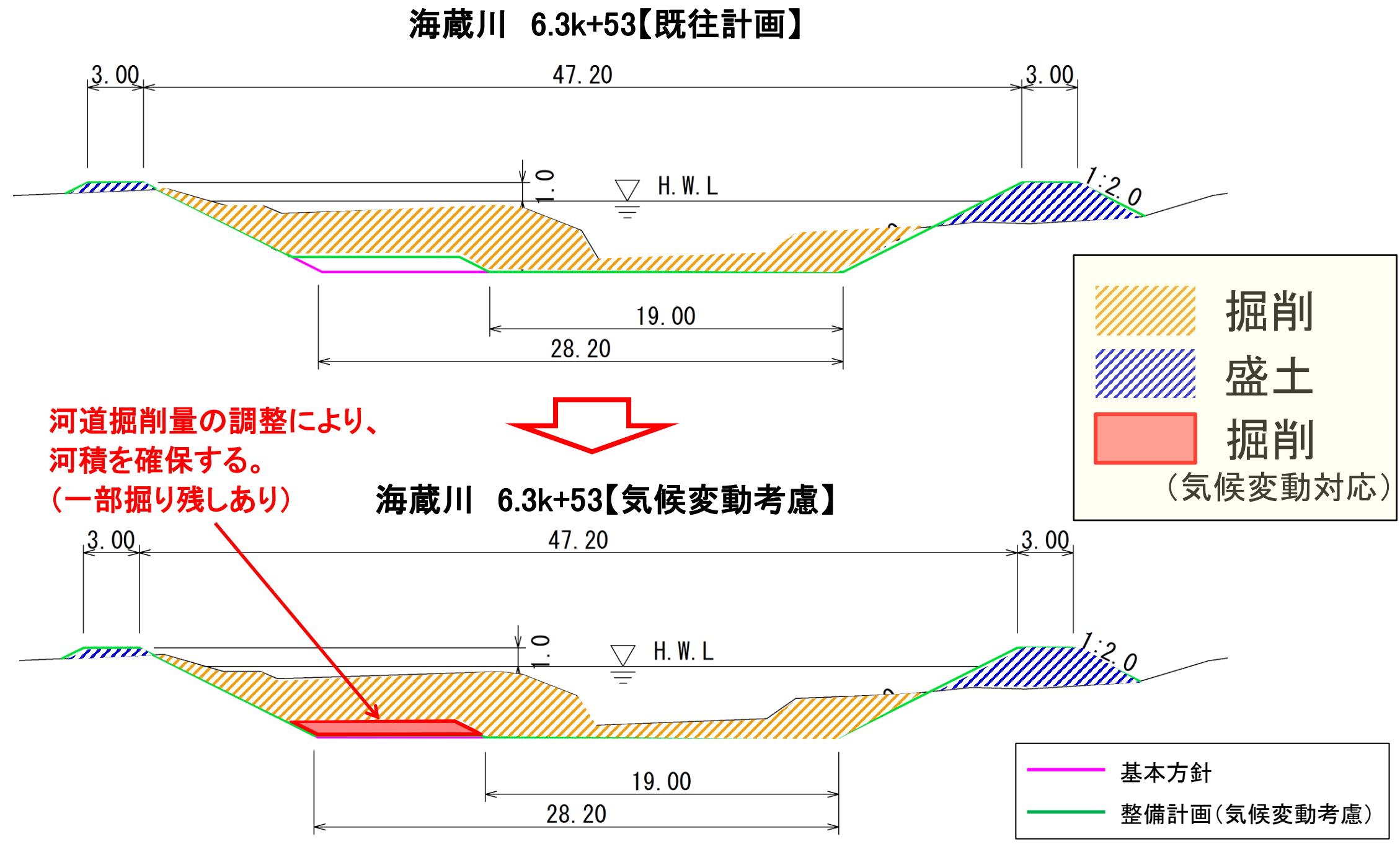


河道計画（標準断面の設定方針）（海蔵川）



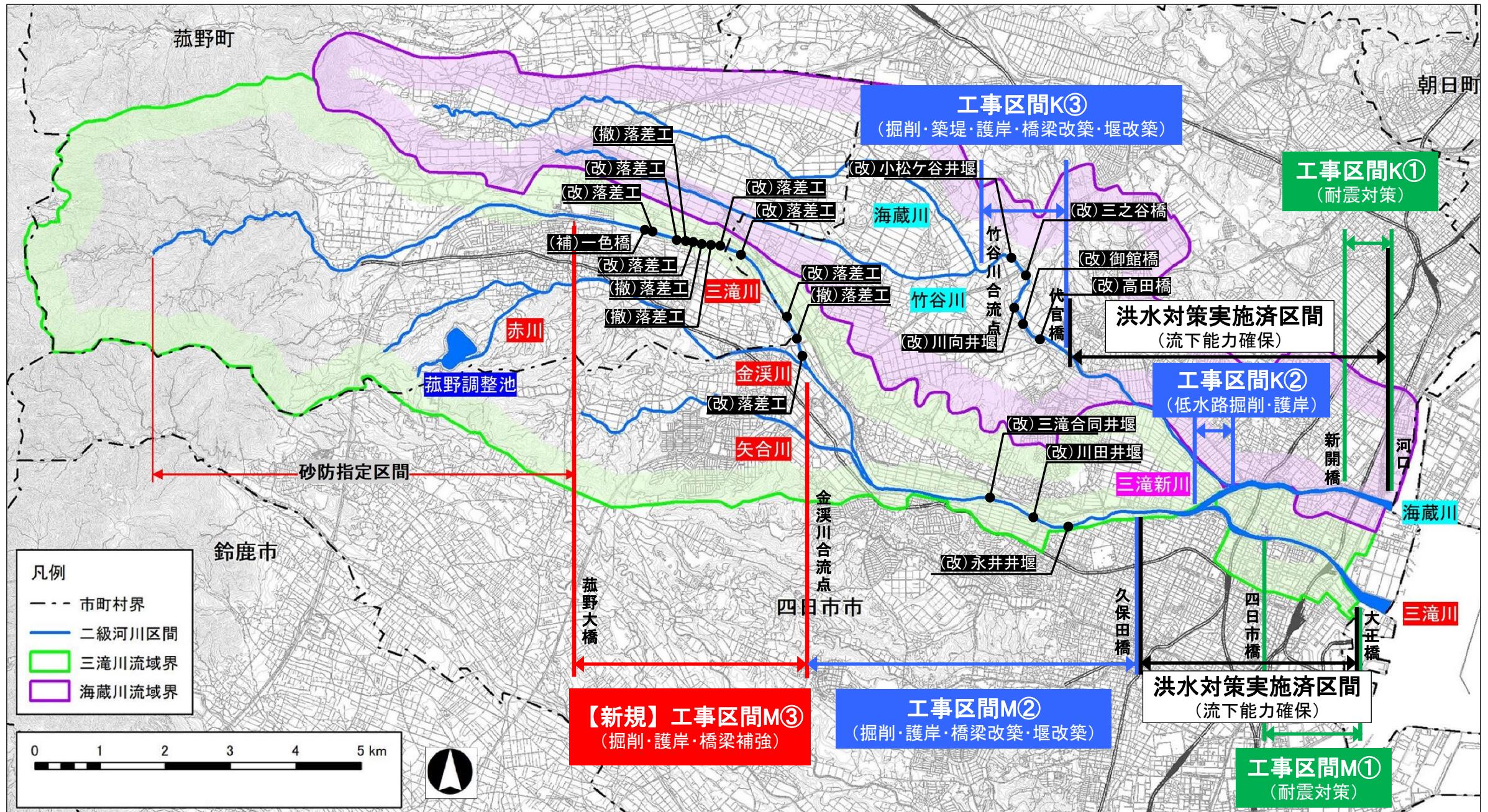
計画全区間は、既往計画で設定された低水路断面を整備し、高水敷部等の掘削量の調整により、気候変動による流量増加に必要な河積を確保する。

既往計画区間



■ 主な河川整備の内容

- 主な河川整備の内容は、掘削、護岸、橋梁・堰改築および耐震対策とする。
- 既往計画区間において、既往計画に対して掘削量が増加する。
- 新規工事区間は、掘削、護岸、橋梁補強とする。





目次

1. これまでの経緯 [変更]
2. 流域の概要
3. 現在の計画
4. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
5. 第1回住民アンケート調査結果
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 治水の現状
9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
10. 治水計画における見直しの方向性
11. 治水計画の見直し [新規]
- 12. 河川整備計画（原案）（案） [新規]**
13. 今後の進め方 [変更]



【三滝川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 河口～久保田橋において洪水対策実施済であり、気候変動考慮後の降雨（1/50確率）の流下能力を有している。 ➤ 久保田橋～金溪川合流点は対策未実施であり、計画高水流量に対する流下能力が不足する区間が多く存在している。 ➤ 金溪川合流点～菰野大橋は対策未実施であり、工事要望が多い。 ➤ 菰野大橋から上流は、計画高水流量に対して十分な流下能力を有している。 ➤ 河口部において堤防の耐震性能が不足している区間がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 流下能力不足区間の解消 ➤ 気候変動を踏まえた治水計画の見直し ➤ 整備計画工事区間の見直し検討 ➤ 堤防耐震対策の推進

【海蔵川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 河口～代官橋において洪水対策実施済であり、気候変動考慮後の降雨（1/50確率）の流下能力を有している。 ➤ 代官橋から上流は対策未実施であり、計画高水流量に対する流下能力が連続して不足している。 ➤ 河口部において堤防の耐震性能が不足している区間がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 流下能力不足区間の解消 ➤ 気候変動を踏まえた治水計画の見直し ➤ 堤防耐震対策の推進

【三滝川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 許可水利権5件、慣行水利権27件があり、約473haに及ぶ耕地のかんがい用水として利用されている。 ➤ 観光地や歴史的な市場があるなど、都市の貴重なオープンスペースとして地域住民の散歩やレクリエーションに活用されている。 ➤ アンケート結果からは、散歩やジョギングなど、整備された河川敷や堤防を活動の場とする利用形態が多いことが推察された。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 水利用の効率化を促進し、既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境の維持・改善 ➤ 河川愛護のための啓発活動や住民との協働による維持管理等の取り組み

【海蔵川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 許可水利権3件、慣行水利権75件と水利権が多く、約849haに及ぶ耕地のかんがい用水として利用されている。 ➤ 下流区間では高水敷が緑地として整備され、河口には霞ヶ浦緑地が隣接し、市民のレクリエーションの場として利用されている。 ➤ アンケート結果からは、散歩やジョギングなど、整備された河川敷や堤防を活動の場とする利用形態が多いことが推察された。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 水利用の効率化を促進し、既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境の維持・改善 ➤ 河川愛護のための啓発活動や住民との協働による維持管理等の取り組み

【三滝川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 河口2k付近までは感潮区間であり、小規模な干潟がみられる。 ➤ 下流域はヨシ群落などの水際植生があり、水域では回遊魚・汽水魚・淡水魚など多様な魚種が生息する。 ➤ 中流域～上流域は河畔林が多くみられ、樹林性鳥類が生息するほか、水域ではスナヤツメやアカザなどの重要種もみられる。 ➤ 全区間で良好な水質が維持されている。 ➤ アンケート結果から、河畔の樹林帯は自然の豊かさを感じさせる一方で、水害に対する不安要素のひとつにもなっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 治水・利水面との調和を図りつつ、自然環境の保全・創出 ➤ 良好な水質の保持

【海蔵川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 下流域はクサヨシ群落などの水際植生があり、緩やかな流れの水域ではカモ類やサギ類などの鳥類がみられる。 ➤ 中流域は、かんがい期には堰上げによる湛水域が多くみられ、イトモロコやミナミメダカなど緩やかな流れを好む魚種が多くみられる。 ➤ 中流域～上流域は、水際にツルヨシ、法面にチガヤ等の植生が繁茂する。 ➤ アンケート結果から、約半数の人が自然が豊かな川と感じており、多くは植生が豊かであることを理由に挙げている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 治水・利水面との調和を図りつつ、自然環境の保全・創出 ➤ 良好な水質の保持



項目	方向性
洪水高潮	<ul style="list-style-type: none"> ●本整備計画では、気候変動による降雨量の増大を考慮した上で、年超過確率1/50相当(金渓川合流点～菰野大橋区間は1/10相当)の降雨に対応する規模の洪水を安全に流下させることを目標とする。 ●河川改修については河床掘削、護岸整備及び橋梁等の工作物の改築・補強により流下能力の拡大を図る。 ●河川内に堆積した土砂等により河積が阻害され、出水時に危険が予想される場合には、堆積土砂の撤去を検討する。 ●河道内の樹木について、流水の阻害や河川構造物に悪影響を与える場合は、必要に応じて伐採を検討する。 ●計画規模を上回る洪水や整備途上段階における洪水による被害を最小限に抑えるよう、ソフト対策を進める等、総合的な被害軽減対策を関係機関や地域住民と連携して推進する。 ●洪水による被害軽減を図るため、流域のあらゆる関係者の協働による総合的かつ多層的な治水対策(流域治水)について、関係機関と連携して推進する。
地震津波	<ul style="list-style-type: none"> ●堤防の耐震対策を実施し、地震発生時における河川管理施設の既往の確保を図る。 ●津波に対しては、人命が損なわれないことを最優先し、津波防災地域づくりと一体となった総合的な津波対策を推進し、減災を目指す。
河川利用	<ul style="list-style-type: none"> ●動植物の生息・生育・繁殖環境の保全および利水の安定的な取水に必要な流量の確保を目指し、水量の監視を行う。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ●流域内河川の自然環境及び河川利用の実態把握に努め、治水・利水面との調和を図りつつ、自然環境の保全と創出に努める。

河川整備計画(原案)(案)の方向性(海蔵川)

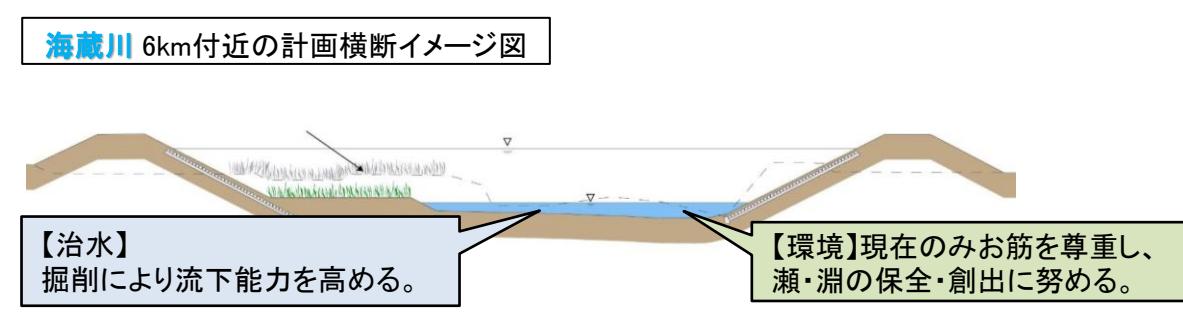
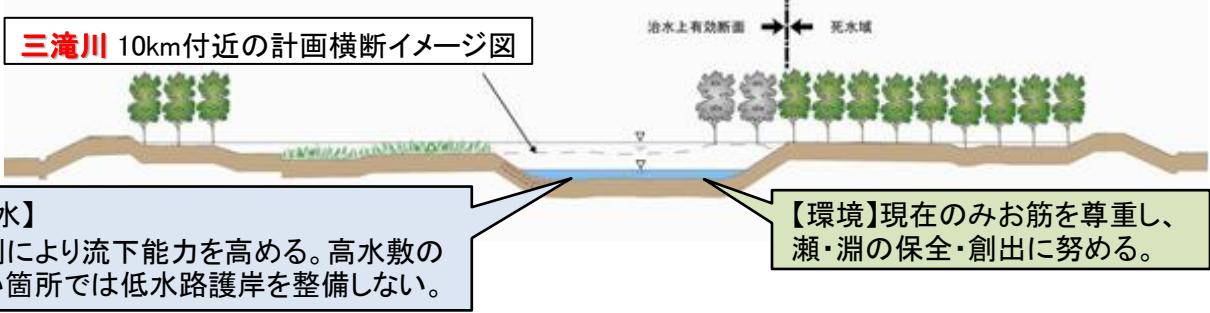
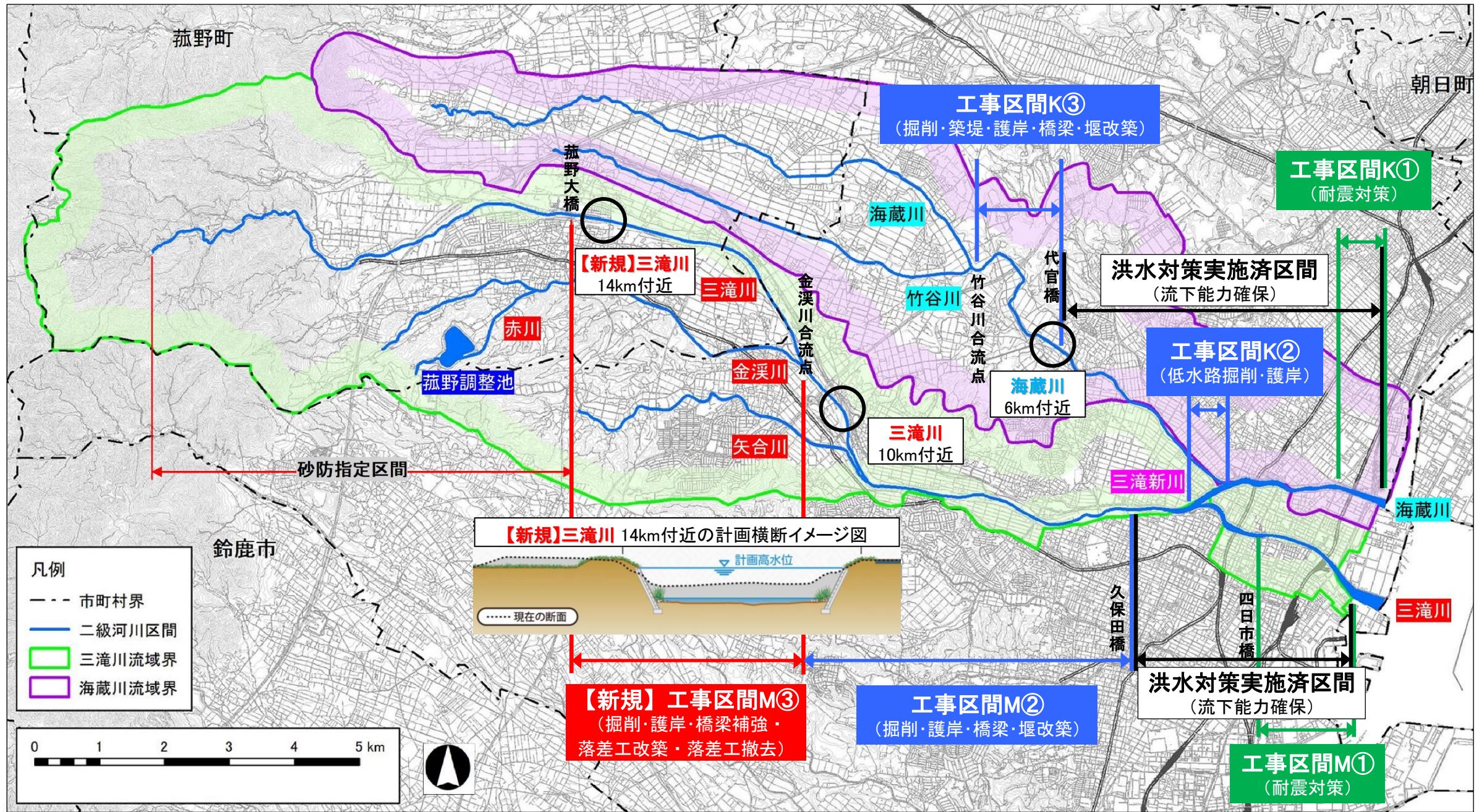


項目	方向性
洪水高潮	<ul style="list-style-type: none"> ●本整備計画では、気候変動による降雨量の増大を考慮した上で、年超過確率1/50相当の降雨に対応する規模の洪水を安全に流下させることを目標とする。 ●河川改修については河床掘削、護岸整備及び橋梁等の工作物の改築・補強により流下能力の拡大を図る。 ●河川内に堆積した土砂等により河積が阻害され、出水時に危険が予想される場合には、堆積土砂の撤去を検討する。 ●河道内の樹木について、流水の阻害や河川構造物に悪影響を与える場合は、必要に応じて伐採を検討する。 ●計画規模を上回る洪水や整備途上段階における洪水による被害を最小限に抑えるよう、ソフト対策を進める等、総合的な被害軽減対策を関係機関や地域住民と連携して推進する。 ●洪水による被害軽減を図るため、流域のあらゆる関係者の協働による総合的かつ多層的な治水対策(流域治水)について、関係機関と連携して推進する。
地震津波	<ul style="list-style-type: none"> ●堤防の耐震対策を実施し、地震発生時における河川管理施設の既往の確保を図る。 ●津波に対しては、人命が損なわれないことを最優先し、津波防災地域づくりと一体となった総合的な津波対策を推進し、減災を目指す。
河川利用	<ul style="list-style-type: none"> ●動植物の生息・生育・繁殖環境の保全および利水の安定的な取水に必要な流量の確保を目指し、水量の監視を行う。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ●流域内河川の自然環境及び河川利用の実態把握に努め、治水・利水面との調和を図りつつ、自然環境の保全と創出に努める。

河川整備計画(原案)(案)の概要(計画平面図)



整備計画区間



河川整備計画(原案)(案)の概要(流域治水)



四日市圏域二級水系流域治水プロジェクト【位置図】

～三重県最大の都市圏域を守る外水・内水対策が一体となった流域治水の推進～

- 四日市圏域では、昭和34年の伊勢湾台風、昭和49年の集中豪雨、平成12年の東海豪雨等において、外水氾濫および内水氾濫により、大きな被害が発生している。全国的に激甚な水害が近年頻発している状況や、今後見込まれる気候変動による降雨量の増大等を踏まえ、当圏域において事前防災対策を進める必要がある。
- 四日市圏域においては、中下流部に三重県最大の市街地が形成され、臨海部には工業地帯が集積し、国道や鉄道など重要な交通網が集中している。
- 出水時には多くの住民、多大な資産に影響を及ぼすものとなるが、その被害の要因は外水による被害だけでなく、内水による被害も大きいものとなっている。
- 当圏域における二級水系流域治水プロジェクトでは、河川改修による外水の氾濫対策と下水道整備による内水の氾濫対策が一体となったハード対策を中心に行うとともに、圏域全体において、ハザードマップの作成や防災訓練による被害軽減対策等を実施することで、浸水被害の低減を図る。

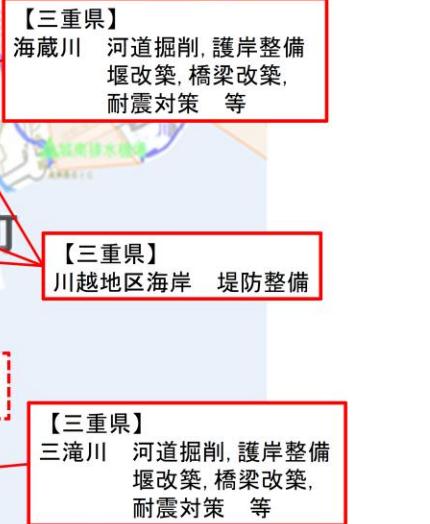
- 赤線：氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 黄線：被害対象を減少させるための対策
- 緑線：被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

広域的に行う対策

- ・下水道(雨水排水)施設の整備、耐水化
- ・ポンプ場の整備・砂防堰堤、治山ダムの整備
- ・農業用ため池の活用
- ・森林整備、保全

- ・立地適正化計画における防災指針の作成・検討
- ・土砂災害特別警戒区域外への住宅移転支援

- ・水害リスク情報の空白域の解消(洪水・高潮ハザードマップなどの策定・周知)
- ・土砂災害警戒区域等の指定・発表
- ・持続的な水災害教育の実施と伝承(出前講座、講演会、防災教育の支援の実施)
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性の確保
- ・高齢者等の避難行動への理解促進(避難行動要支援者の個別計画の作成)
- ・防災訓練の実施(図上訓練、避難訓練)
- ・流域の水災害の早期把握に資する防災情報の提供(SNS・防災アプリを活用した防災情報の継続的な情報発信、危機管理型水位計・河川監視カメラの設置、防災気象情報の改善)
- ・企業等と連携した避難体制等の確保(災害協定による一時避難場所の確保)
- ・広報誌等を活用した継続的な情報発信(防災アプリを使った避難情報の配信)
- ・排水ポンプ車の配備・運用等



- 凡例
- 流域界
 - 浸水想定区域(想定最大規模)
 - 県管理区間
 - 県管理区間の対策
 - 市町管理区間の対策





目次

1. これまでの経緯 [変更]
2. 流域の概要
3. 現在の計画
4. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
5. 第1回住民アンケート調査結果
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 治水の現状
9. 気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
10. 治水計画における見直しの方向性
11. 治水計画の見直し [新規]
12. 河川整備計画（原案）（案）の概要 [新規]
- 13. 今後の進め方 [変更]**





第1回 流域委員会（令和6年8月23日）

- ✓流域の概要、現地視察
- ✓治水、利水、環境の現状と課題

第1回アンケート （令和6年12月～令和7年1月）

- ✓関係住民の意見聴取
（流域の概要、治水、利水、環境の
現状と課題）

第2回 流域委員会（令和7年5月13日）

- ✓気候変動を踏まえた高水計画の検討と課題
- ✓治水計画における見直しの方向性

第3回 流域委員会（令和7年9月25日）

- ✓河川整備計画(原案)(案)

今回



第2回アンケート （令和7年10月）

- ✓関係住民の意見聴取
（河川整備計画(原案)(案)）

次回

第4回 流域委員会（令和7年 冬頃）

- ✓河川整備計画(原案)

関係機関協議・パブコメ・関係市町長意見聴取

河川整備計画策定(令和7年度中)

三滝川流域・海蔵川流域の計画の考え方

三滝川流域・海蔵川流域では今後30年における川づくりの具体的な内容を定める河川整備計画を見直します。

平成18年に河川整備計画が作成された後、約20年整備を進めてきたことから、計画の見直しを行います。治水対策は、気候変動による降雨量の増大を踏まえた治水計画へ見直します。また、三滝川の金渓川合流点から上流区間を新規計画区間とします。

三滝川流域・海蔵川流域の河川整備計画(原案)(案)の概要

治水対策(洪水・高潮・地震)

三滝川・海蔵川

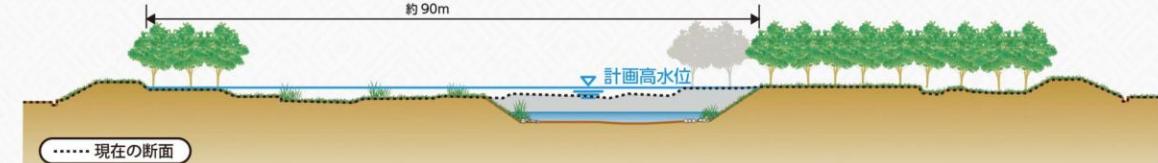
- 三滝川の治水対策は、気候変動による降雨量の増大を考慮した上で、年超過確率1/50相当(金渓川合流点～菰野大橋区間は1/10相当)の降雨に対応する規模の洪水を安全に流下させることを目標とします。
- 海蔵川の治水対策は、気候変動による降雨量の増大を考慮した上で、年超過確率1/50相当の降雨に対応する規模の洪水を安全に流下させることを目標とします。
- 河川改修については河床掘削、護岸整備及び橋梁等の工作物の改築・補強により流下能力の拡大を図ります。
- 計画を上回る洪水や整備途上段階における洪水による被害を最小限に抑えるよう、ソフト対策を進める等、総合的な被害軽減対策を関係機関や地域住民と連携して推進します。

三滝新川

- 分派完成に向けて、引続き、低水路掘削・護岸整備等を進めます。

三滝川

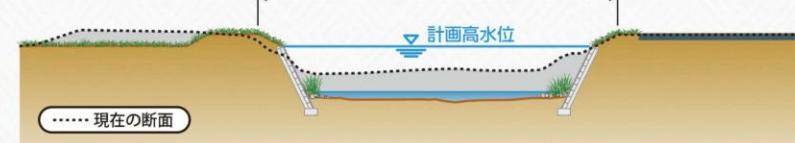
三滝川 河口から10km付近



工事区間	距離	整備内容
工事区間 M①	約1.0k～約2.3k	大正橋付近から四日市橋付近
工事区間 M②	約4.5k～約10.7k	久保田橋付近から金渓川合流点

三滝川

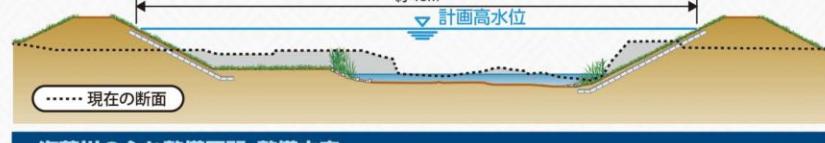
三滝川 河口から14km付近



工事区間	距離	整備内容
工事区間 M③	約10.7k～約15.5k	金渓川合流点から菰野大橋付近

海蔵川

海蔵川 河口から6km付近



工事区間	距離	整備内容
工事区間 K①	約0.0k～約0.8k	河口から新開橋付近
工事区間 K③	約5.7k～約8.5k	代官橋付近から竹谷川合流点



利水・環境

- 動植物の生息・生育・繁殖環境の保全および利水の安定的な取水に必要な流量の確保を目指し、水量の監視を行います。
- 流域内河川の自然環境及び河川利用の実態把握に努め、治水・利水面との調和を図りつつ、自然環境の保全と創出に努めます。

維持管理

- 河川内に堆積した土砂等により河積が阻害され、出水時に危険が予想される場合には、堆積土砂の撤去を検討します。土砂の撤去の際には、平坦な河床としないなど、極力現況の自然環境へ配慮します。
- 河道内の樹木については環境面を配慮し極力保全していきます。なお、流水の阻害や河川構造物に悪影響を与える樹木等については、必要に応じ伐採します。

※年超過確率 1/〇:毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が 1/〇であることをいう。

流域治水 の取り組みを進めています。

三滝川流域・海蔵川流域では、気候変動による水害リスクの増大を踏まえ、河川整備計画に基づく河川改修を進めるとともに、流域に関わるあらゆる関係者が協力して、流域全体で水害を軽減させるための治水対策である「四日市圏域二級水系流域治水プロジェクト」が進められています。
このプロジェクトでは、①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策に取り組んでいます。



① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河川改修・堆積土砂の撤去・ダム建設などの治水対策、田んぼダムや農業用ため池を活用した雨水貯留対策、森林整備による保水力の向上などを推進しています。

農業用ため池の活用
大雨が予測される際にあらかじめ水位を下げることで大雨を一時的に溜めて、一度に川へ流れ込む水の量を抑えます。

田んぼダムの普及・啓発
田んぼの排水口に堰板などを設置し、雨水が川や排水路へ、すぐに流れ込むことを抑制します。

② 被害対象を減少させるための対策

浸水想定区域など水災害リスクを把握し、よりリスクの低い地域への居住を促すなど、まちづくりや住まいの工夫を行っています。

立地適正化計画に基づく防災指針の作成
市町が立地適正化計画に基づく「防災指針」を策定し、水災害リスク等を踏まえた住居や都市機能の安全な場所への計画的な誘導を進めています。

③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

ハザードマップの作成・公表や、インターネット・SNSによる河川水位情報・降雨情報の発信などを推進しています。

防災情報の提供
(ハザードマップ、簡易型河川監視カメラ、危険管理型水位計等)
頻発する豪雨災害への備えとして、「危険管理型水位計」、「簡易型河川監視カメラ」を設置し、水災害の早期把握に資する情報提供を行います。



防災情報を活用しましょう

水災害リスクを知る

下記のウェブサイトなどを活用して、危険性を知ることから始めよう。

- 四日市市/各種防災ハザードマップ
四日市市のホームページで、津波・洪水・高潮・内水(雨水出水)・土砂災害・ため池・地震の各種ハザードマップが公開されています。
- 菟野町/各種防災マップ
菟野町のホームページで、洪水・土砂災害の防災マップや、ため池ハザードマップが公開されています。

水災害から身を守る行動をする

最新情報を入力し、適切なタイミングで安全に避難しましょう。

- 川の防災情報
豪雨などの際に、川の水位情報や河川ライブカメラの画像をリアルタイムで入手できます。
- キキクル(危険度分布)
大雨による土砂災害・浸水害・洪水災害の危険度の高まりを、地図上で確認できるシステムです。災害の危険度を5段階で色分けしてリアルタイムに表示します。
- 防災みえ.jp
気象・台風・地震に関する情報、防災情報などを配信している総合防災サイトです。

防災アプリで災害に備える

三重県公式防災アプリ「みえ防災ナビ」で災害に備えよう!

- みえ防災ナビ
県では、今後予想される、南海トラフ地震などの災害発生に備え、県民の皆さんや県内に旅行に来られる方の避難を支援するための各種防災情報を提供する三重県公式防災アプリ「みえ防災ナビ」を運用しています。
- 三重県公式防災アプリ
地震・気象情報、避難場所等、ハザードマップ

問 4. 流域治水の取組についてお聞きします。

三重県では、気候変動による水害リスクの増大を踏まえ、河川や下水道の管理者だけでなく、流域に関わるあらゆる関係者が協力して、流域全体で水災害を軽減させる「流域治水」を進めています。

【パンフレットの「流域治水の取り組みを進めています」を参考にお答えください】

- ⑨「流域治水」という言葉やその意味を知っていましたか？(1つ選択)
- A. 「流域治水」という言葉とその意味を知っていた。
 - B. 「流域治水」という言葉は聞いたことがあったが、その意味は知らなかった。
 - C. 「流域治水」という言葉は聞いたことがなかった(パンフレットを見て初めて知った)
- ⑩どのような流域治水の取組が大切だと思いますか？(複数選択可)。
- A. 農業用ため池の活用(大雨が予測される際にあらかじめ水位を下げることによって大雨を一時的に溜めて、一度に川へ流れ込む水の量を抑える)
 - B. 田んぼダムの普及・啓発(田んぼの排水口に堰板等を設置し、雨水が川や排水路へ、すぐに流れ込むことを抑制する)
 - C. 立地適正化計画の策定(市町が立地適正化計画に基づく「防災指針」を策定し、水災害リスク等を踏まえた住居や都市機能の安全な場所への計画的な誘導を進める)
 - D. 防災情報の提供(頻発する豪雨災害への備えとして「危険管理型水位計」「簡易型河川監視カメラ」を設置し、水災害の早期発見に資する情報提供を行う)
 - E. その他()
- ⑪近年、豪雨災害等に対する住民の迅速な避難行動を促すために、ウェブサイトやスマホアプリ等による、気象警報・注意報、雨量、川の水位等の防災情報が提供されています。あなたが知っているまたは利用したことがある防災情報をお答えください。(複数選択可)

【パンフレットの「防災情報を活用しましょう」を参考にお答えください】

- A: 四日市市防災ハザードマップ(四日市市)
- B: 菟野町防災マップ(菟野町)
- C: 川の防災情報(国土交通省)
- D: キキクル(気象庁)
- E: 防災みえ(三重県)
- F: みえ防災ナビ(三重県)
- D: 利用したことがある防災情報はない

⑫流域治水の取組について、その他ご意見がありましたらお答えください。

[]

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。